0002521001

0002521-001

４２３－２８８

時事統計図集

日本統計普及会・編

日本統計普及会

第２巻　第１１，１２輯

昭和４

AAD

第二卷

時事統計圖集

第十一輯

我國工業概觀

東京本鄉

日本統計普及會

日本統計普及會趣旨

一國の政治、經濟、產業、學術とあらゆる方面の計畫を立案し、又國民日常の生活に於ても凡ての、統計を基調として考量せねばならぬ事は　今更ら呶々を要せぬが、確的な論據と、正實な基礎とが要求する處から、近時我國に於ける統計觀念が益々重要視され、從つて諸方面にその機關が設立される有樣とはなつた。即ち國運の進展國力の增進に伴て、物象悉く紛糾し、錯雜すべきは瞭かな譯であり、不完全な推理、昧醞な觀察では滿足せぬ時代となつた事を證するのみならず、事實の眞相を徹底的に剖判智得せんとする、實に立派な氣運に向つたのである。

然し乍ら統計に關する機關の設立も、亦慶すべき此現象も一般民衆的には利用されて居らぬ。つまり是等發表機關の相互間に於ける一定の聯絡なく、貴重なる資料類も關係者以外には徒らに繁瑣な數字の概念として埋もれ、而も無意義な矛盾と、重複とに力を勞する事が一般化されぬ重なる原因であらうと思はれる。

如何に貴重なる資料き遂に公開運用の機會なくして一般世人に忘却せられんとする現時の狀態を、遺憾とするの餘り、玆に「日本統計普及會」を設立せる所以である。

日本統計普及會は、一致協力して資料の蒐集に努力し、これを以て完全なる「統計圖集」を刊行し、從來の數字的繁雜に煩はされることなく、一見直ちに現象を指示すると共に豐潤な、想像の翼を自在に伸暢せしめるのみでなく、又時代り趨勢記錄を、感興深く後世に貽し得るのであつて、凡ての事象の調査研究の振作を圖り、日常必須の參考圖彙となるのは、申す迄もない。圖集撰定の方法に到りては、例令ば一事の現象に對しても微に入り細を穿つて遺憾なからしめ、世界の趨勢を一目の裡に鐘めて、統計の使命をして完全ならしめんとする念願に過ぎぬ。

別項の規條を一覽せられ、世の識者の擧つて一臂の力を添えられん事を希望する次第である。

一、本會は統計學術の進步普及を計り之等計數の利用により國家產業の發展を助長し併せて國民一般の常識を涵養せしむるを以て目的とす

一、本會は其の目的の遂行を期せむが爲め左の事業を行ふ

一、統計普及に關する研究調査並びに統計利用宣傳

二、統計展覽會を全國各地に時々開催し統計の利用を普及し消費節約能率增進發展等の資料に寄與せしむ

三、時事統計圖集の發行

官廳、自治團體、銀行、會社等の正確なる各種統計調査を基礎とし政治、經濟、產業、科學思潮等凡ゆる方面の新智識を解說し又時に內外の重要問題に關し專門大家の權威ある研究を發表し之を每月一回一冊の標準にて發行し會員に無料配附す

一、會費は一箇年分前納金貳拾圓、每月拂金貳圓とす

一、諸官衙、學校にして「時事統計圖集」購讀希望者は其の旨申込まるべし、購讀料前項會費に同じ

東京市本郷區元町二丁目四十一番地

日本統計普及會

電話小石川二三九三番

顧問

男爵	阪谷芳郎
元東京市長	西久保弘道
大阪每日新聞社長	本山彥一
京城帝國大學總長	松浦鎭次郎
代議士	賴母木桂吉
代議士	粕谷義三
代議士	池田敬八
代議士	勝正憲
代議士	松本忠雄
侯爵	木戸幸一
統計學社々長	橫山雅男
商學博士	藤本幸太郎
內閣統計局國際課長	森數樹
電氣局勞働課長	道家齊一郎
理學博士	龜田豊治朗
東京市統計課長	竹內秀次郎
實業家	籾山半三郎
單式印刷株式會社取締役 內山模型製圖社々長	
理事長	內山道郎
常務理事	內山善三郎
理事	中道等

卷頭寸言

人は既に天然の生產をのみ待つては居られず、煙を冲天に揚げて孜々として人工を加へる事が、單に過剩ならんとする人口に對しての食糧及び物貨の供給といふばかりでなく、實に人文を開發し、彼我共同に有無を通ずる根本の營作となるものならば、世界に於ける工業は、洵に妥當にして價値高い反自然の所作であり、天然征服の一階段であつた。此の背後に智識といふものが潜まねばならぬとするなら、人は先づ現前の事業興隆を採つて、併せて國々の文化を、この工業狀態からでも攝觀することが出來るであらう。

考古の學問は感興が深い、白雲頭上に卷舒する處、悠々として歌ひながら數年石器を磨す狀貌は、思ふだに一幅の繪であつた。然るに時進んで今や分秒を爭つて量の大と價の廉とを競ふ機械生產の有樣を眺め、互に之を消費する世相を比較したなら、如何の感を抱くであらうか。世は擧つて手足の投影を、直ちに結局の物貨の上に見出さんとするのである。工業も亦一種の非常なる人文の歷史に屬するものであつた。

世界の趨勢を說く前に、先づ我が國の狀態を仔細に知らねばならぬ。日本の工業が指尖の小工に始まる時から、隨分と由來久しい事實を我等に示すばかりでなく、特殊なる發達を遂げた窯業、紡織などは、獨り天然左右の溫度を味ふ外、今では機械の所爲となつたのである。小工業から移つて大工業に赴かんとする刹那、日本は常に世界の大きな刺戟を受けて、驚異の眼を睜つて來たのである。外にこの影響あり內にこの變動がある、姿容を變へざるを得なかつたのである。故に工場に於ける災害も、避け得らるべき施設を充分に有しながら、本輯に栽するが如き數字を以て、大なる災厄を繰り返して居るのであつた。たとへば鑛山の炭鑛爆發などは、よしそれが不可抗力によるとしても、常に非常なる數に上り、坑內の安否を心勞して、坑口の周圍に叫喚する家族の聲が、いかに世人の胸を撲つことであらうか。而もかやうな犧牲が獨り鑛山のみならず、あらゆるものに拂はれて生產を形成すると知つては、既に工業界一般に深い考察を要するもので、眞の人工添加の妙は、決してかやうなものではなかつた筈である。この點では日本の工業は知つて置くべき條件が甚だ多かつた。本輯がこれらの資料として世人の注目を購ふべきは、もはや疑ひないところである。

昭和四年三月

日本統計普及會

時事統計圖集　第二卷第十一輯

我國工業概觀

1 昭和元年度本業別生產額……商工省
2 昭和元年度府縣別生產額……商工省
3 工業會社數及資本額比較……日本銀行
4 全國工場數並職工數……商工省
5 我國主要工業原料品輸入高……商工省
6 最近十ケ年紡織主要品生產額比較……商工省
7 原動機數及實馬力數……商工省
8 食料品工業概況（其ノ一）……商工省
9 食料品工業概況（其ノ二）……商工省
10 我國ノ綿織物生產額比較……商工省
11 府縣別生絲及絹織物生產高……商工省
12 紡織工業生產額……商工省
13 我國機械器具工業概況……商工省
14 化學工業生產額……商工省
15 製材及木製品工業生產額……商工省
16 我國金屬工業現況……商工省
17 我國ニ於ケル窯業生產額……商工省
18 本邦雜種工業生產額一覽……商工省
19 我國印刷製本・電氣瓦斯生產高……商工省
20 我國鑛山變災事故及鑛夫死傷者……商工省鑛山局
21 我國鑛產額累年比較……商工省鑛山局
22 我國工場災害概況……內務省社會局
23 普通職工一人一日實收賃金別工場數……商工省
24 我國工業ニ關スル同業組合一覽……商工省

昭和元年度事業別生産額

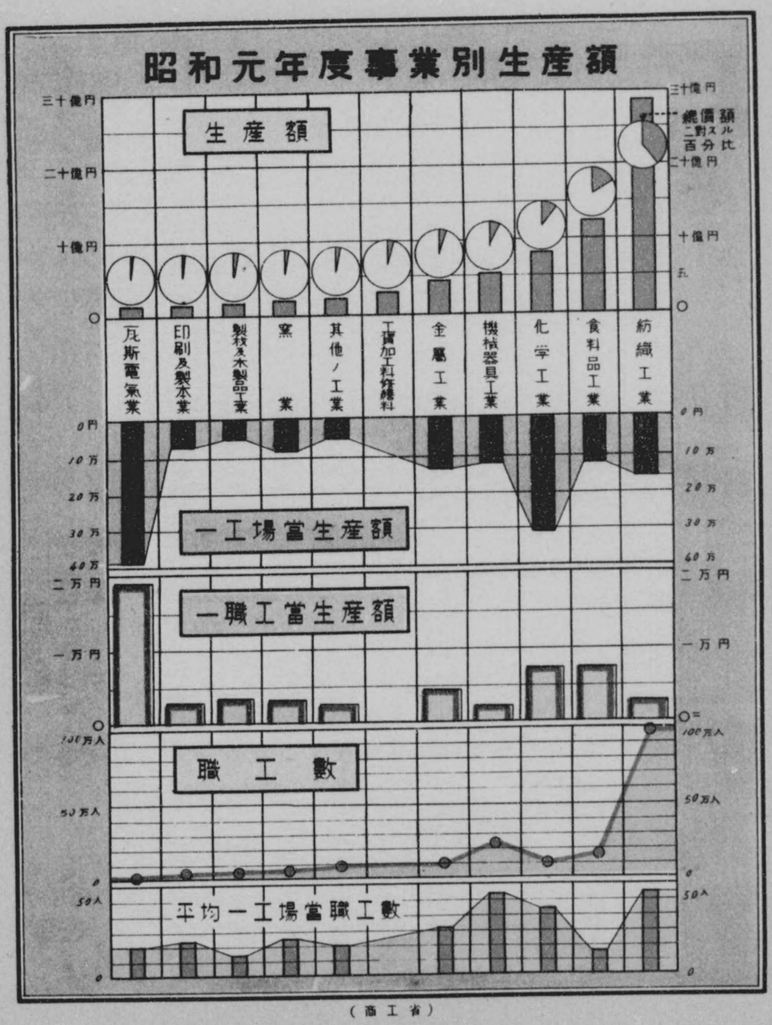
これは以下順次に載すべき事業の生態を、總括する概念を養ふる準備として、其の業態に於ける生産が、奈何なる根本の人工動力に據つて齎らされつゝあるかといふ實際を、昭和元年度の計數に採つたものである。列擧した事業中では生産額の多いのは紡織工業で、二、八七二、一一六、五〇四圓と算したが、從つて一工場に於ける職工の平均數も五五人とあつて、最も多いことを示した。次に職工數の多いのは五三人の機械器具で、之はこの割には産額五三八、八一七、三七四圓、卽ち化學工業にも及ばぬのであつた。たとへば機械工業として動力を多く使用する工業はあまり人手を要せずして樂な生産を表はして居るが、職工數の平均が必ずしも一工場當、一職工當の生産額を左右して居らぬのである。化學工業の如き職工は機械器具よりも少き四三人でありながら一人の職工が七、三一六圓、一の工場が三一二、六〇七圓を産出して居り、又この例が瓦斯電氣業のよく表はれて居る。こゝでは二〇人の職工が、一人七、九〇四圓、一工場が一九、〇九二圓を出して、この二つの結果では他の何れよりも優秀なものであつた、但し全部の比較からすると生産額では、一五〇、〇一六、〇八八圓、卽ち印刷製本業よりも少いのであつて、こゝに事業の現狀が窺はれるのであつた。

昭和元年度事業別生産額

（單位 圓）

事業別	生産額	總價額ニ對スル百分比	一工場當リ生産額	一職工當リ生産額	職工數	平均一工場當リ職工數
	円	%	円	円	人	人
紡織工業	2.872.116.504	40	159.199	2.877	998.447	55
食料品工業	1.249.238.220	17	120.933	7.474	167.144	16
化學工業	813.403.888	11	312.607	7.316	111.249	43
機械器具工業	538.917.374	8	121.679	2.283	236.051	53
金屬工業	447.058.474	6	136.174	4.449	100.477	31
工賃加工料修繕料	304.001.946	4	——	——	——	——
其他工業	225.902.831	3	53.544	2.633	85.801	20
窯業	210.747.253	3	81.939	3.239	65.063	25
製材及木製品	185.343.126	3	49.098	3.575	51.844	14
印刷及製本業	158.051.646	2	69.873	3.086	51.215	23
瓦斯電氣業	150.016.088	2	383.977	19.092	7.904	20
計	7.154.797.350					

註（商工省調査「工場統計表」ニ據ル）



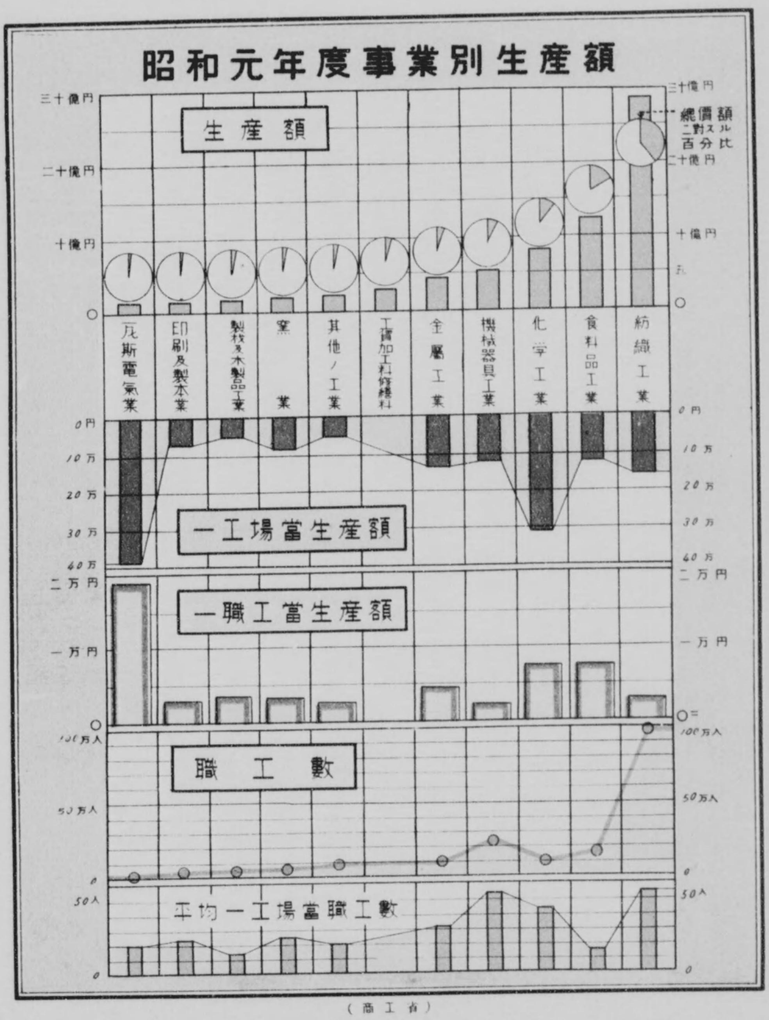
（商工省）

昭和元年度事業別生産額

（單位圓）

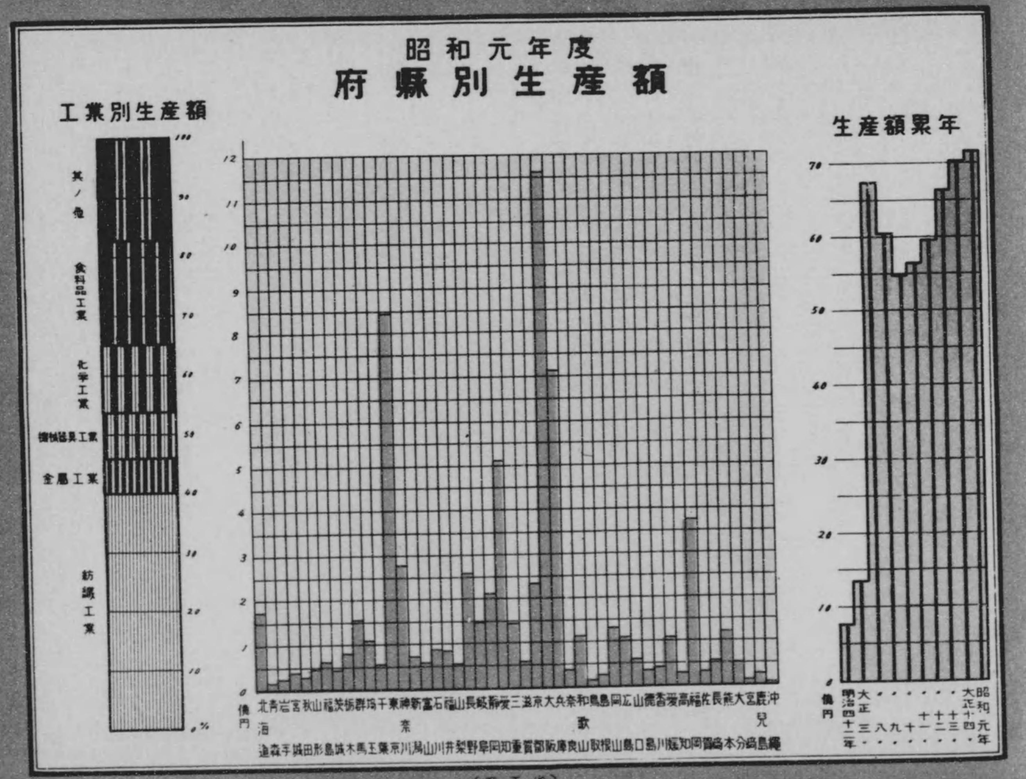
事業別	生産額	總價額ニ對スル百分比	一工場當リ生産額	一職工當リ生産額	職工數	平均一工場當リ職工數
	圓	%	圓	圓	人	人
紡織工業	2,872,116,504	40	159,199	2.877	998,447	55
食料品工業	1,249,238,220	17	120,933	7.474	167,144	16
化學工業	813,403,888	11	312,607	7.316	111,249	43
機械器具工業	538,917,374	8	121,679	2.283	236,051	53
金屬工業	447,058,474	6	136,174	4.449	100,477	31
工賃加工料修繕料	304,001,946	4	——	——	——	——
其他工業	225,902,831	3	53,544	2.633	85,801	20
窯業	210,747,253	3	81,939	3.239	65,063	25
製材及木製品	185,343,126	3	49,098	3.575	51,844	14
印刷及製本業	158,051,646	2	69,873	3.086	51,215	23
瓦斯電氣業	150,016,088	2	383,977	19.092	7,904	20
計	7,154,797,350					

註（商工省調査「工場統計表」ニ據ル）



昭和元年度府縣別生產額

昭和元年度に於ける全國の工產狀態を、府縣別に眺めると、我々は今更ながら敎示せられる多くの事實を見出すであらう。工業の都市に於ける進展はもとより遠い傳統を有するもので、直ちに生產と消費との根本組織に影響して來ることは、先づ大阪が日本第一の綜合數を示して居るのを以て證據とすべきであらうと思ふ。この年の生產額實に、一、一六三、九九二、五四六圓と計上せられ、一頭地を拔くのみが、東京の八四四、〇六五、七二二圓を遙に見下して、尙一層進出せんとするのであつた。愛知は著名なる大小工業充滿の都市ではあるが、それでも神戶を包含する兵庫には及ばず、北海道の大を以ても福岡の約半數となることは、やはり土地の廣大に、尙工產機能の完からぬを示すもので、概して東北六縣及び關東地方は、中國、四國地方よりも大に劣つて居るのは、獨りこの工產ばかりではなかつた。群馬が機業の盛大を有しながら、僅に一五二、五五九、六五八圓に過ぎず、長野の二六二、五五二、九〇三圓と比較して始めて趣が分るであらう。おしなべて最も旺盛なものは紡織であつた。化學工業の如きは、今でも尙食料品よりは不足で、而も雜工業の方が極めて素晴しいものがある。これは別表でも明かにするつもりであるが、この概念る以て累年計を一見したら、更に感慨の深きものがある。



（商工省）

昭和元年度府縣別生産額

（單位圓）

府縣別	生産額	府縣別	生産額	府縣別	生産額
北海道縣	172.787.526	石川縣	88.357.559	岡山縣	131.848.343
青森縣	16.448.682	福井縣	80.221.580	廣島縣	106.685.487
岩手縣	23.715.648	山梨縣	52.608.861	山口縣	60.998.757
宮城縣	36.572.804	野阜縣	262.552.903	島根縣	34.957.396
秋田縣	29.396.638	岡縣	148.430.038	香川縣	40.850.021
山形縣	49.476.714	知縣	210.225.822	愛媛縣	105.302.900
福島縣	62.817.871	重縣	515.979.502	高知縣	28.850.959
茨城縣	43.820.564	賀縣	141.649.930	福岡縣	374.158.358
栃木縣	83.907.273	都府縣	55.694.908	佐賀縣	30.064.594
群馬縣	152.559.658	阪府縣	235.786.231	長崎縣	54.787.869
埼玉縣	110.693.359	庫縣	1.163.992.546	熊本縣	120.833.360
千葉縣	55.336.304	良縣	712 386.215	大分縣	50.658.326
東京府	844.065.722	奈縣	38.844.446	宮崎縣	18.741.197
神奈川縣	287.315.015	和歌山縣	114.095.212	鹿兒島縣	27.022.978
新潟縣	73.104.832	鳥取縣	17.295.434	沖縄縣	5.673.648
富山縣	58.716.359	島根縣	24.507.001	合計	7.154.797.350

註（商工省調査「工場統計表」ニ據ル）

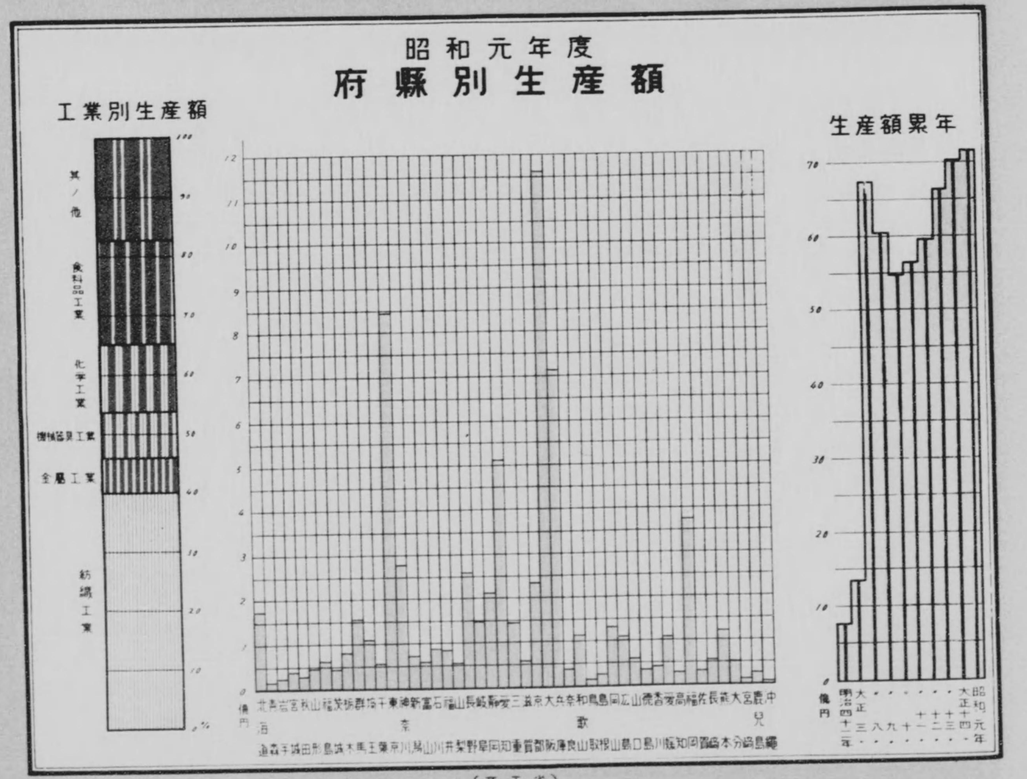
工業別生産額

（單位圓）

工業別	昭和元年	工業別	昭和元年
紡織工業	2.872.116.504	印刷製本業	158.051.646
金屬工業	447.058.474	食料品工業	1.249.238.220
機械器具工業	538.917.374	瓦斯及電氣業	150.016.088
窯業	210.747.253	其他工業	225.902.831
化學工業	813.403.888	工賃加工料修繕料	304.001.946
製材及木製品工業	185.343.126	合計	7.154.797.350

生産額累年比較

年次	生産額
明治四十二年	780.517.671
大正三年	1.371.608.106
大正八年	6.737.632.717
大正九年	6.037.765.141
大正十年	5.498.515.086
大正十一年	5.643.321.140
大正十二年	5.978.445.418
大正十三年	6.624.560.388
大正十四年	7.029.658.854
昭和元年	7.154.797.350


昭和元年度
府縣別生産額
工業別生産額
生産額累年

（商工省）

昭和元年度府縣別生産額

（單位圓）

府縣別	生産額	府縣別	生産額	府縣別	生産額
北海道	172.787.526	石川縣	88.357.559	岡山縣	131.848.343
青森縣	16.448.682	福井縣	80.221.580	廣島縣	106.685.487
岩手縣	23.715.648	山梨縣	52.608.861	山口縣	60.998.757
宮城縣	36.572.804	長野縣	262.552.903	徳島縣	34.957.396
秋田縣	29.396.638	岐阜縣	148.430.038	香川縣	40.850.021
山形縣	49.476.714	靜岡縣	210.225.822	愛媛縣	105.302.900
福島縣	62.817.871	愛知縣	515.979.502	高知縣	28.850.959
茨城縣	43.820.564	三重縣	141.649.930	福岡縣	374.158.358
栃木縣	83.907.273	滋賀縣	55.694.908	佐賀縣	30.064.594
群馬縣	152.559.658	京都府	235.786.231	長崎縣	54.787.869
埼玉縣	110.693.359	大阪府	1.163.992.546	熊本縣	120.833.360
千葉縣	55.336.304	兵庫縣	712.386.215	大分縣	50.658.326
東京府	844.065.722	奈良縣	38.844.446	宮崎縣	18.741.197
神奈川縣	287.315.015	和歌山縣	114.095.212	鹿兒島縣	27.022.978
新潟縣	73.104.832	鳥取縣	17.295.434	沖縄縣	5.673.648
富山縣	58.716.359	島根縣	24.507.001	合計	7.154.797.350

註 商工省調査「工場統計表」ニ據ル

工業別生産額

（單位圓）

工業別	昭和元年	工業別	昭和元年
紡織工業	2.872.116.504	印刷製本業	158.051.646
金屬工業	447.058.474	食料品工業	1.249.238.220
機械器具工業	538.917.374	瓦斯及電氣業	150.016.088
窯業	210.747.253	其他工業	225.902.831
化學工業	813.403.888	工賃加工料修繕料	304.001.946
製材及木製品工業	185.343.126	合計	7.154.797.350

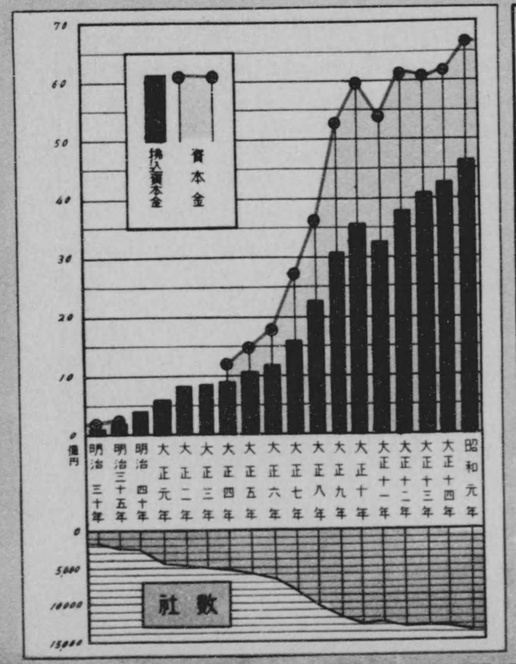
生産額累年比較

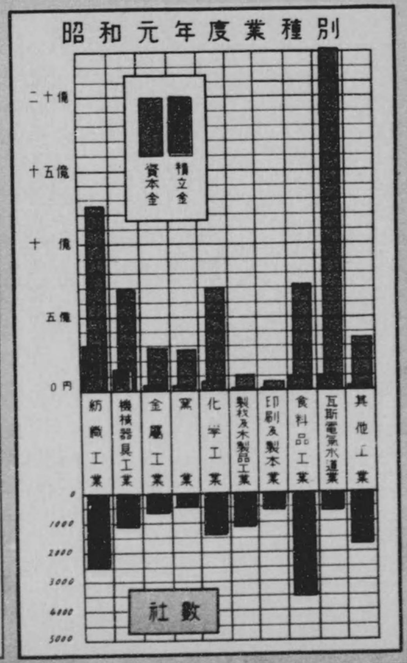
年次	生産額
明治四十二年	780.517.671
大正三年	1.371.608.106
大正八年	6.737.632.717
大正九年	6.037.765.141
大正十年	5.498.515.086
大正十一年	5.643.321.140
大正十二年	5.978.445.418
大正十三年	6.624.560.388
大正十四年	7.029.658.854
昭和元年	7.154.797.350

工業會社數及資本金額累年比較

他の會社も勿論さうであるが、別して工業關係の組織は、合名、合資、株式に係らず、打て一丸として之より生ずる結果が、大量であり低廉であらねばならぬのは、最も容易なる理論であつて、我が國でも明治三十年以來の狀況を眺めても、必然なる趨勢がよく實現して居るのであつた。社數も明治三十年一、八八一であつたのが、今や昭和元年一三、七四一と算せられ、資本金の如きも、三十年一六五、三三二、六三三圓とあつたものが、同年度實に六、七二五、九七四、五〇〇圓と計上せられたのである。會社、資本ともに躍進の相を示したのは、大正七年以來であつて、卽ち當時の必要が資本金の昂騰と、拂込金額の巨數を示したのである。この二つは十一年に些か下降したのみで、十二年からは再び圖の如き順當な運命に展けたのであつた。更に昭和元年度數種の主要な工業會社を査察すると、社數の多いのは食料品工業の三、四九七であるが、資本金では七一三、二二一千圓で、之を瓦斯電氣水道等の二、三三一、一七四千圓に比べては到底及ばなかつた、而もこの社數は五八五、遙に少い。資本の之に亞ぐものは紡織の一、二五九、六八二千圓であつた。積立金も三〇〇、五四八千圓で最も多く、社數も二、五三二、食料品に亞ぐのである。前後仔細に看られんことを希望する。

工業會社數及資本額比較





（日本銀行）

工業會社數及資本金額累年比較

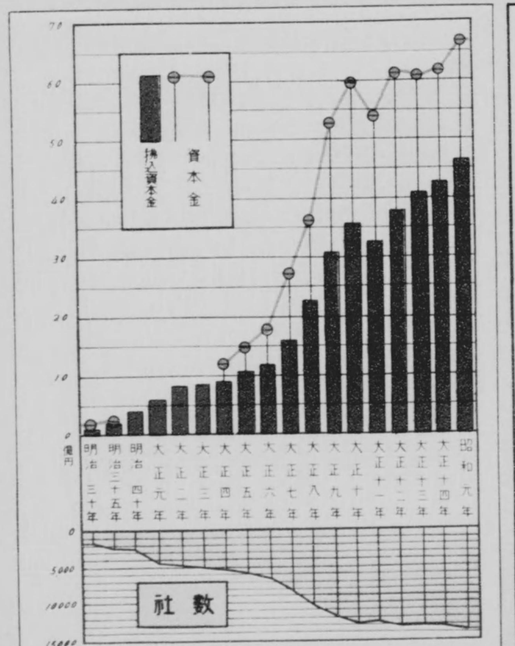
年次	社數	資本金	拂込資本金
明治三十年	1.881	165.332.633円	105.381.106円
明治三十五年	2.427	222.120.693	173.232.689
明治四十年	2.847	——	381.815.109
大正元年	4.403	——	677.794.564
大正二年	4.961	——	814.304.298
大正三年	5.226	——	833.569.259
大正四年	5.489	1.189.892.801	870.540.314
大正五年	5.942	1.476.791.598	1.057.108.262
大正六年	6.677	1.826.960.360	1.156.014.502
大正七年	8.221	2.757.183.830	1.698.209.812
大正八年	10.112	3.682.850.895	2.248.858.310
大正九年	11.829	5.259.819.651	3.057.239.079
大正十年	12.951	5.962.563.684	3.551.210.485
大正十一年	12.375	5.390.250.678	3.273.039.451
大正十二年	12.852	6.075.492.461	3.803.668.842
大正十三年	13.251	6.054.629.330	4.055.516.588
大正十四年	13.233	6.173.953.453	4.240.954.321
昭和元年	13.711	6.725.974.000	4.647.817.000

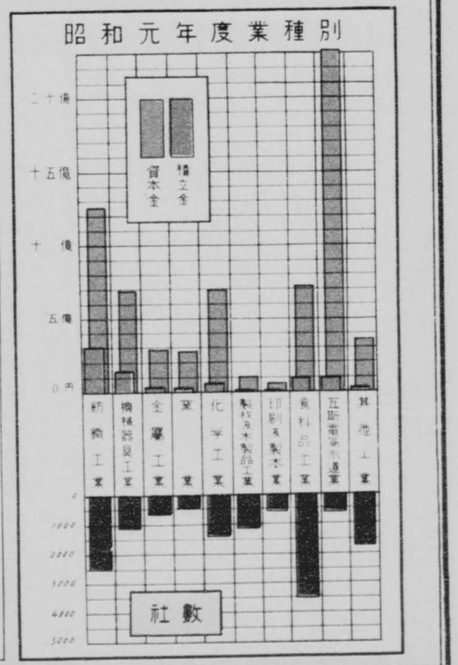
昭和元年末業種別比較

業種別	社數	資本金	積立金
紡織工業	2.532	1.259.682千円	300.548千円
機械器具工業	1.189	681.187	137.076
金屬工業	624	280.506	26.911
窯業	415	275.078	19.755
化學工業	1.424	686.503	52.756
製材及木製品工業	1.115	107.828	5.360
印刷及製本業	543	53.052	3.217
食料品工業	3.497	713.221	89.423
瓦斯、電氣、水道業	585	2.311.174	93.804
其他工業	1.787	357.740	19.013
計	13,711	6.725.974	747.864

註（日本銀行調査局調査「本邦經濟統計」ニ據ル）

工業會社數及資本額比較





（日本銀行）

工業會社數及資本金額累年比較

年次	社數	資本金	拂込資本金
明治三十年	1.881	165.332.633	105.381.106
明治三十五年	2.427	222.120.693	173.232.689
明治四十年	2.847	——	381.815.109
大正元年	4.403	——	677.794.564
大正二年	4.961	——	814.304.298
大正三年	5.226	——	833.569.259
大正四年	5.489	1.189.892.801	870.540.314
大正五年	5.942	1.476.791.598	1.057.108.262
大正六年	6.677	1.826.960.360	1.156.014.502
大正七年	8.221	2.757.183.830	1.698.209.812
大正八年	10.112	3.682.850.895	2.248.858.310
大正九年	11.829	5.259.819.651	3.057.239.079
大正十年	12.951	5.962.563.684	3.551.210.485
大正十一年	12.375	5.390.250.678	3.273.039.451
大正十二年	12.852	6.075.492.461	3.803.668.842
大正十三年	13.251	6.054.629.330	4.055.516.588
大正十四年	13.233	6.173.953.453	4.240.954.321
昭和元年	13.711	6.725.974.000	4.647.817.000

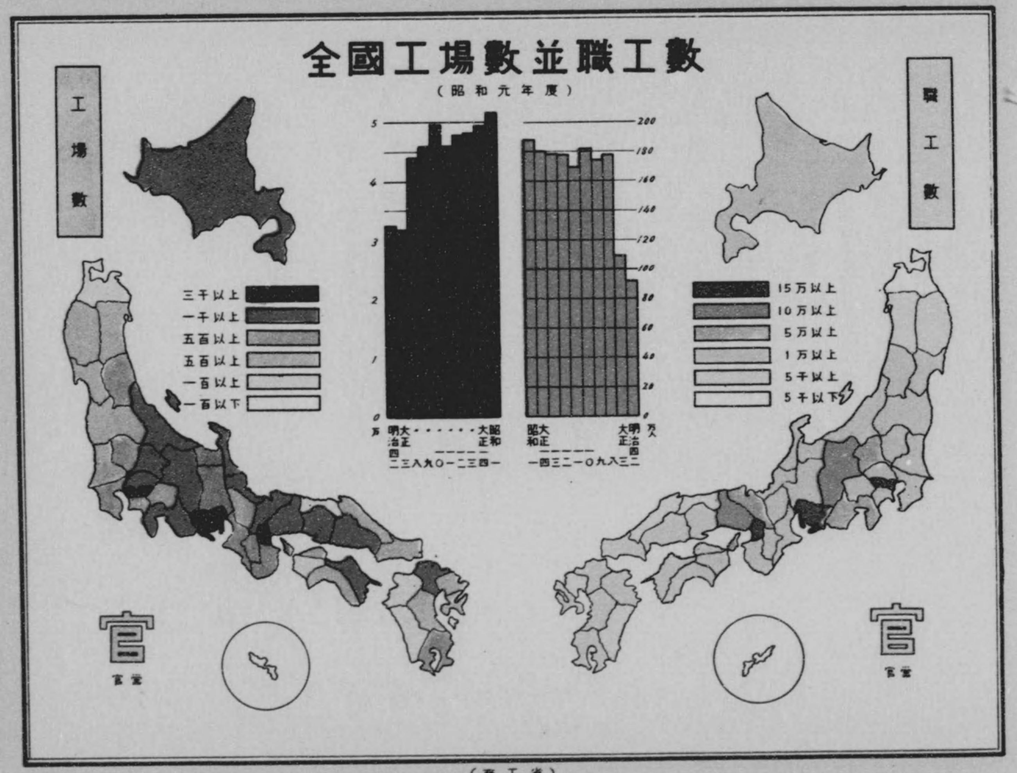
昭和元年末業種別比較

業種別	社數	資本金	積立金
紡織工業	2.532	1.259.682	300.548
機械器具工業	1.189	681.187	137.076
金屬工業	624	280.506	26.911
窯業	415	275.078	19.755
化學工業	1.424	686.503	52.756
製材及木製品工業	1.115	107.828	5.360
印刷及製本業	543	53.052	3.217
食料品工業	3.497	713.221	89.423
瓦斯、電氣、水道業	585	2.311.174	93.804
其他工業	1.787	357.740	19.013
計	13.711	6.725.974	747.864

註（日本銀行調査局調査「本邦經濟統計」ニ據ル）

全國工場數並職工數

單に工場數と職工數とを、全國府縣別に概觀しても、既にその土地に於ける工業界の雰圍氣が、明詳するのであつて、世人はこの二つの數を一見したばかりで、必ず故に然りといふ觀念が生ずるのである。昭和元年度では共に大阪が第一であつた。工場數六、九二六、職工二四一、五〇八人を算して居るのは、卽ち大阪府の工業がともかく綜合して殷賑を極めつゝある現況を想像する事が出來る。東京はこれに比して稍々劣り、六、〇六三の工場と一七一、五八一人の職工がある。東京は復興事業と關係なしに尙別途の主要なる工業を興さねばならぬ時に逢着して居るのである。一五萬人以上を有する所は右の二都市と愛知だけであるが、以下としては長野の一、三一五の工場に一〇八、九六一人の職工、愛知が五、二六一に一五五、三七五人ともに隆盛を極めて居ることが分明する。兵庫の如きは二、七九一に一四七、四七一人を算していかに大阪を控へつゝ進展するかゞ察せられ、この土地が漸次に工業地となるべき素地を、背景としての傳統と共に彌々活潑ならしめて居るかを、充分に知つて美望に堪へぬ。若し右二つの數が、有し來つた趨勢を全國累年的に見るならば、我等は更に今一段の考慮を費すべき價値はあるのである。



（商工省）

全國工場數並職工數

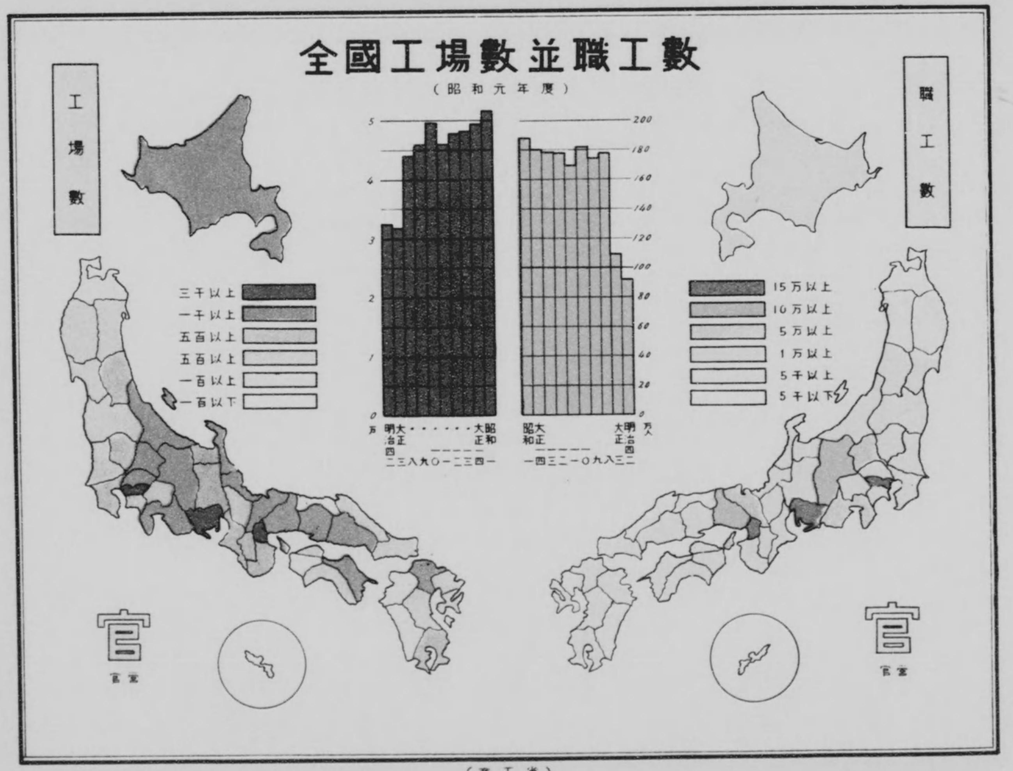
（昭和元年度）

府縣別	工場數	職工數	府縣別	工場數	職工數	府縣別	工場數	職工數
北海道	1.289	32.092	福井縣	1.093	22.817	山口縣	477	13.628
青森縣	208	4.266	山梨縣	403	17.681	德島縣	249	13.228
岩手縣	333	7.567	長野縣	1.315	108.961	香川縣	451	16.394
宮城縣	487	10.708	岐阜縣	780	35.281	愛媛縣	1.097	36.018
秋田縣	340	5.752	靜岡縣	1.733	54.922	高知縣	443	10.764
山形縣	506	19.512	愛知縣	5.261	155.375	福岡縣	1.204	44.664
福島縣	372	19.455	三重縣	897	40.582	佐賀縣	368	9.959
茨城縣	548	11.624	滋賀縣	452	17.172	長崎縣	387	20.321
栃木縣	522	13.111	京都府	2.238	52.541	熊本縣	406	15.103
群馬縣	1.081	50.851	大阪府	6.926	241.508	分島縣	293	14.399
埼玉縣	1.287	40.486	兵庫縣	2.791	147.741	宮崎縣	171	7.201
千葉縣	624	10.920	奈良縣	560	12.652	鹿兒島縣	611	11.482
東京府	6.063	171.581	和歌山縣	553	29.012	沖繩縣	52	1.025
神奈川縣	738	44.943	鳥取縣	206	7.519	官營	344	133.938
新潟縣	1.275	24.684	島根縣	394	8.973	合計	51.906	1.875.195
富山縣	523	13.810	岡山縣	1.071	36.530			
石川縣	1.072	22.452	廣島縣	1.612	34.260			

累年比較

年次	工場數	職工數	年次	工場數	職工數	年次	工場數	職工數
明治四十二年	32.390	917.896	大正十年	49.754	1.820.776	大正十四年	49.161	1.808.381
大正三年	31.859	1.085.808	大正十一年	46.427	1.691.019	昭和元年	51.906	1.875.195
大正八年	44.087	1.777.171	大正十二年	47.786	1.765.133			
大正九年	46.150	1.742.591	大正十三年	48.394	1.789.618			

註（商工省調査「工場統計表」ニ據ル）



（商工省）

全國工場數並職工數

（昭和元年度）

府縣別	工場數	職工數	府縣別	工場數	職工數	府縣別	工場數	職工數
北海道	1,289	32,092	福井縣	1,093	22,817	山口縣	477	13,628
青森縣	208	4,266	山梨縣	403	17,681	德島縣	249	13,228
岩手縣	333	7,567	長野縣	1,315	108,961	香川縣	451	16,394
宮城縣	487	10,708	岐阜縣	780	35,281	愛媛縣	1,097	36,018
秋田縣	340	5,752	靜岡縣	1,733	54,922	高知縣	443	10,764
山形縣	506	19,512	愛知縣	5,261	155,375	福岡縣	1,204	44,664
福島縣	372	19,455	三重縣	897	40,582	佐賀縣	368	9,959
茨城縣	548	11,624	滋賀縣	452	17,172	長崎縣	387	20,321
栃木縣	522	13,111	京都府	2,238	52,541	熊本縣	406	15,103
群馬縣	1,081	50,851	大阪府	6,926	241,508	大分縣	293	14,399
埼玉縣	1,287	40,486	兵庫縣	2,791	147,741	宮崎縣	171	7,201
千葉縣	624	10,920	奈良縣	560	12,652	鹿兒島縣	611	11,482
東京府	6,063	171,581	和歌山縣	553	29,012	沖繩縣	52	1,025
神奈川縣	738	44,943	鳥取縣	206	7,519	營計	344	133,938
新潟縣	1,275	24,684	島根縣	394	8,973		51,906	1,875,195
富山縣	523	13,810	岡山縣	1,071	36,530			
石川縣	1,072	22,452	廣島縣	1,612	34,260			

累年比較

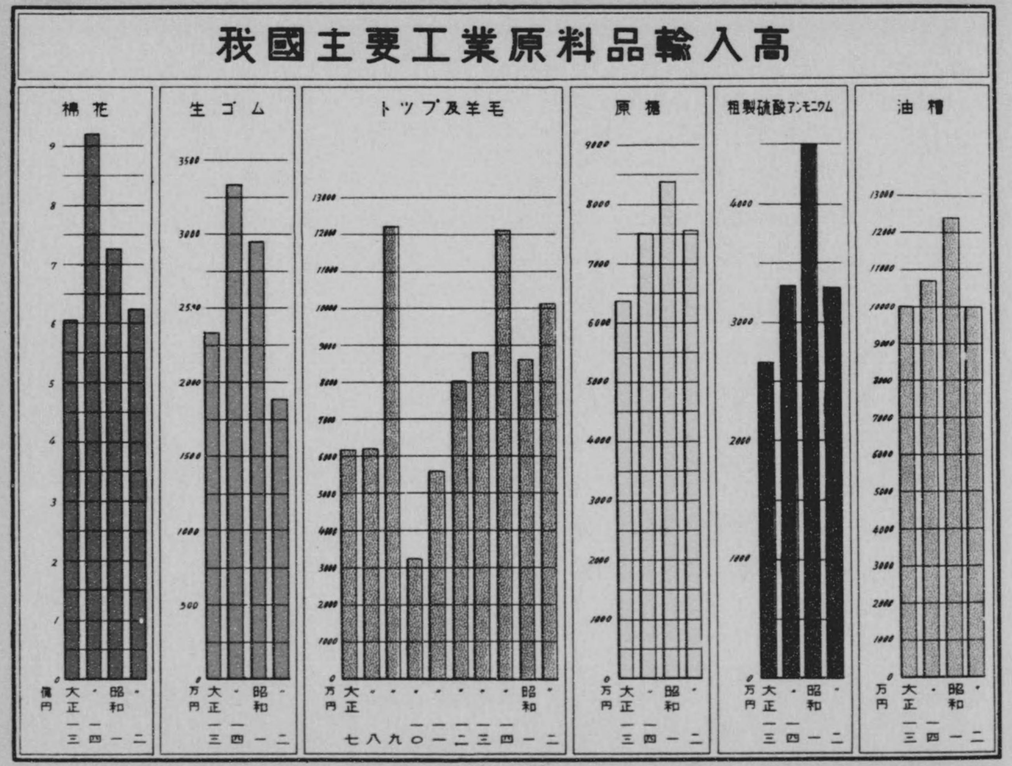
年次	工場數	職工數	年次	工場數	職工數	年次	工場數	職工數
明治四十二年	32,390	917,896	大正十年	49,754	1,820,776	大正十四年	49,161	1,808,381
大正三年	31,859	1,085,808	大正十一年	46,427	1,691,019	昭和元年	51,906	1,875,195
大正八年	44,087	1,777,171	大正十二年	47,786	1,765,133			
大正九年	46,150	1,742,591	大正十三年	48,394	1,789,618			

註（商工省調査「工場統計表」ニ據ル）

我國主要工業原料品輸入高

工業原料品は、云ふ迄もなく國内生産を以て自足せず、尚國内からは全く産出せぬものもあるところから、常に巨額な輸入を見て居るのであるが、茲に棉花及び五六種の原料品が如何なる數で最近這入つて來たかを、觀察すると、一面其の製品が又輸出と迄は行かずとも、いかに消費せられるかをも併せて知ることを得るであらう。棉花は支那印度から重に來るが、大正十四年の如きは總計して九二三、〇八一千圓の輸入高となつた。此の年は戰後唯一の好況時代とて、棉花のみならず、他のすべてのものが、激しく出入した。生ゴムの同年三三、三四三千圓、之は國入のみでも需要が增した必然からであつた。トップ及羊毛の次第に多くなる事、粗製硫酸アンモニウムが、昭和元年度に昂上して來た事、などを考へると、羊毛類はともかく硫酸アンモニウムが未だ國内化學工業の餘映として大規模に期待せねばならぬことは、原糖以上に殘念な話であらう。砂糖は本國から出ぬから之は致方もないが、之も大正十三年以後大に增加し、昭和元年には八三、六七二千圓に上つて居る。油糟は關東洲、南洲から漸々乎としてかくの如く這入つて來た。之を消化していかなる物貨を代適すべきかを思ふと、少し暗然とならざるを得ぬ。

我國主要工業原料品輸入高



（商工省）

我國主要工業原料品輸入高

（單位千圓）

棉花

年次	輸入高
大正十三年	605,271
大正十四年	923,081
昭和元年	725,930
昭和二年	624,630

トツプ及羊毛

年次	輸入高
大正七年	61,532
大正八年	62,097
大正九年	121,982
大正十年	32,411
大正十一年	55,944
大正十二年	80,163
大正十三年	88,297
大正十四年	121,701
昭和元年	86,209
昭和二年	101,865

生ゴム

年次	輸入高
大正十三年	23,380
大正十四年	33,343
昭和元年	29,485
昭和二年	18,853

原糖

年次	輸入高
大正十三年	63,847
大正十四年	75,068
昭和元年	83,672
昭和二年	45,804

粗製硫酸アムモニウム

年次	輸入高
大正十三年	26,545
大正十四年	33,184
昭和元年	44,962
昭和二年	32,750

油糖

年次	輸入高
大正十三年	100,678
大正十四年	107,414
昭和元年	124,143
昭和二年	98,979

註（商工省商務局調査「本邦外國貿易狀況」ニ據ル）

最近十ヶ年紡織主要品生産額比較

紡織工業による主要品の産出を、最近十ヶ年の消長に見るも亦一の常識たるを失はぬ。こゝに載せた品種に就ては、もとより需要の根本に於て國土の相違を來すばかりでなく、年序を逐うて足らざる施設を補ひ、又從來の缺陷をも改良して來たから、産額の增加品質の良好になつた事は疑ひないが、明治四十二年以來の狀態を知れば格段なる驚異ではあつた。先づ生糸の如きは大正三年一五八、一七四、九八一圓とあつたのが、八年一躍して七八〇、一五三、一七三圓と轉じた。卽ち世界が激怒の砲火を交ゆる最中に、日本が東洋と西洋近國とに獨占的好評を齎らしたからであつて、獨り生糸ばかりでなく、綿織物も綿糸も亦同じやうにこの年昂上したのである。昂上の裏に落下あり、十一年稍々見直す迄はかく沈降の氣味であつたが、十一年綿織物が生糸より秀拔したのを十二年以來は生糸獨り高踏して十四年は實に八七二、五二四、七四六圓を示した。八年の浮足が遂に下つて平凡なものに絹織物と毛織物とがある。これらは下段の昭和二年度に於ける種類別にも明かである如くに、國內給額の勢を超えて寧ろ海を距てゝ外へ出るべき命運を考へて見むばならぬ。こゝに所謂産額多寡の根本がかやうに趣向を變へてあるのである。

最近十ケ年紡織主要品生産額比較

（單位圓）

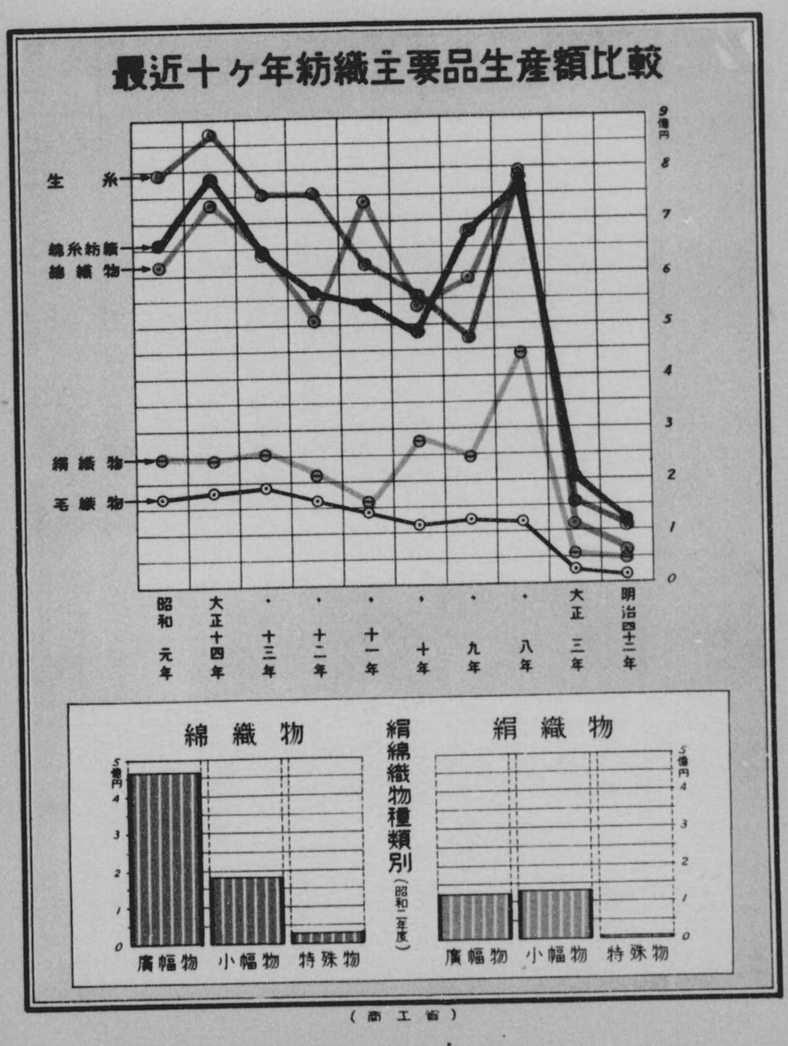
年次	生糸	綿絲紡績	綿織物	絹織物	毛織物
明治四十二年	107.495.146	121.218.150	61.974.504	46.234.402	15.689.919
大正三年	158.174.981	203.721.654	117.144.786	55.004.665	27.696.081
大正八年	780.153.173	760.475.850	789.964.936	404.356.455	121.933.967
大正九年	474.306.943	676.607.169	591.427.233	244.691.155	127.384.733
大正十年	558.619.064	484.906.803	533.577.617	273.572.909	117.058.901
大正十一年	621.808.208	537.049.371	735.217.965	160.171.650	143.910.405
大正十二年	759.184.786	569.844.965	511.970.664	216.234.277	166.902.645
大正十三年	755.343.295	644.953.926	633.426.657	254.711.851	193.925.556
大正十四年	872.524.746	781.441.914	703.024.598	242.771.191	184.964.990
昭和元年	793.218.890	659.883.447	617.323.581	249.823.290	172.755.585

絹綿織物種類別割合

（昭和二年度）　（單位圓）

綿織物	廣幅物	463.741.038	絹織物	廣幅物	120.348.579
	小幅物	179.597.370		小幅物	126.146.247
	特殊物	27.873.452		特殊物	3.328.464

註（商工省調査「工場統計表」ニ據ル）



（商工省）

最近十ケ年紡織主要品生産額比較

（単位圓）

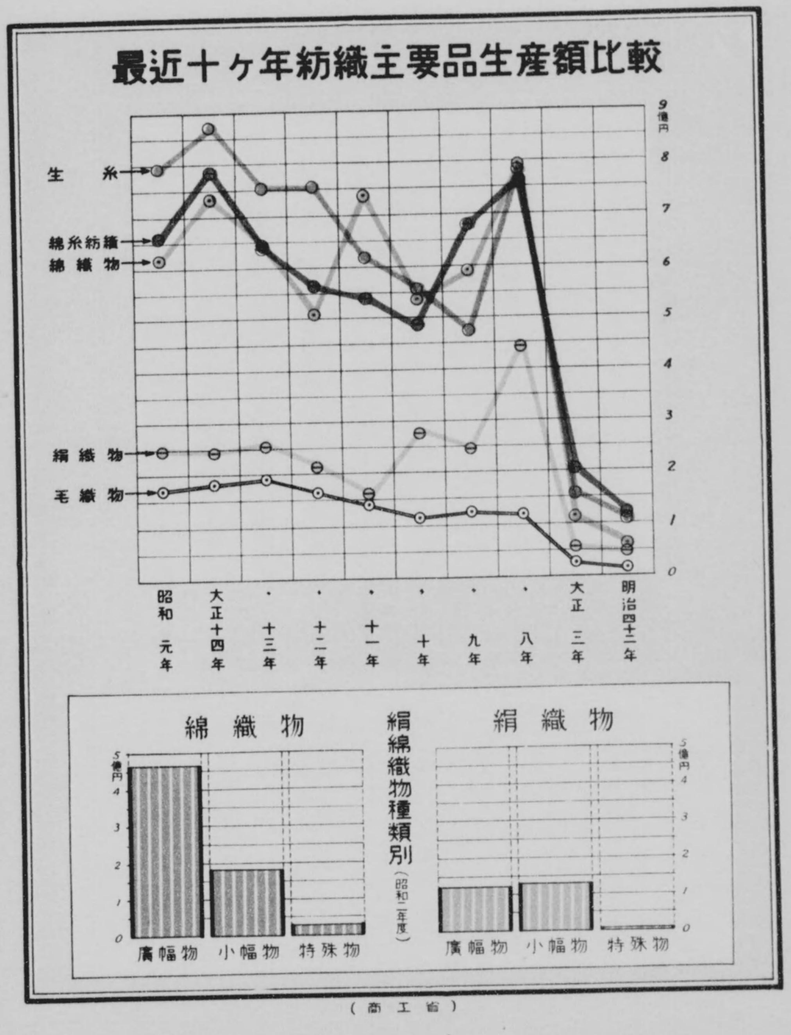
年次	生糸	綿絲紡績	綿織物	絹織物	毛織物
明治四十二年	107,495,146	121,218,150	61,974,504	46,234,402	15,689,919
大正三年	158,174,981	203,721,654	117,144,786	55,004,665	27,696,081
大正八年	780,153,173	760,475,850	789,964,936	404,356,455	121,933,967
大正九年	474,306,943	676,607,169	591,427,233	244,691,155	127,384,733
大正十年	558,619,064	484,906,803	533,577,617	273,572,909	117,058,901
大正十一年	621,808,208	537,049,371	735,217,965	160,171,650	143,910,405
大正十二年	759,184,786	569,844,965	511,970,664	216,234,277	166,902,645
大正十三年	755,343,295	644,953,926	633,426,657	254,711,851	193,925,556
大正十四年	872,524,746	781,441,914	703,024,598	242,771,191	184,964,990
昭和元年	793,218,890	659,883,447	617,323,581	249,823,290	172,755,585

絹綿織物種類別割合

（昭和三年度）　（単位圓）

綿織物	廣幅物	463,741,038	絹織物	廣幅物	120,348,579
	小幅物	179,597,370		小幅物	126,146,247
	特殊物	27,873,452		特殊物	3,328,464

註（商工省調査「工場統計表」ニ據ル）



（商工省）

原動機數及實馬力數

工業の實際の原動力となるべき機關の數も、試みに大正十一年から調査して見ると、漸次に擴大されてゐるのであつた。最近五ヶ年間の成績からすると、先づ第一は電動機であつて、昭和元年度の如きは一一六、六七五の機關數と一、七九四、六四四の實馬力を示して居る。蒸汽機關は八、〇〇五の數を有する割に五三五、八三四馬力しかないが、蒸汽タービンなどに至つては七四七の機臺で馬力實に一、一六〇、二七九の數となつて居る。若し將來蒸汽を使用するものなら皆タービン組織に變つてしまふであらうと思はれる。それがタービン水車にも表はれて、すでに八七一、四〇三馬力で蒸汽機關よりも多くなつて居るのであつた。日本型水車などは一、五九六もある癖に、五、五九八馬力より無く、これは次第に消滅して了ふ運命であらう。日本の水車は風景の添加のみで、實際にはあまり役立たぬ。さて以上の機關と馬力とを、府郡別に眺めると、こゝでも大阪が隨一で、使用工場五、六九一を算した。勢ひ生産があらゆる點で優秀な評である。東京は五、五六五の第二位、愛知が四、一九四で第三位を占め、兵庫の二、一〇五になると甚しい差異が生ずる。この他は同日の論ではなかつたのである。

原動機數及實馬力數

府縣別	原動機使用工場數	府縣別	原動機使用工場數	府縣別	原動機使用工場數
北海道	1.064	石川縣	715	岡山縣	830
青森縣	168	福井縣	959	廣島縣	1.229
岩手縣	265	山梨縣	400	山口縣	375
宮城縣	366	長野縣	1.217	德島縣	193
秋田縣	272	岐阜縣	667	香川縣	282
山形縣	444	靜岡縣	1.589	愛媛縣	785
福島縣	316	愛知縣	4.194	高知縣	313
茨城縣	274	三重縣	722	福岡縣	809
栃木縣	379	滋賀縣	311	佐賀縣	211
群馬縣	930	京都府	1.695	長崎縣	205
埼玉縣	1.031	大阪府	5.691	熊本縣	312
千葉縣	381	兵庫縣	2.105	大分縣	178
東京府	5.565	奈良縣	483	宮崎縣	139
神奈川縣	575	和歌山縣	472	鹿兒島縣	167
新潟縣	1.089	鳥取縣	158	沖繩縣	22
富山縣	404	島根縣	263	官營	300

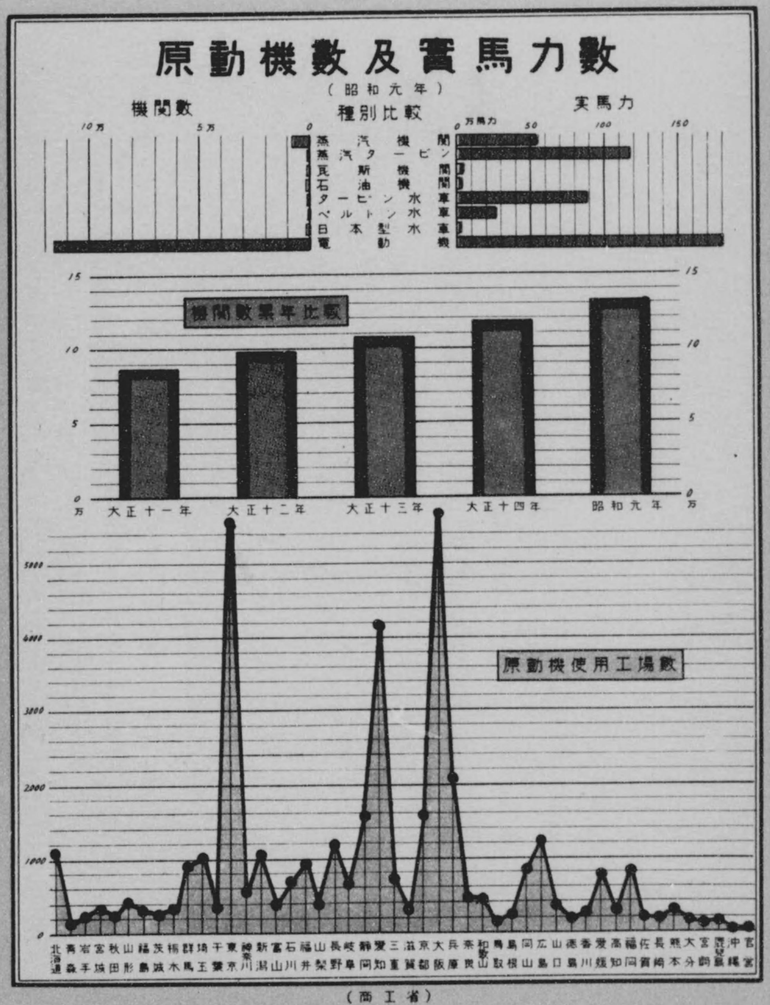
種類別比較（昭和元年）

種類別	機關數	實馬力
蒸汽機關	8.005	535.834
蒸汽タービン	747	1.160.279
瓦斯機關	1.095	37.617
石油機關	1.671	21.277
タービン水車	785	871.403
ペルトン水車	221	225.821
日本形水車	1.596	5.598
電動機	116.675	1.794.644

最近五ケ年使用原動機比較（機關數）

種別	大正十一年	大正十二年	大正十三年	大正十四年	昭和元年
蒸汽機關	7.762	8.158	8.082	8.080	8.005
蒸汽タービン	625	804	699	859	747
瓦斯機關	3.027	1.910	1.582	1.216	1.095
石油機關	1.391	1.441	1.548	1.713	1.671
タービン水車	566	667	714	732	785
ペルトン水車	154	206	229	195	221
日本形水車	1.630	1.944	1.831	1.624	1.596
電動機	71.157	82.605	93.134	104.346	116.675

註（商工省調査「工場統計表」ニ據ル）



（商工省）

原動機數及實馬力數

府縣別	原動機使用工場數	府縣別	原動機使用工場數	府縣別	原動機使用工場數
北海道	1,054	石川縣	715	岡山縣	830
青森縣	168	福井縣	959	廣島縣	1,229
岩手縣	265	山梨縣	400	山口縣	375
宮城縣	366	長野縣	1,217	德島縣	193
秋田縣	272	岐阜縣	667	香川縣	282
山形縣	444	靜岡縣	1,589	愛媛縣	785
福島縣	516	愛知縣	4,194	高知縣	313
茨城縣	274	三重縣	722	福岡縣	809
栃木縣	379	滋賀縣	311	佐賀縣	211
群馬縣	930	京都府	1,695	長崎縣	205
埼玉縣	1,031	大阪府	5,691	熊本縣	312
千葉縣	381	兵庫縣	2,105	大分縣	178
東京府	5,565	奈良縣	483	宮崎縣	139
神奈川縣	575	和歌山縣	472	鹿兒島縣	167
新潟縣	1,089	鳥取縣	158	沖繩縣	22
富山縣	404	島根縣	263	官營	300

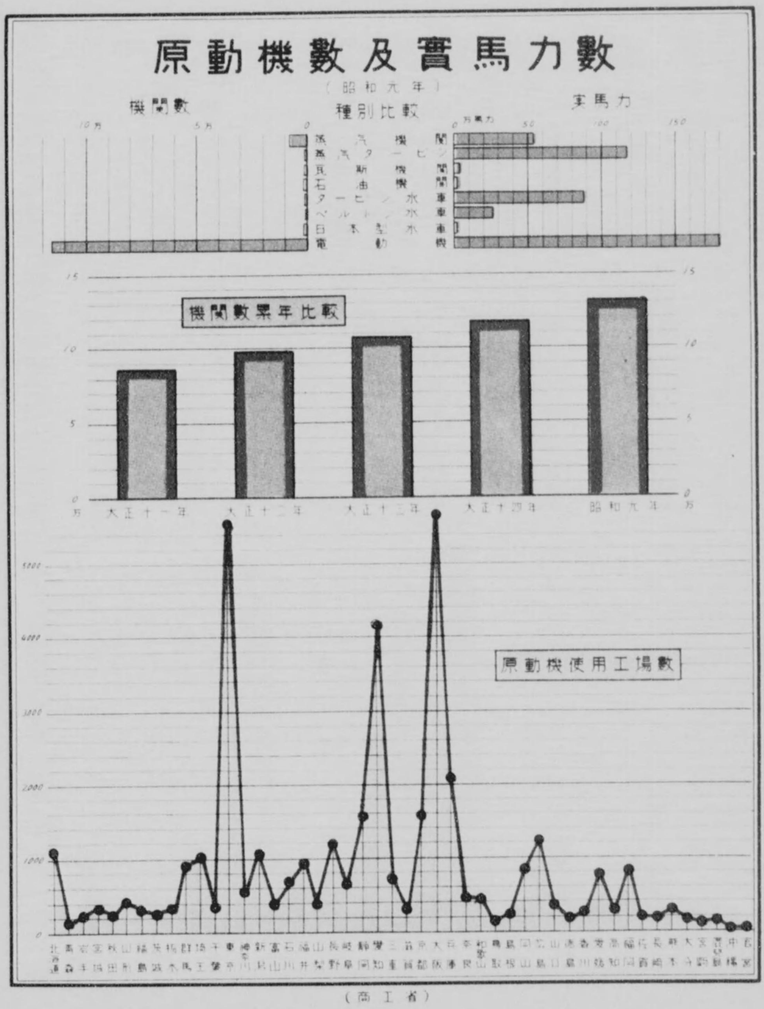
種類別比較（昭和元年）

種類別	機關數	實馬力
蒸汽機關	8,005	535,881
蒸汽タービン	747	1,160,279
瓦斯機關	1,095	37,617
石油機關	1,671	21,277
タービン水車	785	871,403
ペルトン水車	221	225,821
日本形水車	1,596	5,598
電動機	116,675	1,794,644

最近五ヶ年使用原動機比較（機關數）

種別	大正十一年	大正十二年	大正十三年	大正十四年	昭和元年
蒸汽機關	7,762	8,158	8,082	8,080	8,005
蒸汽タービン	625	804	699	859	747
瓦斯機關	3,027	1,910	1,582	1,216	1,095
石油機關	1,391	1,441	1,548	1,713	1,671
タービン水車	566	667	714	732	785
ペルトン水車	154	206	229	195	221
日本形水車	1,630	1,944	1,831	1,624	1,596
電動機	71,157	82,605	93,134	104,346	116,675

註（商工省調査「工場統計表」ニ據ル）



（商工省）

食料品工業概況（二）

もとより異論も多からうが、酒類は嗜好品よりは却て食料品工業の生産として、重大な位置に在るものであるから、こゝに其の醸造を嵌入して眺めたのである。酒の存在に關する世論は、今尚囂々として止むを知らず、存否兩論の各々自家に好適なる事例を採つて喧騒を極めることは、唯凄じい現象として茲には姑く措くとするも、酒の醸造が直ちに國稅收入の大きな金額を生みつゝあることだけは事實であつた。一方には鹽や煙草と同じく官營にせんとする運動さへ起つてゐるのである。明治四十二年以來の造石高を見ても、圖の如く非常な昂騰を知るに足り、殆ど止まる處を知らぬかの感がある。更に全國府縣別に概觀すると、兵庫が名實ともに古法と謳はれるものを以て、昭和元年度七二、〇五二、八一七圓となり、最早何地も之には及ばず、而も熊本が五六、二三六、一六九圓の第二位とあるは、自ら別種の感を抱かせるものがあつた。東京の如きは京都、北海道に劣り、沖繩にして、宮崎より稍々劣き額を見る、寧ろ酒の遍きに驚くべく、これも大半は清酒であつて、燒酎、麥酒はこの頃の增額で、尚遠く清酒の石數と金額とは希まれぬのである。

食料品工業概況（其一）

昭和元年府縣別酒類生產額

（單位圓）

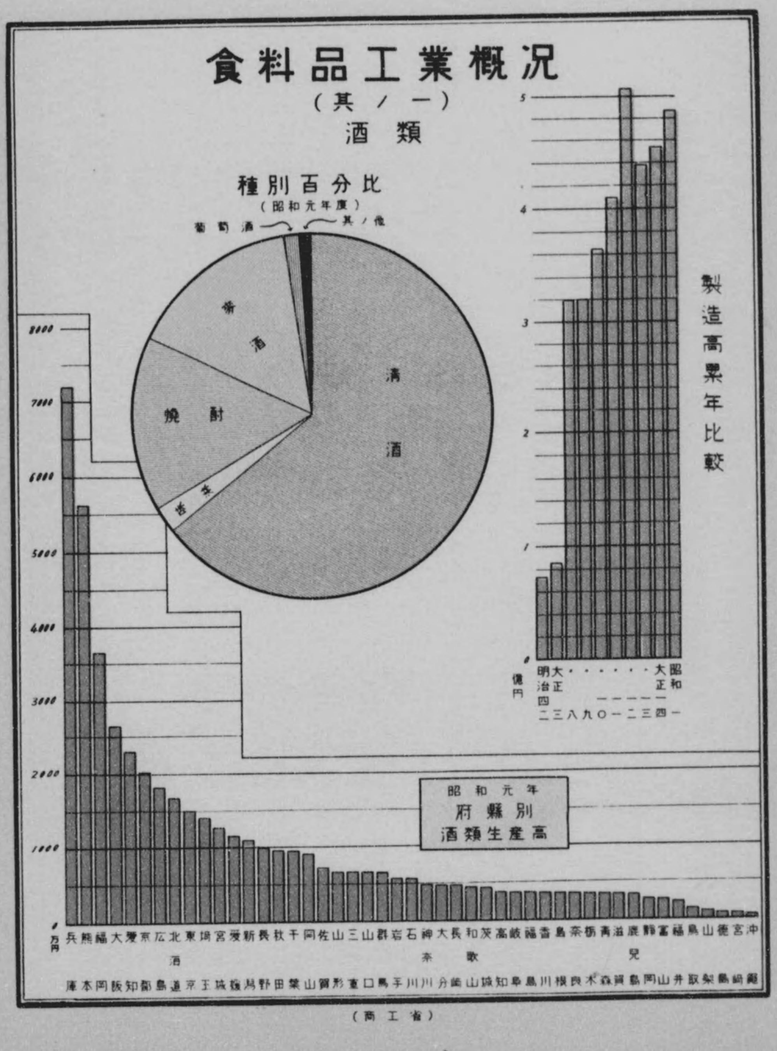
府縣別	生產額	府縣別	生產額	府縣別	生產額
北海道	16,662,073	石川縣	5,615,248	岡山縣	9,089,270
青森縣	3,346,355	福井縣	2,171,785	廣島縣	18,122,168
岩手縣	5,663,514	山梨縣	1,026,198	山口縣	6,513,507
宮城縣	12,768,349	長野縣	9,923,711	德島縣	684,056
秋田縣	9,590,797	岐阜縣	3,738,891	香川縣	3,659,057
山形縣	6,608,386	靜岡縣	2,790,656	愛媛縣	11,517,396
福島縣	3,682,961	愛知縣	22,905,944	高知縣	3,841,078
茨城縣	4,278,590	三重縣	6,541,958	福岡縣	36,586,468
栃木縣	3,445,318	滋賀縣	3,282,082	佐賀縣	7,108,587
群馬縣	6,301,943	京都府	20,873,202	長崎縣	4,750,487
埼玉縣	14,071,036	大阪府	26,695,640	熊本縣	56,236,169
千葉縣	9,441,057	兵庫縣	72,052,817	大分縣	4,827,224
東京府	14,926,039	奈良縣	3,505,865	宮崎縣	658,425
神奈川縣	4,929,441	和歌山縣	4,385,203	鹿兒島縣	3,148,539
新潟縣	11,023,608	鳥取縣	1,185,573	沖繩縣	409,254
富山縣	2,760,281	島根縣	3,656,460	合計	487,029,666

酒類製造額累年比較

（單位圓）

年次	清酒	味淋	燒酎	麥酒	葡萄酒	其他	計
明治四十二年	64,015,592	1,486,671	1,101,592	7,209,807	453,274	444,988	74,771,924
大正三年	69,892,325	2,164,559	3,172,864	10,535,344	461,924	291,083	86,516,099
大正八年	240,421,581	8,572,641	17,381,748	42,044,212	8,695,965	2,433,032	319,549,179
大正九年	227,496,490	7,717,115	24,390,035	48,701,053	1,250,321	2,015,957	319,970,971
大正十年	269,215,545	9,560,283	18,426,091	59,205,471	2,860,014	4,582,615	363,850,019
大正十一年	272,453,996	6,933,540	20,489,326	100,978,763	1,304,119	7,219,750	409,379,494
大正十二年	405,712,482	6,571,256	19,965,253	65,771,340	5,733,595	2,927,625	506,681,551
大正十三年	339,269,684	9,000,947	23,506,385	55,361,251	6,737,887	2,237,891	438,343,345
大正十四年	322,431,958	7,791,770	24,759,756	81,037,470	5,504,576	3,721,932	455,592,869
昭和元年	313,419,561	10,217,062	75,690,636	74,231,418	4,810,523	2,838,065	487,029,666

註（商工省調査『工場統計表』ニ據ル）



（商工省）

食料品工業概況（其一）

昭和元年府縣別酒類生產額

（單位圓）

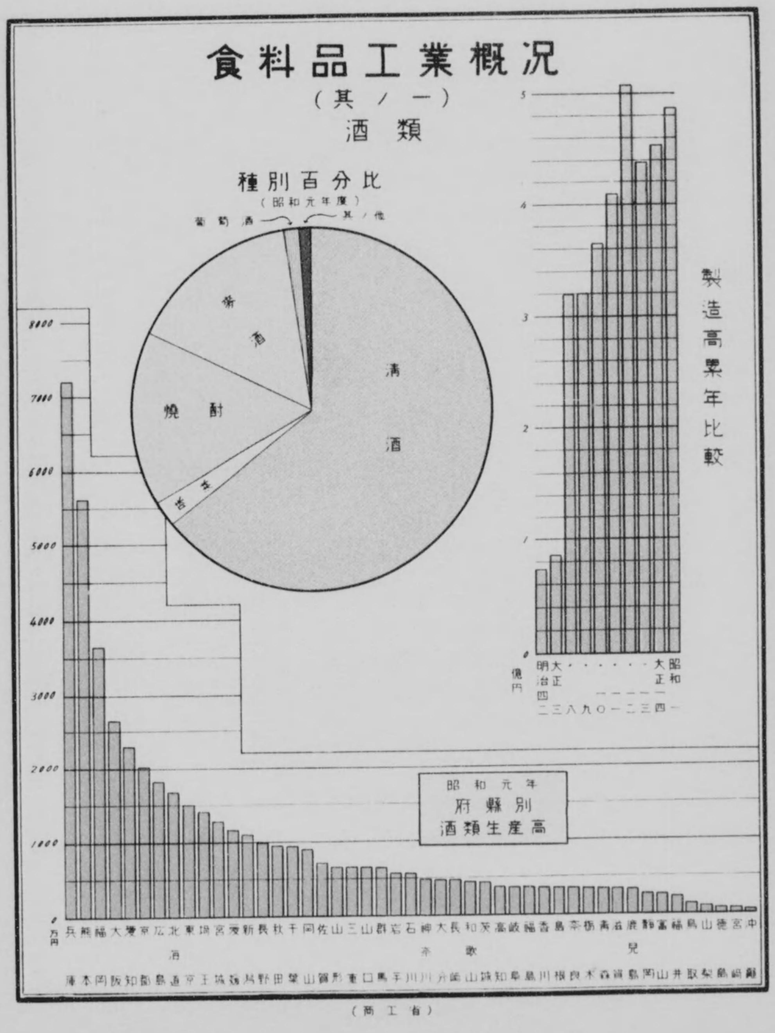
府縣別	生產額	府縣別	生產額	府縣別	生產額
北海道縣	16,662,073	石川縣	5,615,248	岡山縣	9,089,270
青森縣	3,346,855	福井縣	2,171,785	廣島縣	18,122,168
岩手縣	5,663,514	山梨縣	1,026,198	山口縣	6,513,507
宮城縣	12,768,349	長野縣	9,923,711	德島縣	684,056
秋田縣	9,590,797	岐阜縣	3,738,891	香川縣	3,659,057
山形縣	6,608,386	靜岡縣	2,790,656	愛媛縣	11,517,393
福島縣	3,682,961	愛知縣	22,905,944	高知縣	3,841,078
茨城縣	4,278,590	三重縣	6,511,958	福岡縣	36,586,468
栃木縣	3,445,318	滋賀縣	3,282,082	佐賀縣	7,108,587
群馬縣	6,301,943	京都府	20,873,202	長崎縣	4,750,487
埼玉縣	14,071,036	大阪府	26,695,640	熊本縣	56,236,168
千葉縣	9,411,057	兵庫縣	72,052,817	大分縣	4,827,224
東京府	14,926,039	奈良縣	3,505,865	宮崎縣	658,425
神奈川縣	4,929,441	和歌山縣	4,385,203	鹿兒島縣	3,148,539
新潟縣	11,023,608	鳥取縣	1,185,573	沖繩縣	409,254
富山縣	2,760,281	島根縣	3,656,460	計	487,029,666

酒類製造額累年比較

（單位圓）

年次	清酒	味淋燒酎	麥酒	葡萄酒	其他	計
明治四十二年	64,015,592	1,486,671	1,101,592	7,209,807	453,274	444,988	74,771,924
大正三年	69,892,325	2,164,559	3,172,864	10,533,344	461,924	291,083	86,516,099
大正八年	240,421,581	8,572,641	17,381,748	42,044,212	8,695,965	2,433,032	319,549,179
大正九年	227,496,490	7,717,115	24,390,035	48,701,053	1,250,321	2,015,957	319,970,971
大正十年	269,215,545	9,560,283	18,426,091	59,205,471	2,860,014	4,582,615	363,850,019
大正十一年	272,453,996	6,933,540	20,489,326	100,978,763	1,304,119	7,219,750	409,379,494
大正十二年	405,712,482	6,571,256	19,965,253	65,771,340	5,733,595	2,927,625	506,681,551
大正十三年	339,269,684	9,000,947	23,506,385	55,361,251	6,737,887	2,237,891	438,343,345
大正十四年	322,431,958	7,791,770	24,759,756	81,037,470	5,504,576	3,721,932	455,592,869
昭和元年	313,419,561	10,217,062	75,690,636	74,231,418	4,810,523	2,838,065	487,029,666

註（商工省調査「工場統計表」ニ據ル）



（商工省）

食料品工業概況（二）

こゝには酒類を除く食料品の生産狀態を列擧してあるが、國内工業として先づ、尨大な結果を求めるならば、指を砂糖と小麥粉に折らねばならぬ。砂糖は昭和元年度實に一九六、一二四、三九七圓の產額を示し、而もこれで大に不足を告げ、他よりの入荷を仰ぐこと、前輯に圖した如くであつた。この食品の消費は、恐らく日本の食制史を區劃するものであらう。小麥粉は一三四、八四〇、〇五二圓、これ亦米と同じく自給自足ではなかつた。元來充足せしむべきほどの小麥が穫られぬのである。人は食料工業として直ちに味噌醬油を掲げるが、さらば味噌は如何、一七、三一一、六五〇圓、醬油と溜が九五、四八五、八八一圓、こゝに始めて味噌の至て少量なることを發見するであらう。今となつては寧ろ製氷の七九、二五五、七七二圓、といふものが驚くべきものゝ一であつた。製氷は天然、貯藏の不規律を打破して、盛んに人工氷製作に努められて居る。これは將來ある事業である。それよりも一層の驚愕は、菓子とパンとの額であつた。この年すでに八五、二三九、七七四圓と算せられ、日本人の素常が、いかに甘味を採取する習俗の、至て深いかを覗られると同時に、これが製氷よりも多かつたといふ點に、感慨の厚いものが在るのである。

食料品工業概況（其ノ二）

（酒類ヲ除ク）　（昭和元年）

府縣別生産額　（單位圓）

府縣別	生産額	府縣別	生産額
北海道縣	24,868,578	滋賀縣	754,963
青森縣	2,614,528	京都府	8,779,475
岩手縣	2,033,408	大阪府	71,371,337
宮城縣	6,597,206	兵庫縣	77,176,076
秋田縣	1,511,193	奈良縣	1,993,577
山形縣	1,088,047	和歌山縣	807,664
福島縣	77,360	鳥取縣	876,170
茨城縣	4,363,071	島根縣	1,488,866
栃木縣	12,505,013	岡山縣	8,069,810
群馬縣	19,595,368	島根縣	9,802,433
埼玉縣	9,318,026	廣島縣	3,477,250
千葉縣	34,007,201	山口縣	1,113,759
東京府	95,067,177	德島縣	14,787,810
神奈川縣	76,684,045	香川縣	3,822,855
新潟縣	6,868,556	愛媛縣	741,671
富山縣	1,024,834	高知縣	143,336,149
石川縣	1,832,692	福岡縣	4,763,402
福井縣	1,067,517	佐賀縣	4,231,203
山梨縣	609,426	長崎縣	18,379,965
長野縣	3,873,368	熊本縣	1,753,578
岐阜縣	2,155,625	大分縣	139,397
靜岡縣	21,998,023	宮崎縣	1,822,257
愛知縣	38,231,981	鹿兒島縣	4,137,910
三重縣	4,323,204	沖縄縣	762,208,554

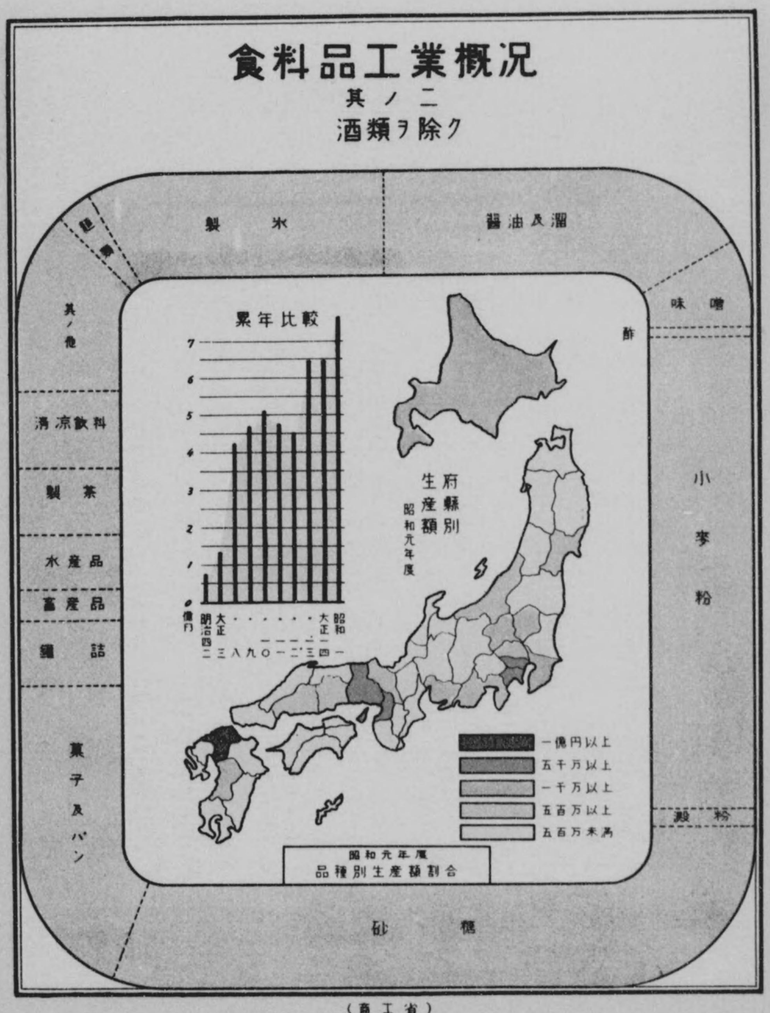
品種別生産額

品種別	生産額
醬油及溜	95,485,881
味噌	17,311,650
酢	2,112,322
小麥粉	134,840,052
澱粉	4,919,996
砂糖	196,124,397
菓子パン	85,239,774
罐詰	20,160,715
畜産品	10,367,638
水産品	17,460,896
製茶	19,259,054
清涼飲料	21,801,860
製氷	79,255,772
麵類	5,908,804
其他計	762,208,554

累年比較　（單位圓）

年次	價額	年次	價額
明治四十二年	72,467,792	大正十一年	477,107,739
大正三年	132,423,365	大正十二年	451,664,042
大正八年	421,124,175	大正十三年	643,904,092
大正九年	467,115,427	大正十四年	641,511,580
大正十年	508,777,551	昭和元年	762,208,554

註（商工省調査「工場統計表」ニ據ル）



（商工省）

食料品工業概況（其ノ二）

（酒類ヲ除ク）　（昭和元年）

府縣別生産額　（單位圓）

府縣別	生産額	府縣別	生産額
北海道縣	24,868,578	滋賀縣	754,963
青森縣	2,614,528	京都府	8,779,475
岩手縣	2,033,408	大阪府	71,371,337
宮城縣	6,597,206	兵庫縣	77,176,076
秋田縣	1,511,193	奈良縣	1,993,577
山形縣	1,088,047	和歌山縣	807,664
福島縣	77,360	鳥取縣	876,170
茨城縣	4,363,071	島根縣	1,488,866
栃木縣	12,505,013	岡山縣	8,069,810
群馬縣	19,595,368	廣島縣	9,802,433
埼玉縣	9,318,026	山口縣	3,477,250
千葉縣	34,057,201	德島縣	1,113,759
東京府	95,067,177	香川縣	14,787,810
神奈川縣	76,684,045	愛媛縣	3,822,855
新潟縣	6,868,556	高知縣	741,671
富山縣	1,024,834	福岡縣	143,336,149
石川縣	1,832,692	佐賀縣	4,763,402
福井縣	1,067,517	長崎縣	4,231,203
山梨縣	609,426	熊本縣	18,379,965
長野縣	3,873,368	大分縣	1,753,578
岐阜縣	2,155,625	宮崎縣	139,397
靜岡縣	21,998,023	鹿兒島縣	1,822,257
愛知縣	38,231,981	沖繩縣	4,137,910
三重縣	4,323,204	合計	762,208,554

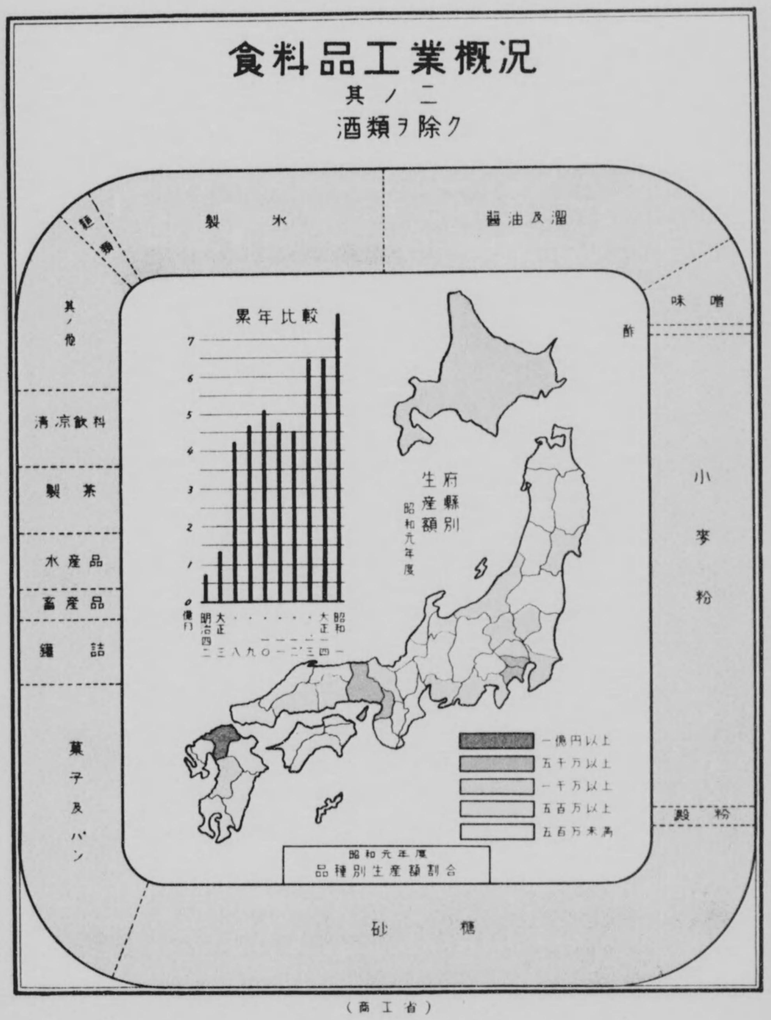
品種別生産額

品種別	生産額
醬油及溜	95,485,881
味噌	17,311,650
酢	2,112,322
小麥粉	134,840,052
澱粉	4,919,996
砂糖	196,124,397
菓子パン	85,239,774
罐詰	20,160,715
畜産品	10,367,638
水産品	17,460,893
製茶	19,259,054
清涼飲料	21,801,860
製氷	79,255,772
麵類	5,908,804
其他計	762,208,554

累年比較　（單位圓）

年次	價額	年次	價額
明治四十二年	72,467,792	大正十一年	477,107,739
大正三年	132,423,365	大正十二年	451,664,042
大正八年	421,124,175	大正十三年	643,904,092
大正九年	467,115,427	大正十四年	641,511,580
大正十年	508,777,551	昭和元年	762,208,554

註（商工省調査「工場統計表」ニ據ル）



（商工省）

我國ノ綿織物生産額比較

綿織物は大正八年以來儼然として物興した本邦工業唯一の盛績であつて、八年度既に七八九、九六四、九三六圓の産額を示した。之を三年度に比べると實に隔世の觀があるのである。世界紛亂當時日本が東洋を始め、海を超えて出來るだけの市場を一手に獨占した好況から、かやうな數を見たのであつて、十一年七三五、二一七、九六五圓となり、十四年の七〇三、〇二四、五九八圓を過ぎて昭和二年には少しく劣るも、それでも六七一、二一一、八六圓となつて現狀を維持して居る有樣なのである。織物の種類から見ると、廣巾物が多く、たとへば、昭和二年などは四六三、七四一、〇三八圓の産額あり、之に比すると細巾物は一七九、五九七、三七〇圓、特殊物に至つては二七、八七三、四五二圓に過ぎなかつた。これを全國の府縣別に見る時には、何と云つても大阪が本邦第一で、昭和二年の調査では實に一四八、一〇六、二一七圓の額を規はして居る大阪は恐らく行々尙一層その數を增す事であらう。愛知の額も決して鮮少ではなかつた。一二〇、五六六、七一三圓、卽ち第二位にある靜岡は愛知には及ぶべくもないが、近來の發展は驚くべきものがあり、五一、〇二〇、五二二圓となつた。東京の一六、七三三、〇二〇圓などは到底問題外で、この工業には多くの望みを嘱することが出來ぬ。寧ろ小國の愛媛、岡山などを注目せねばなるまい。

我國ノ綿織物生産額比較

昭和二年度

（單位圓）

府縣別	産額	府縣別	産額	府縣別	産額
北海道	2,915	石川縣	2,204,041	岡山縣	33,453,902
青森縣	326,125	福井縣	5,985,363	廣島縣	10,928,841
岩手縣	140,487	山梨縣	69,597	山口縣	2,169,599
宮城縣	1,607,961	長野縣	291,867	德島縣	10,820,433
秋田縣	521,507	岐阜縣	12,607,765	香川縣	1,242,361
山形縣	1,591,807	靜岡縣	51,020,522	愛媛縣	38,407,787
福島縣	1,211,029	愛知縣	120,566,713	高知縣	810·890
茨城縣	1,035,850	三重縣	27,285,079	福岡縣	15,556,079
栃木縣	17,691,608	滋賀縣	5,647,265	佐賀縣	705,411
群馬縣	7,366,064	京都府	2,719,004	長崎縣	1,116,411
埼玉縣	1,5471,525	大阪府	148,106,217	熊本縣	1,694,845
千葉縣	1,433,166	兵庫縣	37,244,028	大分縣	2,401,481
東京府	16,733,020	奈良縣	11,919,959	宮崎縣	
神奈川縣	1,617,076	和歌山縣	44,355,061	鹿兒島縣	1,901,967
新潟縣	6,186,186	鳥取縣	30,564	沖繩縣	770,594
富山縣	4,702,594	島根縣	1,289,294	合計	671,211,860

累年比較

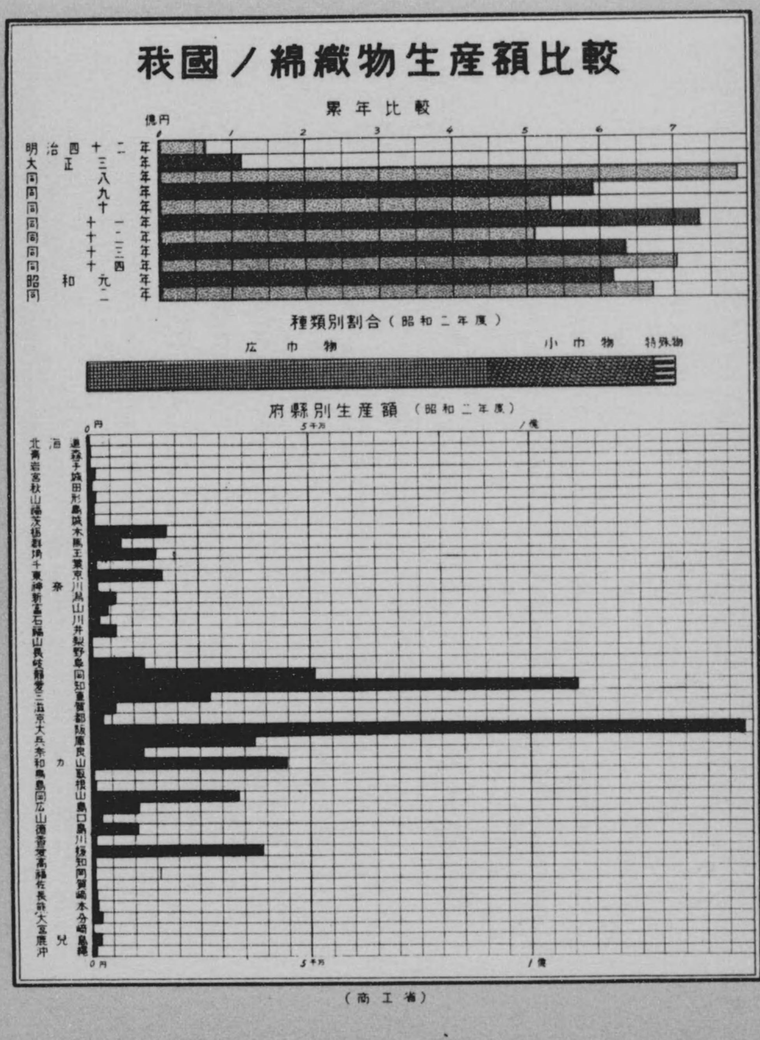
（單位圓）

年次	産額	年次	産額
明治四十二年	61,974,504	大正十二年	511,970,664
大正三年	117,144,786	大正十三年	633,426,657
大正八年	789,964,936	大正十四年	703,024,598
大正九年	591,427,233	昭和元年	617,284,067
大正十年	533,577,617	昭和二年	671,211,860
大正十一年	735,217,965		

種類別割合

廣幅物	463,741,038
小幅物	179,597,370
特殊物	27,873,452

註（商工大臣官房統計課調査「第一次綿織物年表」ニ據ル）



（商工省）

我國ノ綿織物生産額比較

昭和二年度　（單位圓）

府縣別	産額	府縣別	産額	府縣別	産額
北海道	2,915	石川縣	2,204,041	岡山縣	33,453,902
青森縣	326,125	福井縣	5,985,363	廣島縣	10,928,841
岩手縣	140,487	山梨縣	69,597	口山縣	2,169,599
宮城縣	1,607,961	長野縣	291,867	德島縣	10,820,433
秋田縣	524,567	岐阜縣	12,607,765	香川縣	1,242,361
山形縣	1,591,807	靜岡縣	51,020,522	愛媛縣	38,407,787
福島縣	1,211,029	愛知縣	120,566,713	高知縣	810·890
茨城縣	1,035,850	三重縣	27,285,079	福岡縣	15,556,079
栃木縣	17,691,608	滋賀縣	5,647,265	佐賀縣	705,411
群馬縣	7,366,064	京都府	2,719,004	長崎縣	1,116,411
埼玉縣	1,547,525	大阪府	148,106,217	熊本縣	1,694,845
千葉縣	1,433,166	兵庫縣	37,241,028	大分縣	2,401,481
東京府	16,733,020	奈良縣	11,919,959	宮崎縣	
神奈川縣	1,617,976	和歌山縣	44,355,061	鹿兒島縣	1,901,967
新潟縣	6,186,186	鳥取縣	30,564	沖繩縣	770,594
富山縣	4,702,594	島根縣	1,239,294	合計	671,211,860

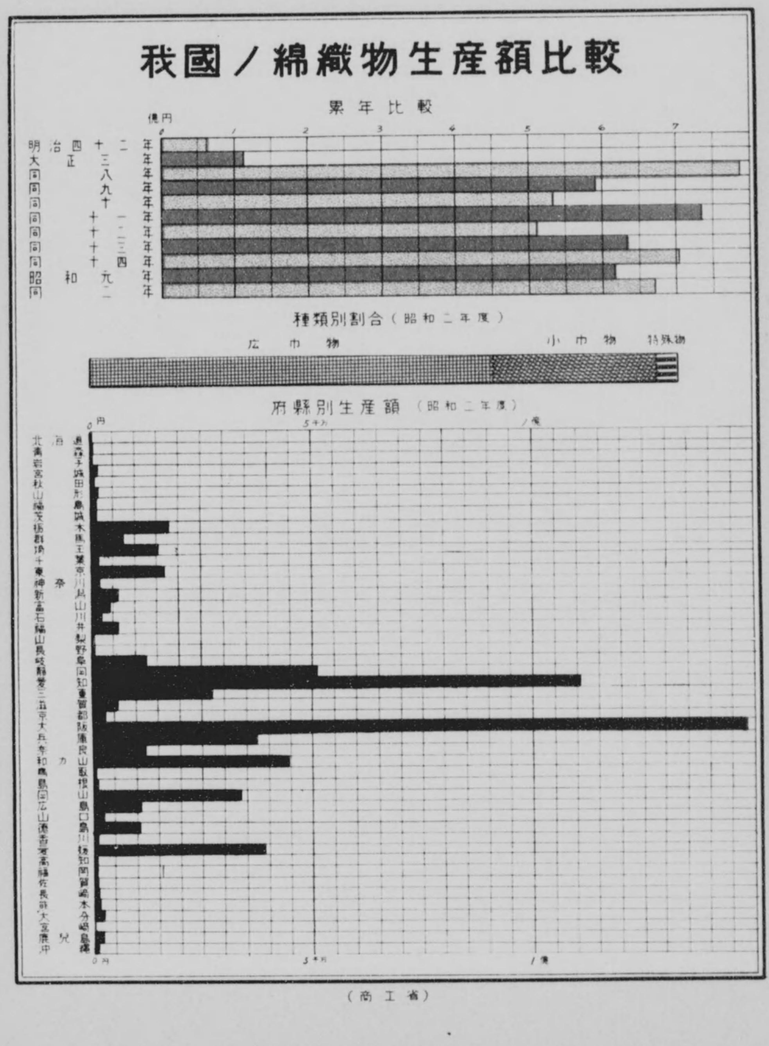
累年比較　（單位圓）

年次	産額	年次	産額
明治四十二年	61,974,504	大正十二年	511,970,664
大正三年	117,144,786	大正十三年	633,426,657
大正八年	789,964,936	大正十四年	703,024,598
大正九年	591,427,233	昭和元年	617,284,067
大正十年	533,577,617	昭和二年	671,211,860
大正十一年	735,217,965		

種類別割合

廣幅物	463,741,038
小幅物	179,597,370
特殊物	27,873,452

註（商工大臣官房統計課調査「第一次綿織物年表」ニ據ル）



（商工省）

府縣別生糸及絹織物生産高

日本の生糸はおよそ神代から傳統ありと稱せられ、國内生産の一となつたことも長い由緒はあるが、これとても常に天候の極りない變化に左右せられ、桑葉の栽培、人手の賃金などの單純な理由と、國の内外に於ける取引關係とで、焦燥な思惑を以て臨むのが常住當業者の差引殘となることは、寧ろ今となつては考ふべきことで、況して人造絹糸の旺んな勢を見ては、些しも油斷が出來ないのであつた。生糸の産額としては、長野が先づ第一を占め、昭和元年度は二一八、八〇五、七一〇圓といふ巨額な生産を見たのである。群馬は鋭意改良の實を揚げて居るが、それでも七二、九八〇、六六四圓、愛知の五九、七五三、六七四圓とともに遠く長野には及ばない。但し第一の長野でも絹織物の生産となつては物の數でもなかつた。この方では福井の五三、二五七、五二一圓を以て首位と推すべく、石川の四七、四八四、四三八圓が第二位、京都の四五、三四八、六四七圓が第三位であつた。京都はこの絹織物にはやはり土地特有の傳唱があつて而も滅失すべからざる妙味がある。大阪はこの生産では東京に及ばなかつた。東京が一三、八六三、六八四圓といふに、大阪は僅に二三四、二九八圓に過ぎず、而も全く生糸が出ないのであつた。

府縣別生絲及絹織物生産高（昭和元年）

生絲産額（單位圓）

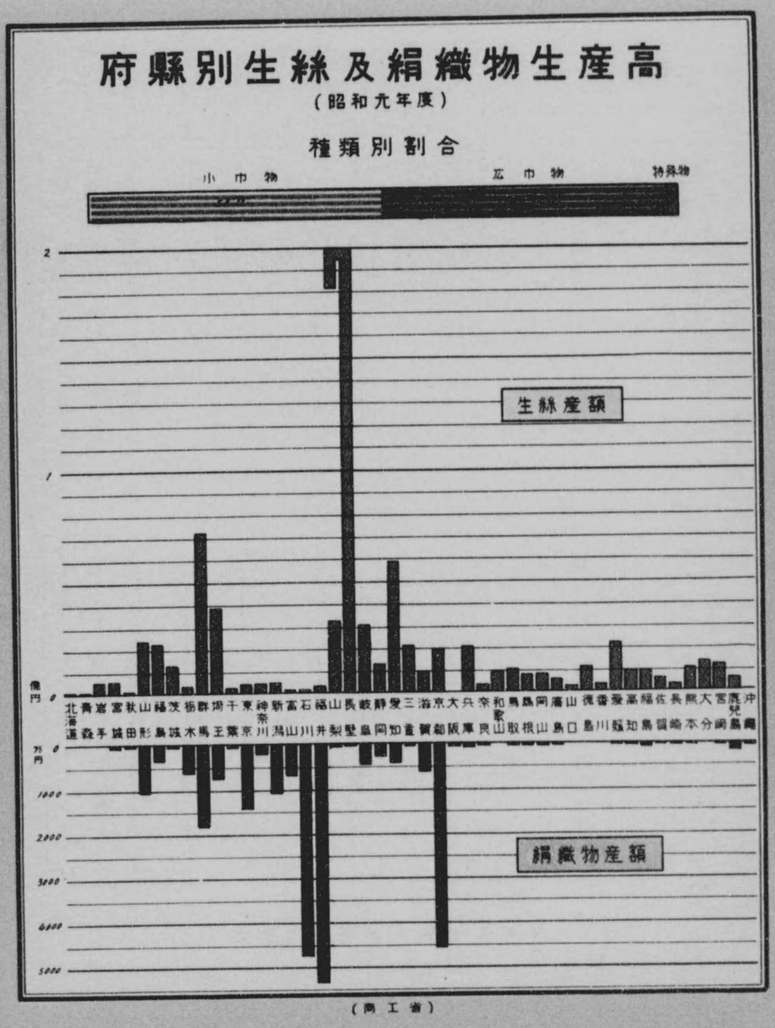
府縣別	産額	府縣別	産額	府縣別	産額
北海道	4.500	石川縣	1.108.211	岡山縣	7.550.780
青森縣	504.150	福井縣	3.233.412	廣島縣	5.447.325
岩手縣	5.627.957	山梨縣	33.587.743	山口縣	1.640.404
宮城縣	6.755.834	長野縣	218.805.710	德島縣	11.320.923
秋田縣	811.650	岐阜縣	31.459.077	香川縣	3.763.800
山形縣	24.239.910	靜岡縣	13.799.055	愛媛縣	22.583.795
福島縣	23.246.037	愛知縣	59.752.674	高知縣	9.082.552
茨城縣	13.399.758	三重縣	20.960.449	福岡縣	9.495.665
栃木縣	3.542.650	滋賀縣	9.942.503	佐賀縣	5.224.877
群馬縣	72.980.664	京都府	19.914.566	長崎縣	2.353.044
埼玉縣	39.789.301	大阪府	——	熊本縣	10.475.939
千葉縣	2.484.758	兵庫縣	21.118.768	大分縣	13.629.751
東京府	4.404.150	奈良縣	3.392.081	宮崎縣	11.970.573
神奈川縣	4.387.554	和歌山縣	9.202.179	鹿兒島縣	5.796.458
新潟縣	5.666.462	鳥取縣	10.466.471	沖繩縣	——
富山縣	956.540	島根縣	7.338.032	計	793.218.890

絹織物産額（單位圓）

府縣別	産額	府縣別	産額	府縣別	産額
北海道	——	石川縣	47.484.438	岡山縣	86.021
青森縣	——	福井縣	53.251.521	廣島縣	63.944
岩手縣	——	山梨縣	1.001.970	山口縣	——
宮城縣	492.403	長野縣	262.081	德島縣	——
秋田縣	12.478	岐阜縣	4.844.633	香川縣	——
山形縣	10.272.797	靜岡縣	2.966.552	愛媛縣	153.197
福島縣	3.881.972	愛知縣	4.210.354	高知縣	323.950
茨城縣	161.537	三重縣	45.751	福岡縣	709.348
栃木縣	5.955.530	滋賀縣	6.159.569	佐賀縣	4.400
群馬縣	18.244.273	京都府	45.348.647	長崎縣	57.198
埼玉縣	7.375.936	大阪府	234.298	熊本縣	21.395
千葉縣	40.459	兵庫縣	720.470	大分縣	——
東京府	13.863.684	奈良縣	17.395	宮崎縣	2.656
神奈川縣	2.170.813	和歌山縣	——	鹿兒島縣	2.204.931
新潟縣	10.624.583	鳥取縣	21.600	沖繩縣	1.286
富山縣	6.539.670	島根縣	16.550	計	249.823.290

種類別	産額
廣幅物	120.348.579
小幅物	126.146.247
特殊物	3.328.464

註（商工省調査「工場統計表」ニ據ル）



府縣別生絲及絹織物生産高（昭和元年）

生絲産額（單位圓）

府縣別	産額	府縣別	産額	府縣別	産額
北海道	1,500	石川縣	1,108,211	岡山縣	7,550,780
青森縣	504,150	福井縣	3,233,412	廣島縣	5,447,325
岩手縣	5,627,957	山梨縣	35,587,743	山口縣	1,640,404
宮城縣	6,755,831	長野縣	218,805,710	德島縣	11,320,923
秋田縣	811,650	岐阜縣	31,459,077	香川縣	3,763,800
山形縣	24,239,910	靜岡縣	13,799,655	愛媛縣	22,583,795
福島縣	23,246,037	愛知縣	50,752,674	高知縣	9,082,552
茨城縣	13,309,758	三重縣	20,960,449	福岡縣	9,495,665
栃木縣	3,542,650	滋賀縣	9,942,563	佐賀縣	5,224,877
群馬縣	72,983,664	京都府	19,014,566	長崎縣	2,353,041
埼玉縣	39,789,301	大阪府		熊本縣	10,475,929
千葉縣	2,484,758	兵庫縣	21,118,768	大分縣	13,629,751
東京府	1,404,150	奈良縣	3,392,084	宮崎縣	11,970,572
神奈川縣	1,887,554	和歌山縣	9,202,179	鹿兒島縣	5,796,458
新潟縣	5,566,462	鳥取縣	10,166,471	沖繩縣	
富山縣	956,540	島根縣	7,338,032	合計	793,218,890

絹織物産額（單位圓）

府縣別	産額	府縣別	産額	府縣別	産額
北海道		石川縣	47,181,438	岡山縣	86,021
青森縣	——	福井縣	53,251,521	廣島縣	63,044
岩手縣		山梨縣	1,001,970	山口縣	
宮城縣	192,403	長野縣	262,081	德島縣	
秋田縣	12,178	岐阜縣	4,841,633	香川縣	
山形縣	10,272,797	靜岡縣	2,966,552	愛媛縣	153,197
福島縣	3,881,972	愛知縣	4,210,354	高知縣	323,950
茨城縣	161,567	三重縣	45,751	福岡縣	709,348
栃木縣	5,955,530	滋賀縣	6,159,569	佐賀縣	1,400
群馬縣	18,241,273	京都府	45,348,647	長崎縣	57,198
埼玉縣	7,375,936	大阪府	231,298	熊本縣	21,395
千葉縣	40,459	兵庫縣	720,170	大分縣	
東京府	15,863,684	奈良縣	17,395	宮崎縣	2,656
神奈川縣	2,470,813	和歌山縣		鹿兒島縣	2,204,931
新潟縣	10,621,583	鳥取縣	21,600	沖繩縣	1,286
富山縣	6,539,670	島根縣	16,550	合計	249,823,290

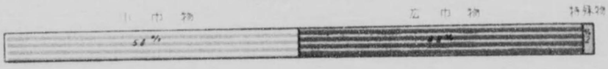
種類別	産額
廣幅物	120,348,579
小幅物	126,146,247
特殊物	3,328,464

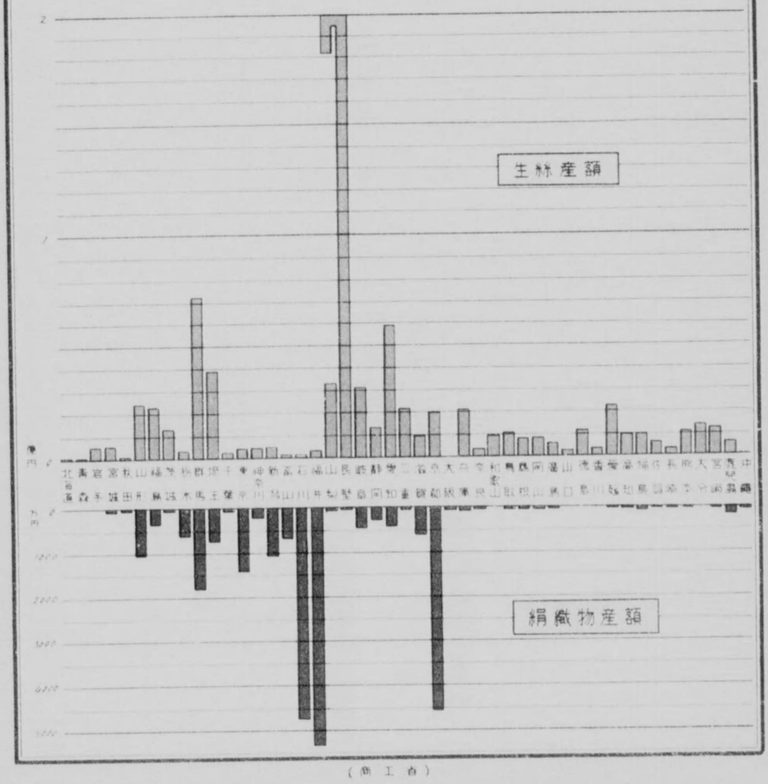
註（商工省調査「工場統計表」ヨリ採ル）

府縣別生絲及絹織物生産高

（昭和元年度）

種類別割合





（商工省）

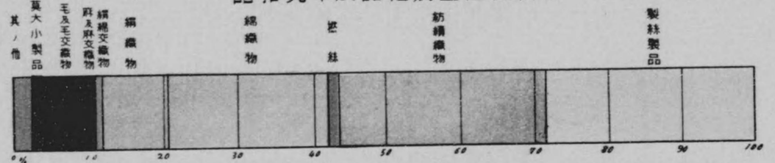
紡織工業生産額

本邦に於ける紡織工業に就ては、衣食住の問題中にも又その他の圖中でも屢々說いたが今こゝに昭和元年度の工産額を概觀すると、先づ品種別では製糸製品が最も多く、八四三、一〇八、二一一圓を示し、之に亞ぐのが紡績製品の八〇六、九三八、六九六圓で綿織物などはこれよりも尠少であつた。綿織物は國內の需要よりは今では却て隣邦支那を始め、關領印度方面へまで徐ろに出向いて行くやうになつたから、それでも六一七、二八四、〇八七圓と算せられたのである。

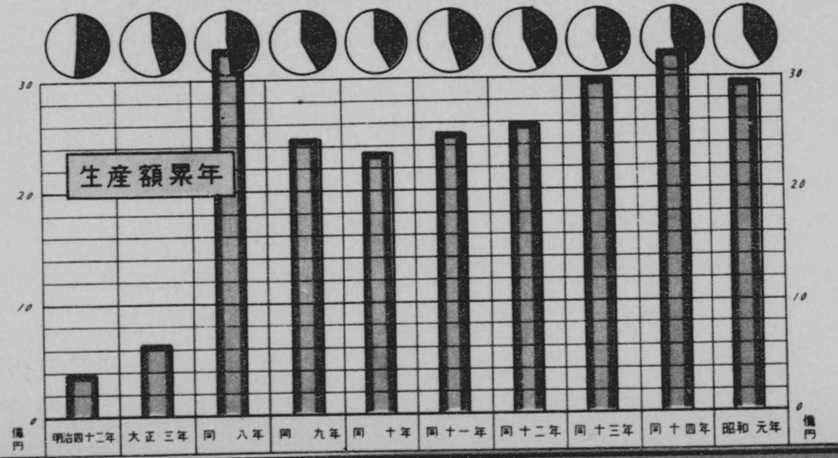
これに比べると絹織物の二四九、八二三、二九〇圓は意外なる量といはねばならぬ。世界裝飾界の趨勢が、金剛石の果てまで人造になつて來るのに、獨り絹ばかりが、天產の而も大いなる危險を期待して市場に赴く筈がない。まことに人造絹糸の呼聲が近來非常に喧傳せられ、もはや日本の絹糸を壓迫せんとするまでの勢を示して居る。こゝで緊張せねば或は悔を千載に貽すことが尠くないとはいひぬ。却て心すべきは毛と毛交の織物であつた。之れこそ機業界に一時期を劃すべきものではなからうか。考ふべきであらうと思ふ。累年の生產額は、改めて何を世人に教へんとするか、注意して欲しいものである。

紡織工業生産額

昭和元年度品種別生産額割合



全工業生産額ニ對シ紡織工業ノ割合



（商工省）

紡織工業生産額

累年比較

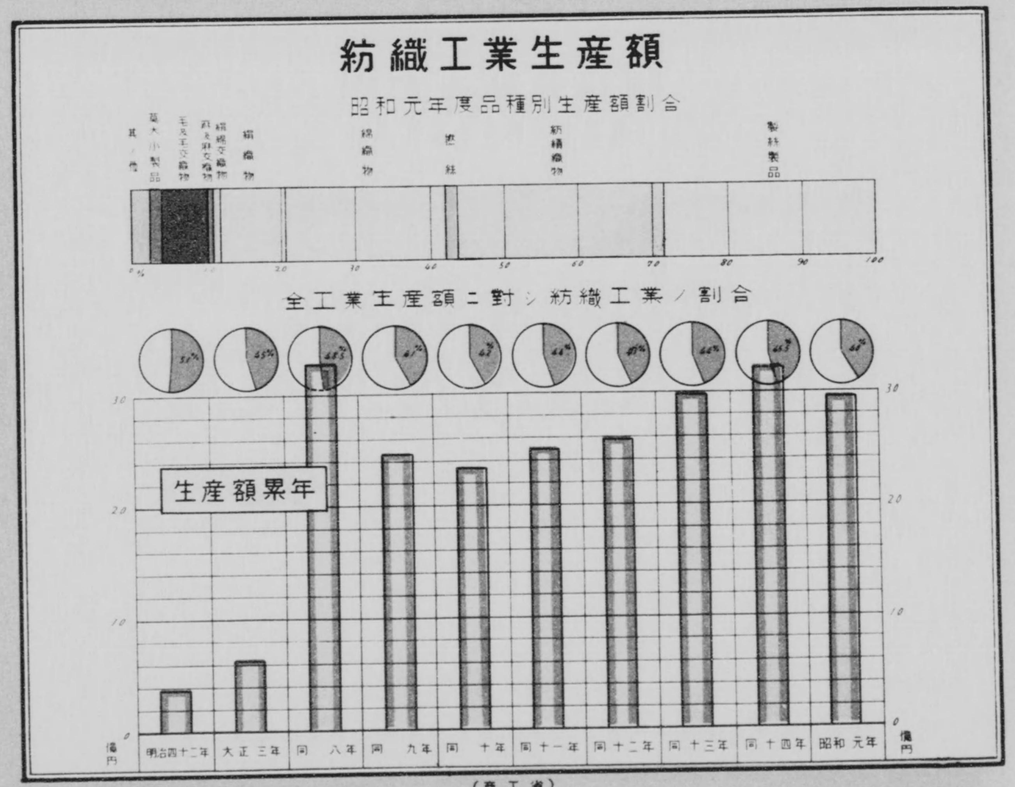
年次	價額
明治四十二年	388.008.858円
大正三年	620.260.600
大正八年	3.295.900.484
大正九年	2.464.813.243
大正十年	2.336.906.685
大正十一年	2.481.227.460
大正十二年	2.568.778.179
大正十三年	2.925.284.552
大正十四年	3.215.299.633
昭和元年	2.872.116.504

昭和元年品種別生産額

品種別	價額
製絲製品	843.108.211円
紡績製品	801.938.696
燃絲	46.092.259
綿織物	617.284.067
絹織物	249.823.290
絹綿交織物	23.512.252
麻及麻交織物	18.703.127
毛及毛交織物	172.755.585
莫大小製品	45.366.507
其他	53.532.510
計	2.872.116.504

註（商工省調査「工場統計表」ニ據ル）

紡織工業生産額



（商工省）

紡織工業生産額

累年比較

年次	價額
明治四十二年	388,008,858
大正三年	620,260,600
大正八年	3,295,900,484
大正九年	2,464,813,243
大正十年	2,336,906,685
大正十一年	2,481,227,460
大正十二年	2,568,778,179
大正十三年	2,925,284,552
大正十四年	3,215,299,633
昭和元年	2,872,116,504

昭和元年品種別生産額

品種別	價額
製絲製品	843,108,211
紡績製品	801,938,696
撚絲	46,092,259
綿織物	617,284,067
絹織物	249,823,290
絹綿交織物	23,512,252
麻及麻交織物	18,703,127
毛及毛交織物	172,755,585
莫大小製品	45,366,507
其他	53,532,510
計	2,872,116,504

註（商工省調査「工場統計表」ニ據ル）

我國機械器具工業概況

機械器具工業は、今のところ雜工業の如く全國に遍からず、六大都市の中京都を除いた五大都市包含の府縣に偏して優勢になつて居る狀況であつて、之は目前需要の額に比匹するものであるから、事情止むを得ぬであらう。東京の昭和元年度產額一五六、九五一、五六三圓が全國第一位を占め、大阪は一一七、二七二、三三六圓で二位ながら劣つてゐた。兵庫の七五、五四二、八四八圓は、愛知よりも嶄然として頭角を拔いて居り、兵庫の大阪に於ける位置が、恰も神奈川の東京に附帶すると同樣ではあるが、神奈川は五五、一二三、三六五圓で兵庫より大に少いのは、東京よりも未だ工業が遍滿せず、而もこれのみならず、常に兵庫にさへ劣ることを表現したものである。又神奈川を側面から知るべき一資料であらう。今、一千萬圓以上に上る品種別生產を眺めると、絕緣電線が最高で七八、〇二五、三七二圓と算せられ、簡にして益ある普及の偉大なる生產を明かに指したのである。之に比すると電氣器具、電球、蓄電池などは到底及ばず、却て車輛、船舶が製作に年數を要する割には價格が多かつた。殊に世界戰當時の大正九年には圖の如き巨額に達したのである。

我國機械器具工業概況

府縣別生產額

（單位圓）

府縣別	生產額	府縣別	生產額	府縣別	生產額
北海道	8,343,147	石川縣	2,482,322	岡山縣	3,039,021
青森縣	99,822	福井縣	185,137	廣島縣	2,910,381
岩手縣	81,900	山梨縣	118,906	山口縣	3,735,912
宮城縣	238,906	長野縣	656,266	德島縣	426,086
秋田縣	166,098	岐阜縣	924,478	香川縣	434,227
山形縣	127,914	靜岡縣	4,460,420	愛媛縣	331,053
福島縣	475,176	愛知縣	34,251,461	高知縣	247,479
茨城縣	8,539,444	三重縣	5,501,323	福岡縣	11,126,334
栃木縣	760,370	滋賀縣	302,363	佐賀縣	1,718,813
群馬縣	3,156,173	京都府	9,360,753	長崎縣	22,370,493
埼玉縣	1,016,335	大阪府	117,272,336	熊本縣	213,910
千葉縣	768,390	兵庫縣	75,542,848	大分縣	272,895
東京府	156,951,563	奈良縣	96,988	宮崎縣	4,440
神奈川縣	55,123,565	和歌山縣	895,388	鹿兒島縣	722,362
新潟縣	1,606,744	鳥取縣	589,557	沖繩縣	30,600
富山縣	509,545	島根縣	727,930	計	538,917,374

累年比較

（單位圓）

年次	生產額
明治四十二年	40,974,402
大正三年	110,906,291
大正八年	716,241,102
大正九年	888,019,698
大正十年	568,322,143
大正十一年	545,447,171
大正十二年	392,065,669
大正十三年	447,490,419
大正十四年	458,569,513
昭和元年	538,917,374

昭和元年度品種別生產額

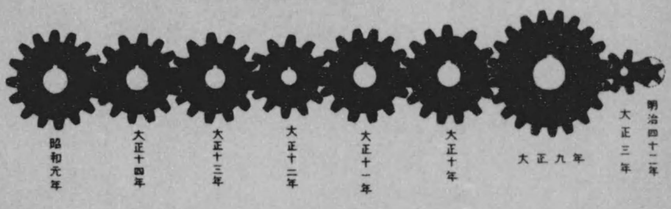
（價額一千萬圓以上）

品別	價額
內燃機關	17,263,206
發電機	23,653,057
電氣器具	43,455,537
電池及通信信號機	26,341,262
電球	15,214,323
絕緣電線	78,025,372
紡績機械器具	18,883,435
時計類	9,576,278
銃砲、彈丸、兵器	15,536,865
車輛	71,707,922
船舶	62,593,451

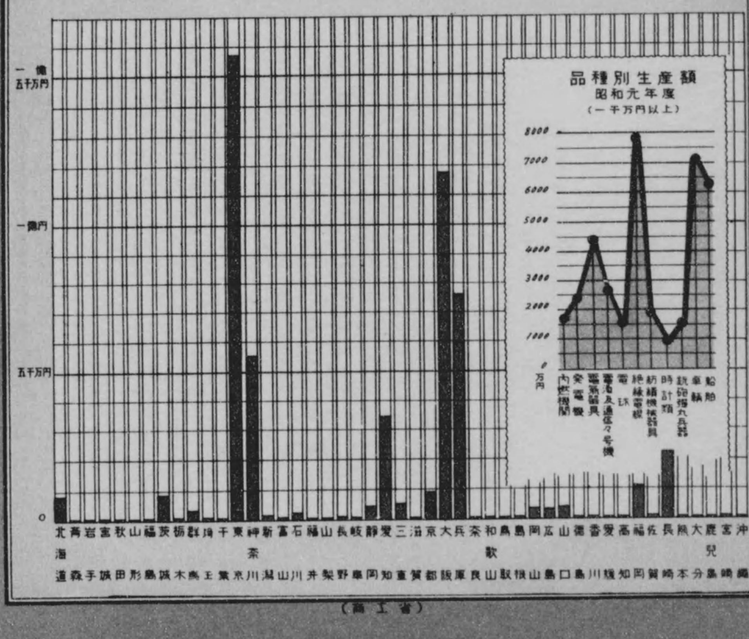
註（商工省調查「工場統計表」ニ據ル）

我國機械器具工業概況

生產額累年割合



生產額府縣別



（商工省）

我國機械器具工業概況

府縣別生産額

（單位圓）

府縣別	生産額	府縣別	生産額	府縣別	生産額
北海道	8,343,147	石川縣	2,482,322	岡山縣	3,039,021
青森縣	99,822	福井縣	185,137	廣島縣	2,910,381
岩手縣	81,900	山梨縣	118,906	山口縣	3,735,912
宮城縣	238,906	長野縣	656,266	德島縣	426,086
秋田縣	166,098	岐阜縣	924,478	香川縣	434,227
山形縣	127,914	靜岡縣	4,460,420	愛媛縣	331,053
福島縣	475,176	愛知縣	34,251,461	高知縣	247,479
茨城縣	8,539,444	三重縣	5,501,323	福岡縣	11,126,334
栃木縣	760,370	滋賀縣	302,363	佐賀縣	1,718,813
群馬縣	3,156,173	京都府	9,360,753	長崎縣	22,370,493
埼玉縣	1,016,335	大阪府	117,272,336	熊本縣	213,910
千葉縣	768,390	兵庫縣	75,542,848	大分縣	272,895
東京府	156,951,563	奈良縣	96,988	宮崎縣	4,440
神奈川縣	55,123,565	和歌山縣	895,388	鹿兒島縣	722,362
新潟縣	1,606,744	鳥取縣	589,557	沖繩縣	30,600
富山縣	509,545	島根縣	727,930	合計	538,917,374

累年比較

（單位圓）

年次	生産額
明治四十二年	40,974,402
大正三年	110,906,291
大正八年	716,241,102
大正九年	888,019,698
大正十年	568,322,143
大正十一年	545,447,171
大正十二年	392,065,669
大正十三年	447,490,419
大正十四年	458,569,513
昭和元年	538,917,374

昭和元年度品種別生産額

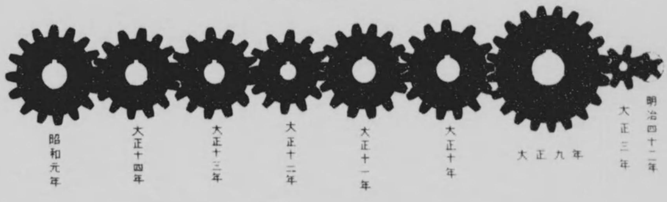
（價額一千萬圓以上）

品別	價額
內燃機關	17,263,206
發電機	23,653,057
電氣器具	43,455,537
電池及通信裝置	26,341,262
電球	15,214,323
絕緣電線	78,025,372
紡織機械器具	18,883,435
時計類	9,576,278
銃砲、彈丸、兵器	15,536,865
車輛	71,707,922
船舶	62,593,451

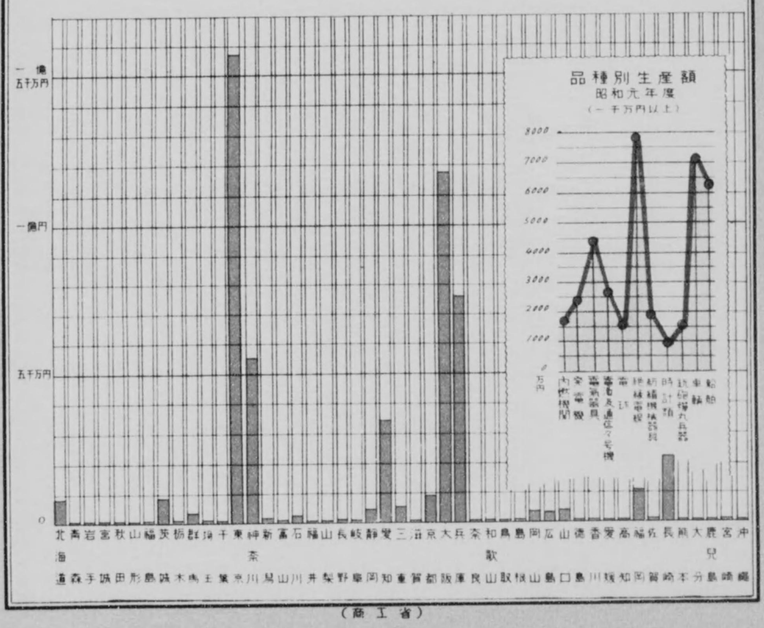
註（商工省調査「工場統計表」ニ據ル）

我國機械器具工業概況

生産額累年割合



生産額府縣別



（商工省）

化學工業生產額

化學工業の成績では、綜合した工產が全國中大阪が首位であるに反し、これは東京が第一位であつた。昭和元年度の產額一七三、八一七、四四二圓を示し、大阪の一六〇、八〇八、二〇九圓と比して稍々優勢である。兵庫は全體の趨勢と同じく三位となり、北海道は福岡よりも多かつた。今、主要なる品種の各產額を調べて見ると、印刷用紙が最も多いことは、我等の概念を一層昂めるものがある、まことに近來の印刷がすべての方面に漫漲して居る事は、之れを十年以前と比べたら隔世の感があらう。この用紙が九八、六二一、一四四圓となり、其他の紙類でも八一、〇〇八、五四六圓と算せられて、人造肥料の八六、一二五、三〇三圓と肩を並べる程度であつた。これらと比すると肝要なるべき工業藥品などは四五、四二二、七六二圓、賣藥が四四、五四一、〇二二圓で未だ餘地はありながら到底及ばぬといふことは、餘程考量の價値があると思はれる。それにしても七四、九九七、一九四圓と計上せられた化粧品顏料石鹼は大きいものであつた。これなどは重に工業藥品の副產物であつたものが、需給の巨額に應じて別途の工業になつたものと解すべく、パルプ、コークスなどはこの足下へも寄りつけぬ。明治四十二年以來の年序を逐ふ產額の消長は、何と指示するものであらうか。

化學工業生産額

府縣別生産額

（單位圓）

府縣別	生産額	府縣別	生産額	府縣別	生産額
北海道	49,430,628	石川縣	2,320,035	岡山縣	9,812,956
青森縣	269,729	福井縣	3,170,122	廣島縣	9,148,977
岩手縣	324,875	梨縣	147,631	山口縣	18,825,904
宮城縣	825,181	野縣	3,372,252	德島縣	1,433,083
秋田縣	185,024	阜縣	4,394,200	香川縣	4,232,011
山形縣	1,482,671	岡縣	47,188,734	愛媛縣	8,037,518
福島縣	1,615,939	知縣	15,624,703	高知縣	6,827,412
茨城縣	603,959	重縣	5,920,850	福岡縣	29,702,960
栃木縣	1,682,884	賀縣	12,062,425	佐賀縣	3,140,305
群馬縣	1,251,688	都府	7,657,622	長崎縣	1,728,684
埼玉縣	818,055	阪府	160,808,209	熊本縣	19,987,137
千葉縣	2,951,241	庫縣	127,615,276	大分縣	1,163,880
東京府	173,817,442	良縣	3,610,688	宮崎縣	3,599,418
神奈川縣	18,330,193	歌山縣	7,325,030	鹿兒島縣	1,528,103
新潟縣	13,102,150	取縣	283,807	沖繩縣	57,388
富山縣	23,138,830	根縣	2,843,079	合計	813,403,888

累年比較

（單位圓）

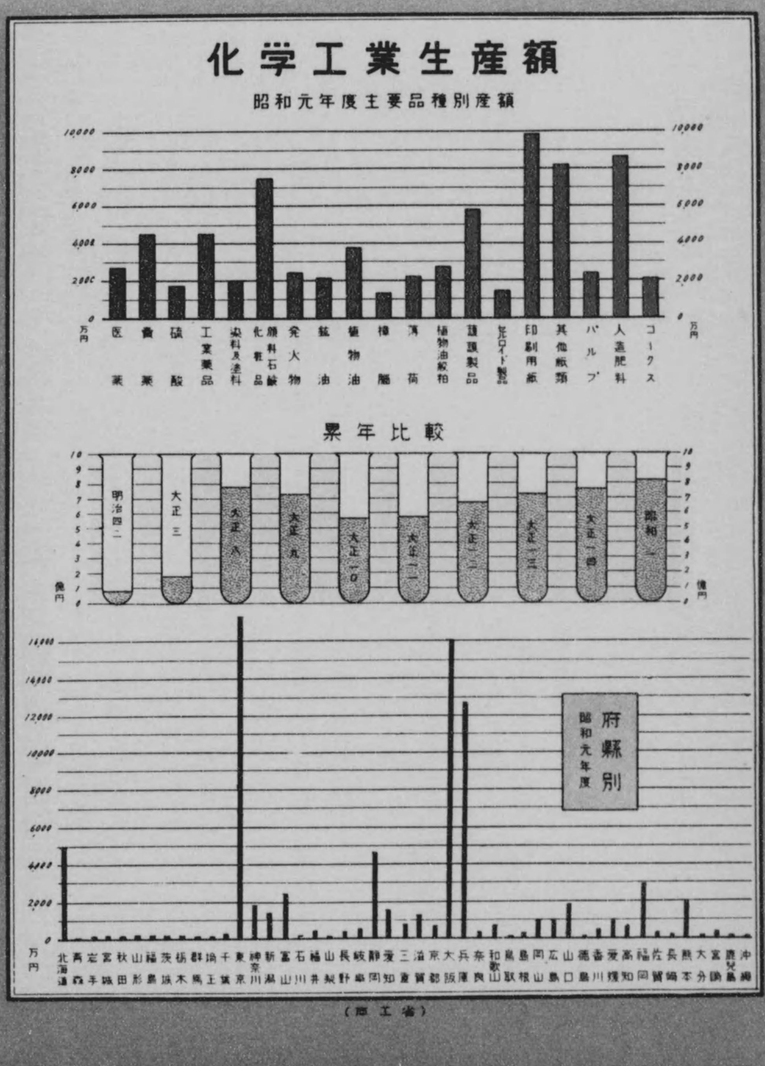
年次	生産額	年次	生産額
明治四十二年	86,414,189	大正十一年	572,135,739
大正三年	174,905,271	大正十二年	673,255,424
大正八年	776,942,633	大正十三年	729,221,513
大正九年	724,975,704	大正十四年	757,352,068
大正十年	568,788,006	昭和元年	813,403,888

昭和元年度主要品種別産額

（單位圓）

品別	産額	品別	産額	品別	産額
醫藥	28,051,783	鑛油	21,070,613	用紙類	98,621,144
曹達	44,541,022	植物油	37,791,955	刷用紙	81,008,456
硫酸	18,232,952	樟腦	13,462,942	他ノ肥料	23,222,178
工業藥品	45,422,762	薄荷	22,028,070	ボール紙	86,125,303
染料及塗料	20,029,617	植物油絞粕	27,459,814	印刷用	20,338,173
顏料、石鹼、化粧品	74,997,194	護謨製品	58,600,248	パルプ	
發火物	23,558,411	セルロイド製品	15,808,635	人造肥料	
				コークス	

註（商工省調査「工場統計表」ニ據ル）



化學工業生産額

府縣別生産額

（單位圓）

府縣別	生産額	府縣別	生産額	府縣別	生産額
北海道縣	49,430,628	石川縣	2,320,035	岡山縣	9,812,956
青森縣	269,729	福井縣	3,170,122	廣島縣	9,148,977
岩手縣	324,875	山梨縣	147,631	山口縣	18,825,904
宮城縣	825,181	長野縣	3,372,252	德島縣	1,433,083
秋田縣	185,024	岐阜縣	4,394,200	香川縣	4,232,011
山形縣	1,482,671	靜岡縣	47,188,734	愛媛縣	8,037,518
福島縣	1,615,939	愛知縣	15,624,703	高知縣	6,827,412
茨城縣	603,959	三重縣	5,920,850	福岡縣	29,702,960
栃木縣	1,682,884	滋賀縣	12,062,425	佐賀縣	3,140,305
群馬縣	1,251,688	京都府	7,657,622	長崎縣	1,728,684
埼玉縣	818,055	大阪府	160,808,209	熊本縣	19,987,137
千葉縣	2,951,241	兵庫縣	127,615,276	大分縣	1,163,880
東京府	173,817,442	奈良縣	3,610,688	宮崎縣	3,599,418
神奈川縣	18,330,193	和歌山縣	7,325,030	鹿兒島縣	1,528,103
新潟縣	13,102,150	鳥取縣	283,807	沖繩縣	57,388
富山縣	23,138,830	島根縣	2,843,079	合計	813,403,888

累年比較

（單位圓）

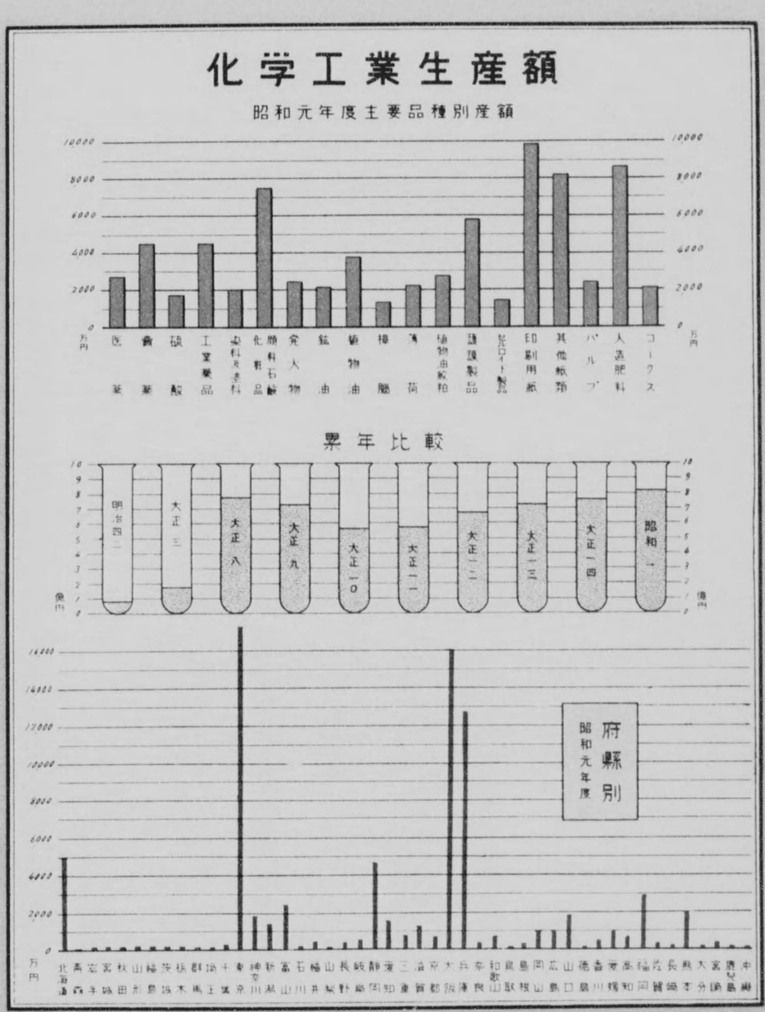
年次	生産額	年次	生産額
明治四十二年	86,414,189	大正十一年	572,135,739
大正三年	174,905,271	大正十二年	673,255,424
大正八年	776,942,633	大正十三年	729,221,513
大正九年	724,975,704	大正十四年	757,352,068
大正十年	568,788,006	昭和元年	813,403,888

昭和元年度主要品種別産額

（單位圓）

品別	産額	品別	産額	品別	産額
醫藥	28,051,783	鑛油	21,070,613	印刷用紙	98,621,144
賣藥	44,541,022	植物油	37,791,955	其他紙類	81,008,456
硫酸	18,232,952	樟腦	13,462,942	パルプ	23,222,178
工業藥品	45,422,762	薄荷	22,028,070	人造肥料	86,125,303
染料及塗料	20,029,617	植物油絞粕	27,459,814	コークス	20,338,173
揮發油、石鹼、化粧品	74,997,194	護謨製品	58,600,248		
發火物	23,558,411	セルロイド製品	15,808,635		

註（商工省調査「工場統計表」ニ據ル）



製材及木製品工業生産額

製材と木製品とは日本が林産國であるだけに、なか〳〵凄じい勢を示して居る。明治四十二年からの消長を概觀しても實に隔世の感があつた。大正十二年の製材が一三八、五七七、五五六圓木製品が五六、四四二、一五二圓となつたが如きは、前後曾て見ぬ計上であつて、東京一圓の大災害で尚、一段と木材の需要が增した、今主要生産品の種目を見ると、何と云つても板材が第一で、六三、九四四、六二九圓、卽ち製材がこの板材とすることを主目的とする業をよく表はして居り、角材は一歩の差を以て未だ建具や家具にならず、ましてその他の樽材や木箱には、どうしても先づ板から作らねばならぬ。それでも角材は三七、〇九九、八九二圓と算せられた。包裝用木箱が二一、一三五、五九九圓とあるのは意外であつて、之に比するとヨルク、下駄、木管などはものゝ數でもなかつた。燐寸は小材ながらかく迄充滿するから定めし巨數かと思へば下駄材よりも少いのである。纏つてこの結果を全國府縣別に求めると、東京が一位で二二、八五六、一一八圓、大阪は一九、一四七、七三一圓の二位を占め、愛知と北海道が三位、何事でも勝い、秋田が兵庫よりも多いのは、天産の餘德であつた。靑森の如きはもはや神奈川よりも不足なのである。

製材及木製品工業生産額

府縣別生産額

（單位圓）

府縣別	生産額	府縣別	生産額	府縣別	生産額
北海道	17.542.118	石川縣	2.250.293	岡山縣	729.192
青森縣	5.725.250	福井縣	161.105	廣島縣	7.391.114
岩手縣	1.384.779	山梨縣	294.085	山口縣	1.120.957
宮城縣	791.478	長野縣	428.343	德島縣	2.028.955
秋田縣	14.678.890	岐阜縣	1.014.853	香川縣	827.532
山形縣	1.411.078	靜岡縣	14.243.110	愛媛縣	752.522
福島縣	732.815	愛知縣	17.545.652	高知縣	1.473.542
茨城縣	614.090	三重縣	2.307.124	福岡縣	2.323.640
栃木縣	465.837	滋賀縣	441.308	佐賀縣	103.699
群馬縣	627.020	京都府	4.654.268	長崎縣	163.339
埼玉縣	839.612	大阪府	19.147.731	熊本縣	907.924
千葉縣	1.386.985	兵庫縣	14.435.517	分縣	1.785.149
東京府	21.856.118	奈良縣	705.795	大分縣	1.470.116
神奈川縣	6.163.956	和歌山縣	7.084.349	宮崎縣	621.813
新潟縣	1.354.527	鳥取縣	763.670	鹿兒島縣	110.584
富山縣	1.780.519	島根縣	700.773	沖繩縣	185.343.126

累年比較

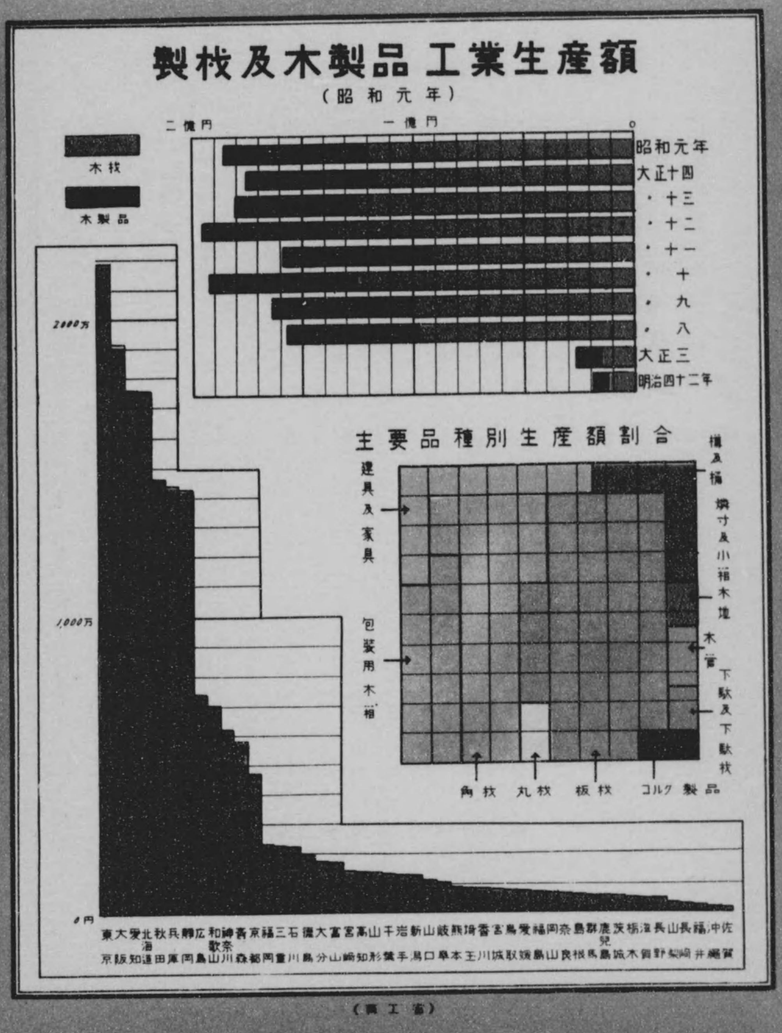
（單位圓）

年次	製材	木製品	計
明治四十二年	12.343.725	7.588.153	19.931.878
大正三年	15.322.564	12.620.681	27.943.245
大正八年	98.194.868	59.758.744	157.953.612
大正九年	100.390.272	63.200.808	163.591.080
大正十年	124.816.400	68.008.180	192.824.580
大正十一年	92.560.660	66.026.155	158.586.815
大正十二年	138.577.556	56.442.152	195.019.708
大正十三年	124.428.070	56.411.630	180.839.700
大正十四年	114.992.110	60.238.573	175.230.683
昭和元年	121.111.634	64.231.492	185.343.126

昭和元年主要品種別

品別	生産額
板材	63.944.629
角材	37.099.892
丸太材	3.552.152
建具及家具	15.663.887
包裝用木箱	21.135.599
櫃及小箱	10.475.020
燒寸木地	26.777.801
木管	3.053.222
下駄及下駄材	2.843.202
コルク製品	3.462.596

註（商工省調査「工場統計表」ニ據ル）



（商工省）

製材及木製品工業生産額

府縣別生産額

（單位圓）

府縣別	生産額	府縣別	生産額	府縣別	生産額
北海道	17,542,118	石川縣	2,250,293	岡山縣	729,192
青森縣	5,725,250	福井縣	161,105	廣島縣	7,391,114
岩手縣	1,384,779	山梨縣	294,085	山口縣	1,120,957
宮城縣	791,478	長野縣	428,343	德島縣	2,028,955
秋田縣	14,678,890	岐阜縣	1,014,853	香川縣	827,532
山形縣	1,411,078	靜岡縣	14,243,110	愛媛縣	752,522
福島縣	732,815	愛知縣	17,545,652	高知縣	1,473,542
茨城縣	614,090	三重縣	2,307,121	福岡縣	2,323,640
栃木縣	465,837	滋賀縣	441,308	佐賀縣	103,699
群馬縣	627,020	京都府	4,651,268	長崎縣	163,339
埼玉縣	839,612	大阪府	19,147,731	熊本縣	907,924
千葉縣	1,386,985	兵庫縣	14,435,517	大分縣	1,785,149
東京府	21,856,118	奈良縣	705,795	宮崎縣	1,470,116
神奈川縣	6,163,956	和歌山縣	7,084,349	鹿兒島縣	621,813
新潟縣	1,354,527	鳥取縣	763,670	沖繩縣	110,584
富山縣	1,780,519	島根縣	700,773	合計	185,343,126

累年比較

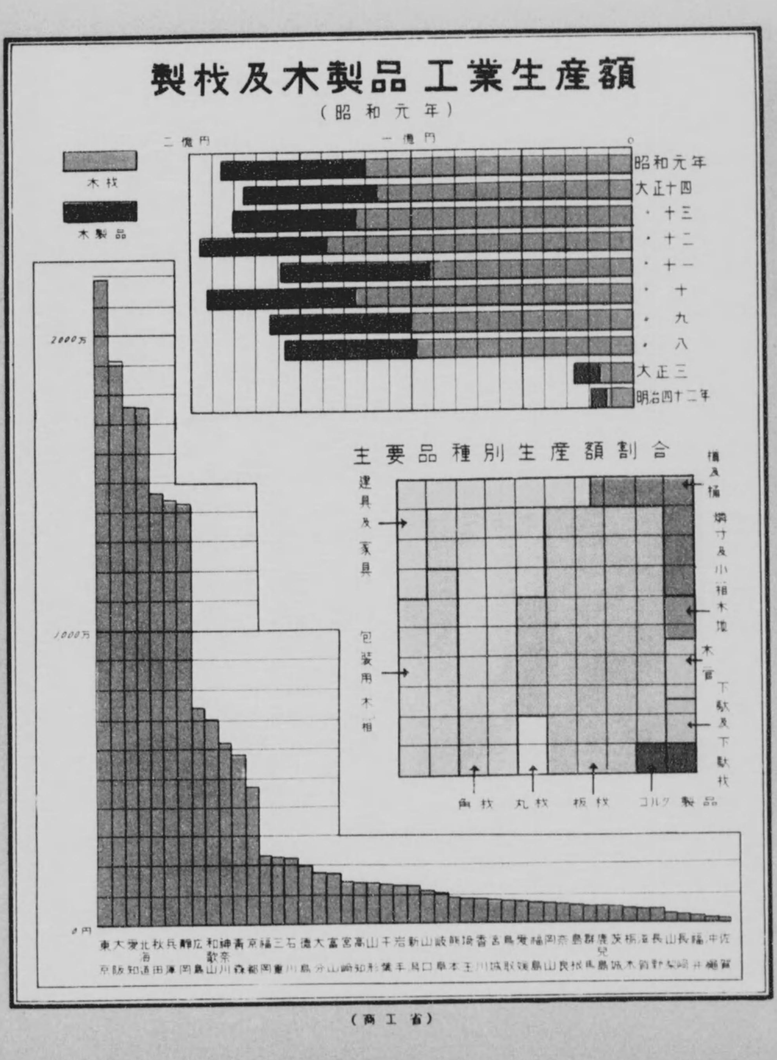
（單位圓）

年次	製材	木製品	計
明治四十二年	12,343,725	7,588,153	19,931,878
大正三年	15,322,564	12,620,681	27,943,245
大正八年	98,194,868	59,758,744	157,953,612
大正九年	100,390,272	63,200,808	163,591,080
大正十年	124,816,400	68,008,180	192,824,580
大正十一年	92,560,660	66,026,155	158,586,815
大正十二年	138,577,556	56,442,152	195,019,708
大正十三年	124,428,070	56,411,630	180,839,700
大正十四年	114,992,110	60,238,573	175,230,683
昭和元年	121,111,634	64,231,492	185,343,126

昭和元年主要品種別

品別	生産額
板材	63,941,629
角材	37,099,892
丸材	3,552,152
建具及家具	15,663,887
包裝用木箱	21,135,599
樽及桶	10,475,020
燐寸及小箱木地管	26,777,801
木	3,053,222
下駄及下駄材	2,843,202
コルク製品	3,462,596

註（商工省調査『工場統計表』ニ據ル）



（商工省）

我國金屬工業現況

金屬工業を抽出して看察すると、流石に世が進めば進むほど需用が繁瑣になつて行くから、徐々ながら累年次第に展開して居るのであつた。明治四十二年には僅かに一七、〇七〇、一七一圓であつたのが、大正三年四七、九六四、八七七圓となり、大正八年九年には、時の好況と需給とに刺戟されて三三八、二四八、一三一圓と化し、十、十一年は少しく沈滯したが、十三年再び擡頭して、以後は順調に昇り、昭和元年すでに四四七、〇五八、四七四圓と計上され、將來この事業が堅實に進出すべき可能性を有することがよく現はれて居るのである。製品別の種目では、大小とも鋼鐵品が多く、一一二、四〇七、一二八圓となり銅鐵之に亞ぐが、その他とともに金屬精錬が、少い種別でも價格の多いものがあつた。鑄物では銑鐵と鋼が多く、これ以外の金屬は、鍍金製品の如き至て近頃の發展なのである。さて全國府縣別にその生産額を見來ると、こゝでも大阪が首位を占め、昭和元年度はすでに一二七、〇三三、〇六九圓を示し、東京は二位の七七、六八四、六四四圓でありながら、大阪に比しては遙に下つて居る。兵庫の六〇、一五四、七四〇圓は福岡よりも多かつた。栃木は兵庫に亞いで居るが、關東ではせめてこの數を以て誇らざるを得ぬのは情けない。

我國金屬工業現況

昭和元年府縣別生產額

（單位圓）

府縣別	生產額	府縣別	生產額	府縣別	生產額
北海道	12.060.369	石川縣	1.774.411	岡山縣	235.426
青森縣	263.165	福井縣	73.306	廣島縣	4.803.899
岩手縣	6.652.742	山梨縣	27.866	山口縣	1.956.170
宮城縣	336.285	長野縣	211.338	德島縣	191.150
秋田縣	164.848	岐阜縣	328.141	香川縣	280.889
山形縣	95.295	靜岡縣	497.351	愛媛縣	46.413
福島縣	1.413.683	愛知縣	6.738.653	高知縣	19.382
茨城縣	4.906.322	三重縣	1.036.435	福岡縣	34.739.991
栃木縣	31.084.945	滋賀縣	312.801	佐賀縣	599.726
群馬縣	552.136	京都府	10.308.888	長崎縣	86.331
埼玉縣	5.838.238	大阪府	127.033.069	熊本縣	132.319
千葉縣	718.787	兵庫縣	60.154.740	大分縣	12.310
東京府	77.684.644	奈良縣	383.027	宮崎縣	1.370
神奈川縣	49.160.705	和歌山縣	143.498	鹿兒島縣	223.515
新潟縣	772.033	鳥取縣	365.903	沖繩縣	7.860
富山縣	2.238.319	島根縣	389.780	合計	447.058.474

累年比較

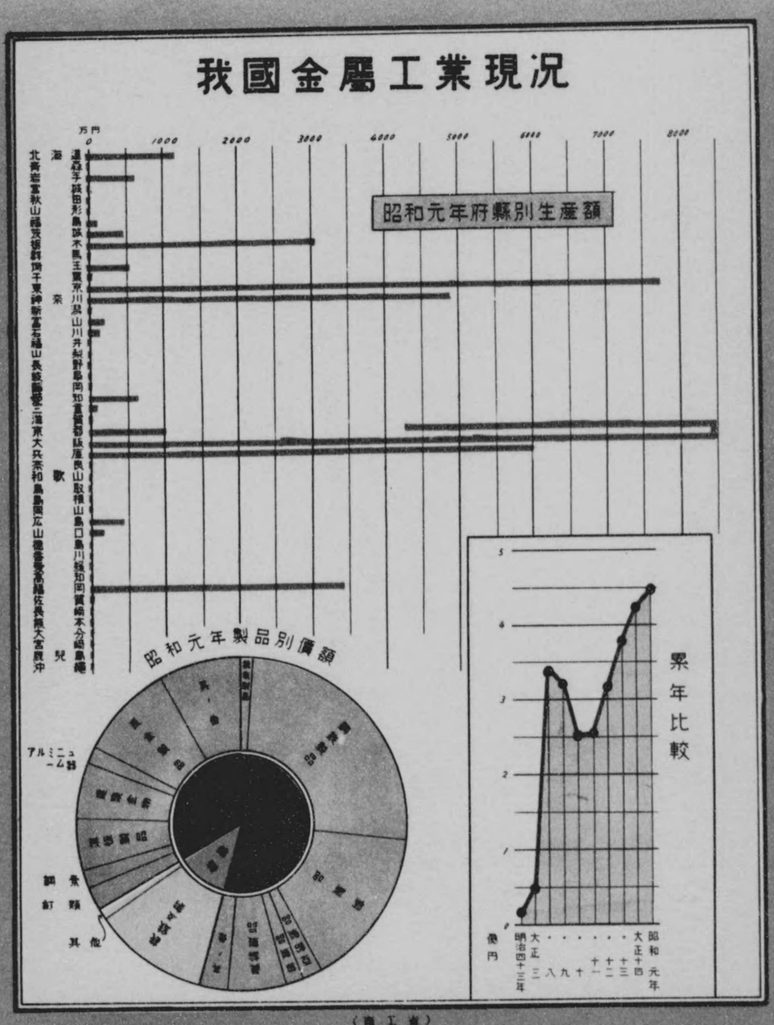
（單位圓）

年次	價額
明治四十二年	17.070.171
大正三年	47.964.877
大正八年	338.248'131
大正九年	321.235.815
大正十年	250.099.315
大正十一年	253.258.248
大正十二年	317.490.467
大正十三年	578.563.709
大正十四年	421.350.131
昭和元年	447.058.474

昭和元年製品別價額

品別		價額	品別		價額
金屬精練及材料品	銑鐵製品	6.442.381	鑄物以外ノ金屬製品	釘類	8.021.484
	鋼鐵製品	112.407.128		鋼索	7.144.956
	銅製品	67.128.474		薄板製品	22.032.616
	亞鉛製品	8.878.963		建築金物	24.317.415
	鉛製品	8.389.119		アルミニユーム器	7.793.402
	眞鍮製品	24.980.316		鍍金製品	41.191.832
	其他	13.026.456		其他	42.033.510
	計	241.252.837		計	152.535.215
鑄物	銑鐵及鋼	48.020.131	總計		447.058.474
	其他	5.250.291			
	計	53.270.422			

註（商工省調査「工場統計表」ニ據ル）



（商工省）

我國金屬工業現況

昭和元年府縣別生產額

（單位圓）

府縣別	生產額	府縣別	生產額	府縣別	生產額
北海道縣	12,060,369	石川縣	1,774,411	岡山縣	235,426
青森縣	283,165	福井縣	73,306	廣島縣	4,803,899
岩手縣	6,652,742	山梨縣	27,866	山口縣	1,956,170
宮城縣	336,285	長野縣	211,338	德島縣	191,150
秋田縣	164,818	岐阜縣	328,141	香川縣	280,889
山形縣	95,295	靜岡縣	497,351	愛媛縣	46,418
福島縣	1,413,683	愛知縣	6,738,653	高知縣	19,382
茨城縣	4,966,322	三重縣	1,036,435	福岡縣	34,739,991
栃木縣	31,084,945	滋賀縣	312,801	佐賀縣	599,726
群馬縣	552,136	京都府	10,308,888	長崎縣	86,331
埼玉縣	5,838,258	大阪府	127,033,069	熊本縣	132,319
千葉縣	718,787	兵庫縣	60,154,740	大分縣	12,310
東京府	77,684,644	奈良縣	383,027	宮崎縣	1,370
神奈川縣	49,160,705	和歌山縣	143,498	鹿兒島縣	223,515
新潟縣	772,033	鳥取縣	365,903	沖繩縣	7,850
富山縣	2,238,319	島根縣	389,780	合計	417,058,474

累年比較

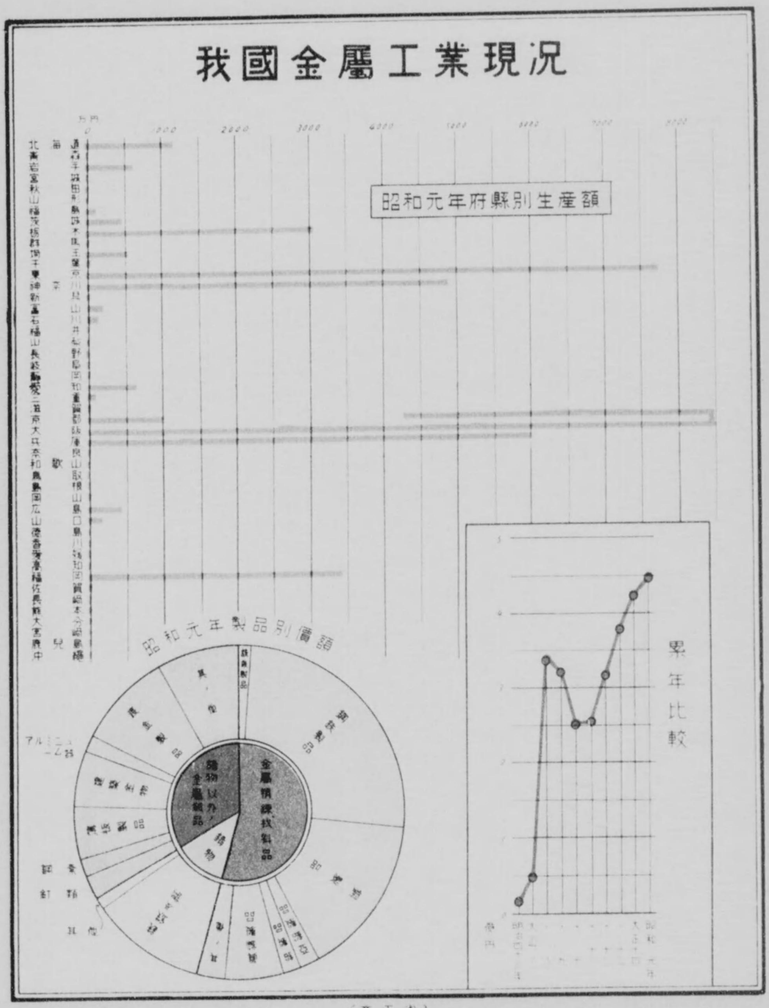
（單位圓）

年次	價額
明治四十二年	17,070,171
大正三年	47,964,877
大正八年	338,248,131
大正九年	321,235,815
大正十年	250,099,315
大正十一年	253,258,248
大正十二年	317,490,467
大正十三年	578,563,709
大正十四年	421,350,131
昭和元年	447,058,474

昭和元年製品別價額

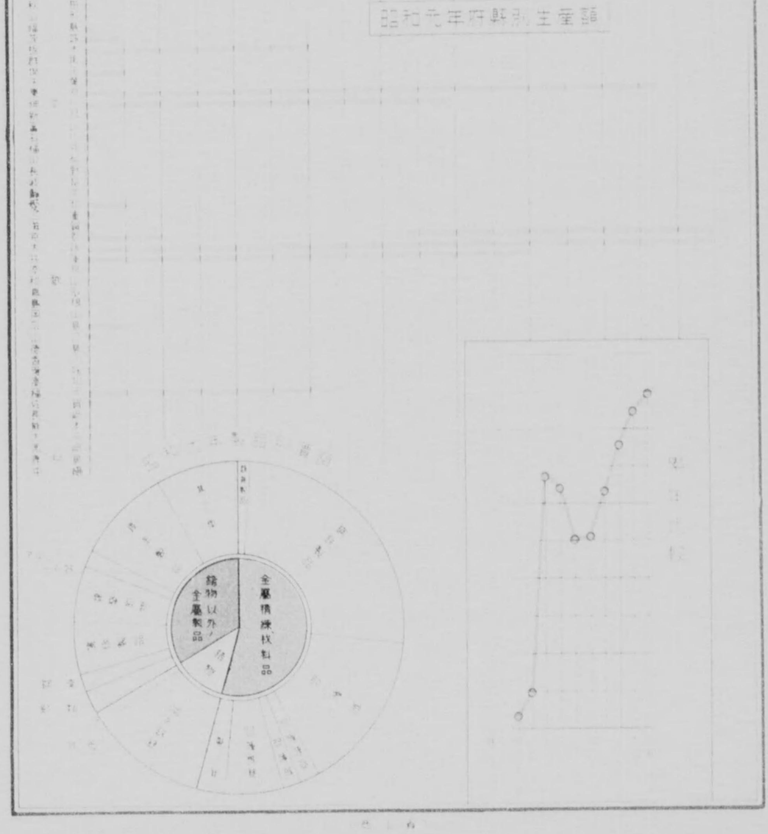
品別	價額	品別	價額
金屬精練及材料品	鐵製品	6,442,381	鑄物以外ノ金屬製品	釘類	8,021,484
	鋼鐵製品	112,407,128		鎖索品	7,144,956
	銅製品	67,128,474		鋼板製品	22,032,616
	亞鉛製品	8,878,963		金ニ器製品	24,317,415
	鉛製品	8,289,119		アルミニューム製品	7,796,402
	錫製品	24,980,316		其他金屬製品	41,191,832
	其他	13,026,456		計	42,033,510
	計	241,252,837			152,535,215
鑄物	鐵及鋼	48,020,131	總計		417,058,474
	其他	5,250,291			
	計	53,270,122			

註（商工省調査「工場統計表」ヨリ）



（商工省）

我國金屬工業現況



我國ニ於ケル窯業生産額

窯業を單に陶磁器や硝子などに限定せず、セメント、練瓦まで包含せしめたなら、それは極めて巨大な額に上るのは當然で、殊に近來のセメント工場設置は、全國主要石灰山を根據として埃の多い煙突が立てられ、害もあらうが事業としては旺盛に轉化して來たのである、東京の生産が昭和元年度に一三、一八五、四四〇圓、大阪が三二、三四九、六四五圓愛知が二六、八三一、三三七圓といへば、大阪は工場數としてともかく一位の生産と分るが、愛知は曾に傳統を有する。陶磁器の外に、硝子が盛んになり、一奮發で大阪に接觸せんとして居るのは偉とすべきであつた。セメントが主要の一を占め、然も淺野磐城などの大工場が窒漠の土地たる青森、北海道にまで伸擴し、今や第二の九州を現出せんとして居るので、磐城の福島に於ける效果は、全體の結果を五、二四一、〇九二圓まで引き上げて、埼玉以北、北海道を除いてよく一位となつたのである。累年計では大正八年の一七五、四三五、八五一圓、九年の一八六、〇七四、五六六圓がよく、その後は劣つたが、昭和元年度で漸く持直し、二一〇、七四七、二五三圓となつた。陶磁器の海外進出は、前輯にやゝ詳しく揭げて置いた。

我國ニ於ケル窯業生産額

昭和元年度府縣別生産額

（單位圓）

府縣別	生産額	府縣別	生産額	府縣別	生産額
北海道	10.145.748	石川縣	1.359.042	岡山縣	2.281.718
青森縣	1.268.540	福井縣	169.166	廣島縣	741.251
岩手縣	76.260	山梨縣	33.809	山口縣	11.159.389
宮城縣	99.160	長野縣	232.273	德島縣	267.718
秋田縣	1.200	岐阜縣	2.688.705	香川縣	217.576
山形縣	403.076	靜岡縣	301.386	愛媛縣	476.418
福島縣	5.241.092	愛知縣	26.831.337	高知縣	3.125.939
茨城縣	836.991	三重縣	1.714.145	福岡縣	39.936.125
栃木縣	686.070	滋賀縣	916.153	佐賀縣	4.236.823
群馬縣	141.755	京都府	3.906.461	長崎縣	989.476
埼玉縣	4.550.290	大阪府	32.349.645	熊本縣	3.594.341
千葉縣	45.105	兵庫縣	7.878.205	大分縣	5.956.835
東京府	13.185.440	奈良縣	109.699	宮崎縣	—
神奈川縣	17.806.510	和歌山縣	2.520.922	鹿兒島縣	111.740
新潟縣	366.931	鳥取縣	35.932	沖繩縣	43.980
富山縣	792.641	島根縣	914.235	合計	210.747.253

産額累年比較

（單位圓）

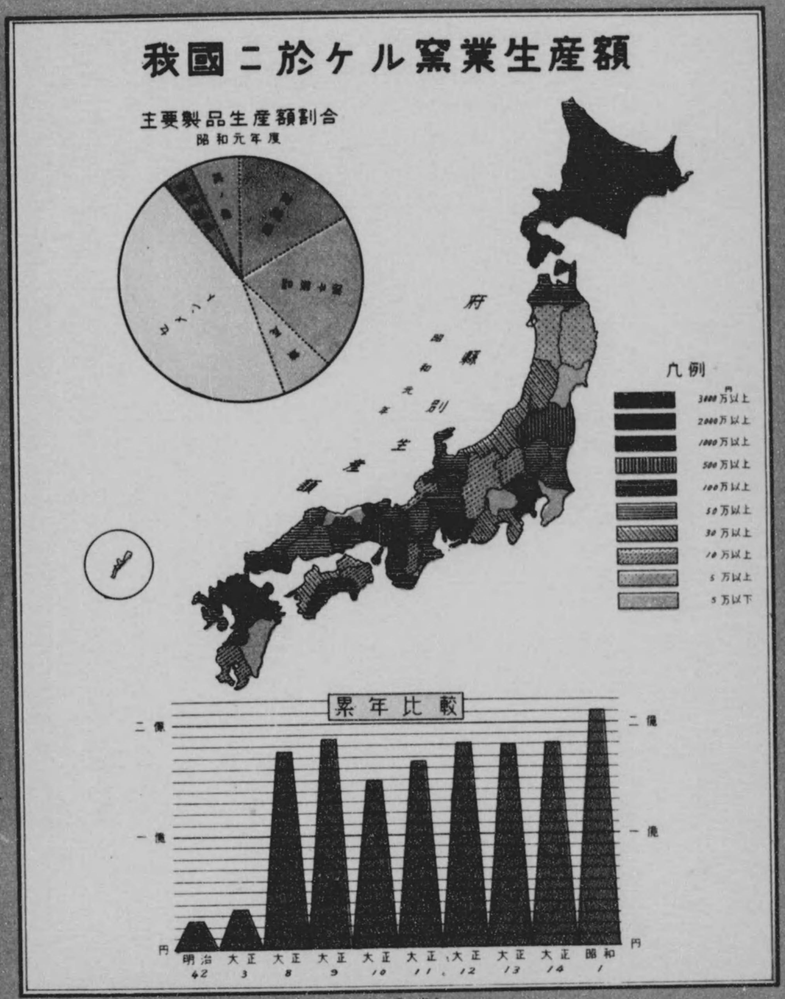
年次	産額	年次	産額	年次	産額
明治四十二年	24.728.636	大正十年	148.621.858	大正十四年	181.324.006
大正三年	34.309.117	大正十一年	167.017.695		
大正八年	175.435.851	大正十二年	181.021.765	昭和元年	210.745.253
大正九年	186.074.566	大正十三年	180.789.991		

最近五ケ年主要製品生産額比較

（單位圓）

品目	大正十一年	大正十二年	大正十三年	大正十四年	昭和元年
陶磁器	27.921.698	31.915.834	33.303.683	31.704.179	34.101.878
硝子製品	39.364.507	41.096.255	53.611.561	47.854.592	45.890.392
煉瓦	16.399.980	16.406.516	12.002.050	10.731.645	14.738.296
セメント	61.237.034	71.286.387	59.170.978	66.494.939	94.684.005
琺瑯製品	7.141.031	7.249.572	8.657.645	11.131.553	9.028.755

註（商工省調査「工場統計表」ニ據ル）



（商工省）

我國ニ於ケル窯業生産額

昭和元年度府縣別生産額　（單位圓）

府縣別	生産額	府縣別	生産額	府縣別	生産額
北海道	10,145,748	石川縣	1,359,042	岡山縣	2,281,718
青森縣	1,268,540	福井縣	169,166	廣島縣	741,251
岩手縣	76,260	山梨縣	33,809	山口縣	11,159,389
宮城縣	99,160	長野縣	232,273	徳島縣	267,718
秋田縣	1,200	岐阜縣	2,688,705	香川縣	217,576
山形縣	403,076	靜岡縣	301,386	愛媛縣	476,418
福島縣	5,241,092	愛知縣	26,831,337	高知縣	3,125,939
茨城縣	836,991	三重縣	1,714,145	福岡縣	39,936,125
栃木縣	686,070	滋賀縣	916,153	佐賀縣	4,236,823
群馬縣	141,755	京都府	3,906,461	長崎縣	989,476
埼玉縣	4,550,290	大阪府	32,349,645	熊本縣	3,594,341
千葉縣	45,105	兵庫縣	7,878,205	大分縣	5,956,835
東京府	13,185,440	奈良縣	109,690	宮崎縣	
神奈川縣	17,806,510	和歌山縣	2,520,922	鹿兒島縣	111,740
新潟縣	366,931	鳥取縣	35,932	沖繩縣	43,980
富山縣	792,641	島根縣	914,235	合計	210,747,253

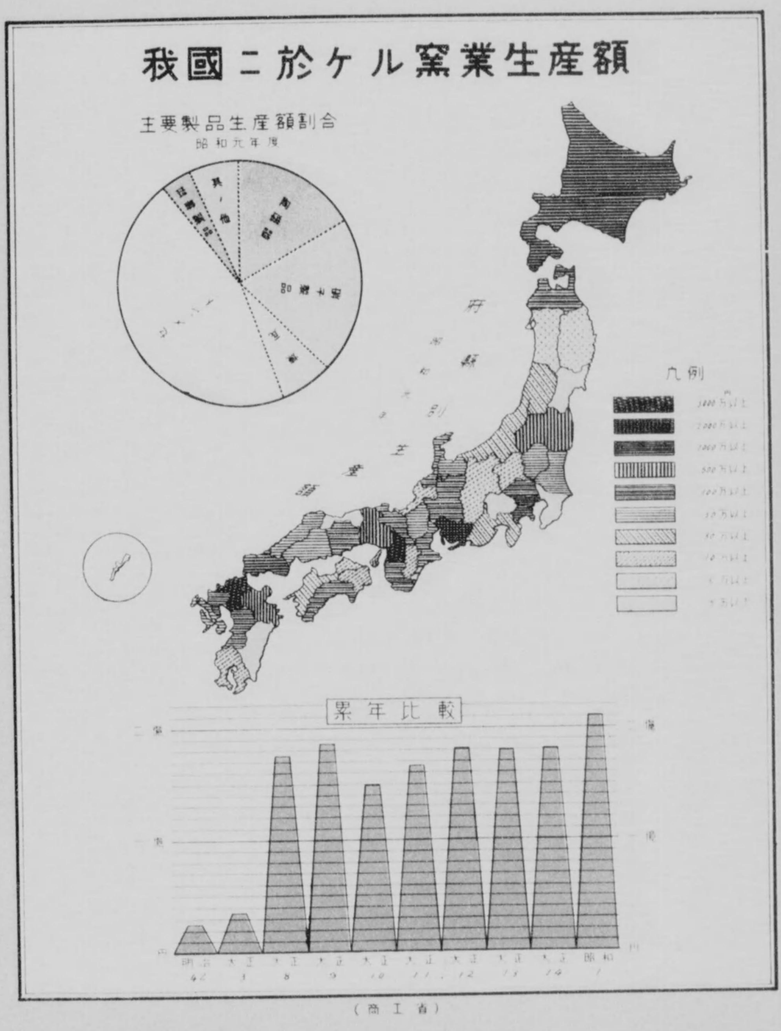
産額累年比較　（單位圓）

年次	産額	年次	産額	年次	産額
明治四十二年	24,728,636	大正十年	148,621,858	大正十四年	181,324,006
大正三年	34,309,117	大正十一年	167,017,695		
大正八年	175,435,851	大正十二年	181,021,765	昭和元年	210,745,253
大正九年	186,074,566	大正十三年	180,789,991		

最近五ヶ年主要製品生産額比較　（單位圓）

品目	大正十一年	大正十二年	大正十三年	大正十四年	昭和元年
陶磁器	27,921,698	31,915,834	33,303,683	31,704,179	34,101,878
硝子製品	39,364,507	41,096,255	53,611,561	47,854,592	45,890,392
煉瓦	16,399,980	16,406,516	12,002,050	10,731,645	14,738,296
セメント	61,237,034	71,286,387	59,170,978	66,494,939	94,684,005
琺瑯製品	7,141,031	7,249,572	8,657,645	11,131,553	9,028,755

註（商工省調査　工場統計表　一據ル）



（商工省）

本邦雜種工業生產額

雜種工業といふ部類の生產も却て侮り難い數を示すのであつた。たとへば昭和元年度の主要品價格を見ても、裁縫品の如き決して華やかでないものでも七〇、二八〇、一八三圓とあつて、他の何物も及ばぬ程に地を嶄然と拔いて居るのは、寧ろ驚くべきもので多かるべき紙製品が僅かに一八、二三九、一七五圓で、綿麻製網繩綱類の二四、三五八、三五〇圓より不足といふに至ては、統計の妙云ふべからざるものがある。帽子が一三、二五五、二一八圓を以て革や毛皮の次に位し、醫科材料や石工、セメント製品などの上に在るのは、いかに都鄙の男女に需められて居るかゞ分明し、不斷の流行として恐らく帽子は尙將も增すであらう。さて之を全國に分布する狀態から見來ると、別表の綜合工產と同じく重要な分散は東京、名古屋、大阪、兵庫、福岡等が一千萬圓以上の數を有するが同じ中國でも山陽と山陰ではもはや豪數が異なり、東北六縣の如きは五十萬圓以下で、北海道の百萬圓以上と比較する時は、殘念ながら問題ではなかつた。北陸地方はこれから進出せんとし、寧ろ九州南部よりは有望なのである。こゝにも明治四十二年以來の累年計を揭げてある、就て看られんことを希望する。

本邦雜種工業生産額一覽

昭和元年度府縣別

（單位圓）

府縣別	生産額	府縣別	生産額	府縣別	生産額
北海道	3.946.952	石川縣	839.223	岡山縣	7.763.814
青森縣	147.548	福井縣	165.437	廣島縣	5.833.325
岩手縣	431.204	山梨縣	95.358	山口縣	662.728
宮城縣	451.436	長野縣	267.155	徳島縣	1.261.416
秋田縣	239.702	岐阜縣	1.867.842	香川縣	1.917.259
山形縣	368.446	靜岡縣	2.166.328	愛媛縣	649.826
福島縣	653.653	愛知縣	10.745.826	高知縣	310.665
茨城縣	511.604	三重縣	5.182.682	福岡縣	20.313.236
栃木縣	355.500	滋賀縣	1.798.350	佐賀縣	742.405
群馬縣	289.690	京都府	3.191.560	長崎縣	2.023.869
埼玉縣	7.716.345	大阪府	66.754.467	熊本縣	689.697
千葉縣	536.129	兵庫縣	17.699.896	大分縣	196.579
東京府	45.531.435	奈良縣	2.824.716	宮崎縣	97.535
神奈川縣	3.557.441	和歌山縣	1.725.965	鹿兒島縣	268.821
新潟縣	864.868	鳥取縣	250.855	沖縣繩	419.980
富山縣	647.636	島根縣	926.427	合計	225.902.831

品種別生産額

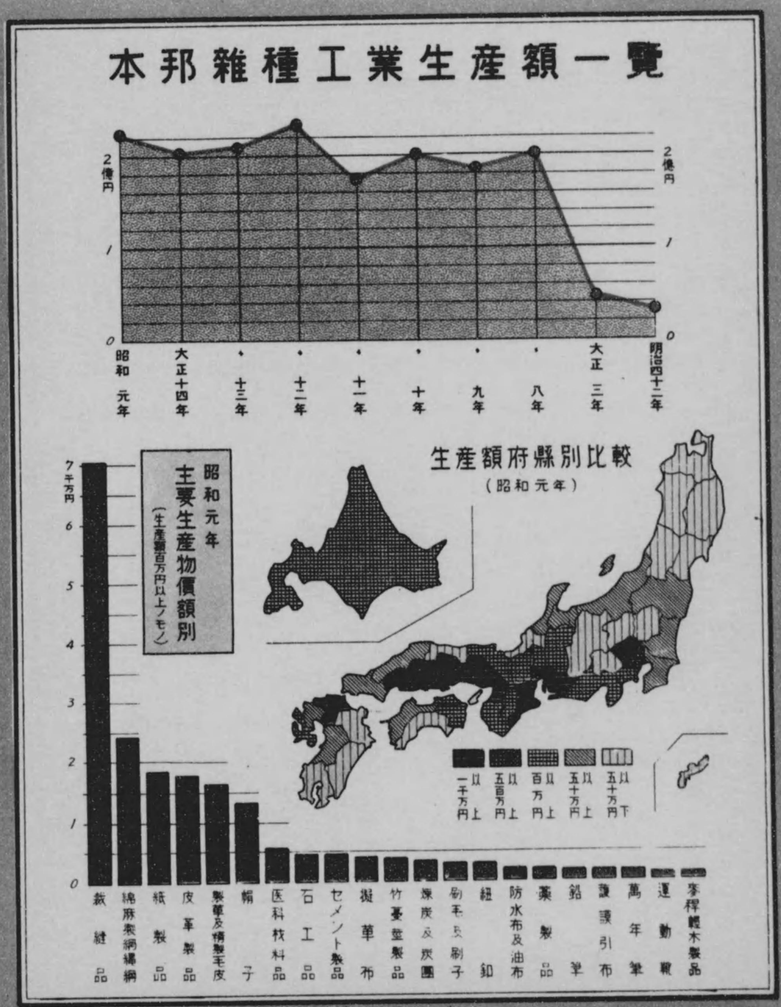
（單位圓）

品種別	生産額	品種別	生産額
紙製品	18.239.175	帽子	13.255.218
竹蔓莖製品	3.510.256	防水布及油布	1.963.228
蘭莚	593.416	護謨引布	1.631.095
野草莚	391.503	擬革布	3.958.761
藁製品	1.919.799	醫科材料品	5.474.095
麥稈輕木製品	1.009.001	セメント製品	4.438.949
製革及精製毛皮	16.386.360	萬年筆	1.628.461
皮革製品	17.735.945	鉛筆	1.775.225
骨角甲牙貝類製品	527.808	墨	698.705
鈕釦	2.715.241	煉炭及炭團	3.122.039
刷毛及刷子	2.759.919	石工品	4.578.777
漆器	891.160	草履	682.084
綿麻製綱繩綱	24.358.350	運動靴	1.089.829
裁縫品	70.280.183	其他計	225.902.831

累年比較

年次	生産額
明治四十二年	32.148.030
大正三年	46.530.347
大正八年	201.876.137
大正九年	186.013.372
大正十年	201.457.391
大正十一年	175.811.652
大正十二年	231.661.910
大正十三年	209.509.237
大正十四年	204.246.909
昭和元年	225.902.831

註（商工省調査「工場統計表」ニ據ル）



（商工省）

本邦雜種工業生産額一覽

昭和元年度府縣別　（單位圓）

府縣別	生産額	府縣別	生産額	府縣別	生産額
北海道	3,946,952	石川縣	839,223	岡山縣	7,763,814
青森縣	147,518	福井縣	165,437	廣島縣	5,883,325
岩手縣	431,204	山梨縣	95,358	山口縣	662,728
宮城縣	451,436	長野縣	267,155	德島縣	1,261,416
秋田縣	239,702	岐阜縣	1,867,842	香川縣	1,917,259
山形縣	368,446	靜岡縣	2,166,328	愛媛縣	649,826
福島縣	653,653	愛知縣	10,745,826	高知縣	310,665
茨城縣	511,604	三重縣	5,182,682	福岡縣	20,313,236
栃木縣	355,500	滋賀縣	1,798,350	佐賀縣	712,405
群馬縣	289,690	京都府	3,191,560	長崎縣	2,023,869
埼玉縣	7,716,345	大阪府	66,754,467	熊本縣	689,697
千葉縣	536,129	兵庫縣	17,699,896	大分縣	196,579
東京府	45,531,435	奈良縣	2,821,716	宮崎縣	97,535
神奈川縣	3,557,441	和歌山縣	1,725,965	鹿兒島縣	268,821
新潟縣	864,868	鳥取縣	250,855	沖繩縣	419,980
富山縣	647,636	島根縣	926,427	合計	225,902,831

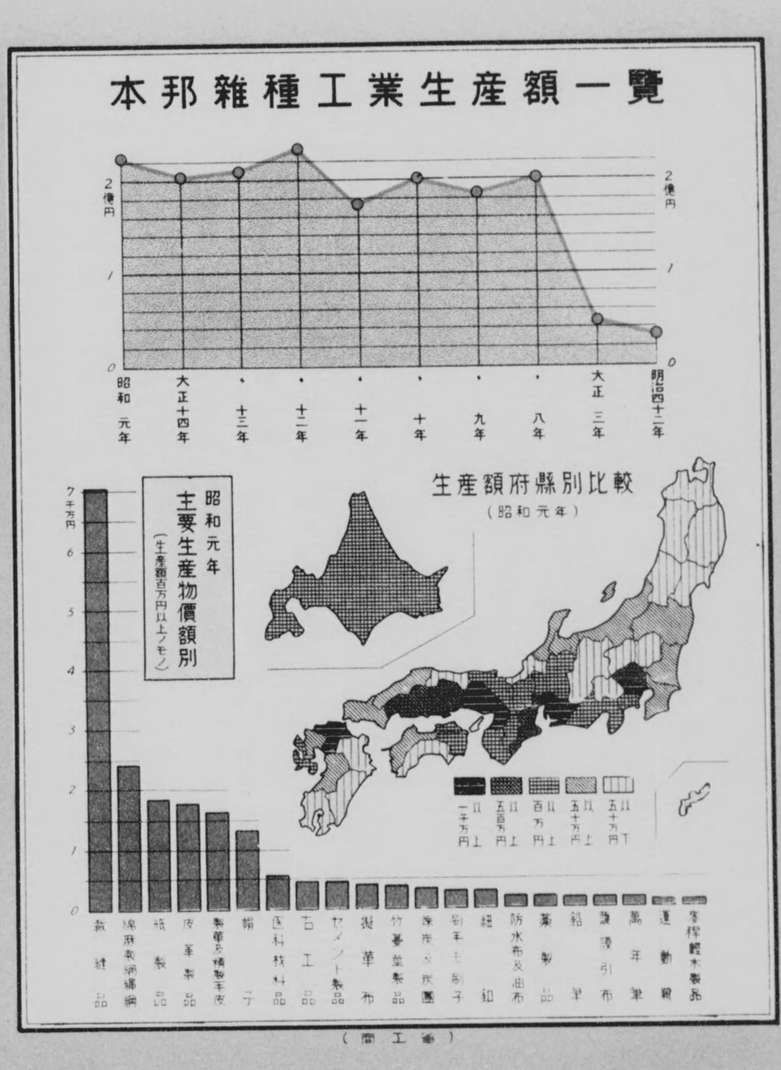
品種別生産額　（單位圓）

品種別	生産額	品種別	生産額
紙製品	18,239,175	朝子	13,255,218
竹蓙蓙製品	3,510,256	防水布及油布	1,963,228
蓆	593,416	護謨引布	1,631,095
蓆	391,503	擬革布	3,958,761
製品	1,919,799	醫科材料品	5,474,095
麥稈輕木製品	1,009,001	セメント製品	4,438,949
製革及絹製毛皮	16,386,360	萬年筆	1,628,461
皮革製品	17,735,945	鉛筆	1,775,225
骨角甲羅貝類製品	527,808	墨	698,705
釘	2,715,241	煉炭及炭團	3,122,039
刷毛及刷子	2,759,919	石工品	4,578,777
漆器	891,160	草履	682,084
綿麻製綱繩網	24,358,350	運動用品	1,089,829
裁縫品	70,280,183	其他	225,902,831

累年比較

年次	生産額
明治四十二年	32,148,030
大正三年	46,530,347
大正八年	201,876,137
大正九年	186,013,372
大正十年	201,457,391
大正十一年	175,811,652
大正十二年	231,661,910
大正十三年	209,509,237
大正十四年	201,216,909
昭和元年	225,902,831

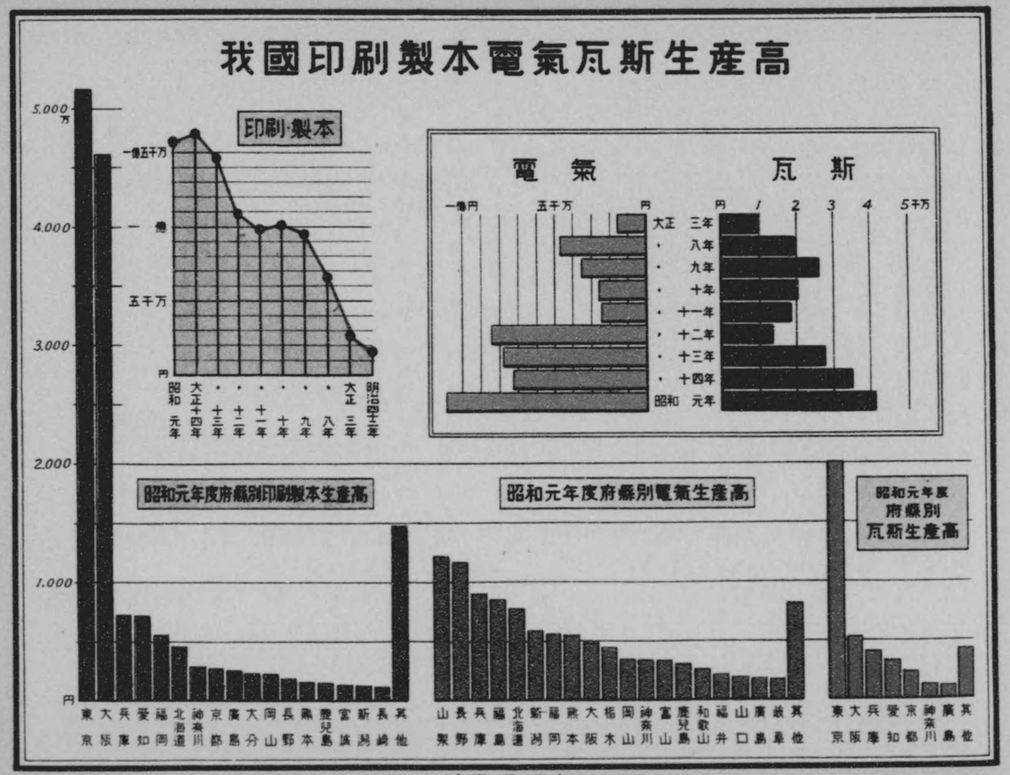
註（商工省調査「工場統計表」ニ據ル）



（商工省）

我國印刷製本・電氣瓦斯生産高

便宜上こゝに相應せぬ感のある印刷製本と電氣瓦斯との生産高を揭げて見たが、印刷製本の最近に於ける趨勢は、恰も電氣瓦斯と近似して居るものがあり、大正時代になつてからも、誠に昇天の豪勢を以て、遂に昭和の國本亂作時代を惹起し了つたものであつて、大正十四年の如きは實に一六三、七三二、三九八圓を計上し、昭和二年以後は一層その數を增すことは疑ひない處で、これを全國府縣別に見るなら、何といつても東京が第一位であつた。卽ち東京の昭和元年度生産高五一、六四〇、〇八四圓となり、大阪も亦これに匹敵すべき四六、〇八五、四〇七圓を示して東西二大都市が嶄然と全國を壟斷するの概があつた。都市が印刷機能のいかに發揮せられるかを正確に知り得べき證となるものであつた。次に電氣の趨勢も、大正十二年以來の滑轉を持續し、山梨の山間が長野と倶に日本一の生産であつて、山梨の一二、一五九、五三三圓長野の一一、六九八、六七七圓、他は次第に劣つて居る。瓦斯は之に反し獨り東京が雄豪であつた。昭和元年度の東京、二〇、〇三一、四三三圓、他は殆ど問題にならぬ。東京が十二年に彼の震殃を被つたばかりに、この生産が一三、四六六、三二六圓の數を見せて、大正八年の最少數とはなつたのである。



我國印刷、製本、電氣瓦斯生産高

昭和元年度府縣別生産高

（單位圓）

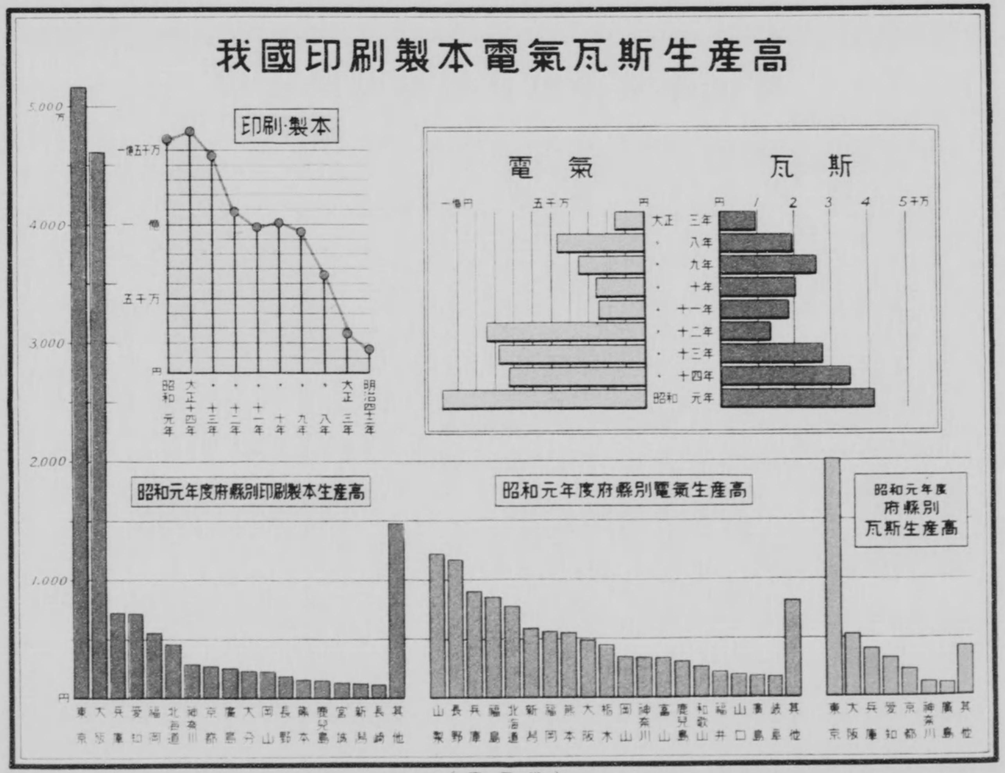
府縣別	印刷製本	電氣	瓦斯	府縣別	印刷製本	電氣	瓦斯
北海道	4.616.974	7.769.312	700.768	滋賀縣	155.205	389.146	23.899
青森縣	667.223	969.913	——	京都府	2.763.111	663.059	2.265.606
岩手縣	287.000	——	——	大阪府	46.085.407	4.997.050	5.308.513
宮城縣	1.242.259	261.056	202.372	兵庫縣	7.171.054	9.057.812	4.059.184
秋田縣	631.864	315.826	——	奈良縣	238.580	48.875	180.291
山形縣	482.582	205.220	97.478	和歌山縣	457.556	2.676.328	206.179
福島縣	619.119	8.544.314	49.104	鳥取縣	275.753	343.796	43.266
茨城縣	790.768	295.431	43.900	島根縣	705.855	——	——
栃木縣	474.929	4.412.557	92.912	岡山縣	2.205.385	3.592.936	296.877
群馬縣	553.605	87.365	80.395	廣島縣	2.544.205	1.744.063	1.085.725
埼玉縣	256.453	535.678	——	山口縣	823.853	1.949.627	161.681
千葉縣	221.292	——	76.752	德島縣	494.065	——	55.075
東京府	51.640.084	697.680	20.031.433	香川縣	446.703	363.800	54.748
神奈川縣	2.949.124	3.485.661	1.200.769	愛媛縣	817.720	242.938	130.220
新潟縣	1.169.199	5.898.707	210.693	高知縣	811.598	907.746	——
富山縣	801.192	3.472.326	58.672	福岡縣	5.544.607	5.664.376	——
石川縣	743.620	457.820	256.088	佐賀縣	186.271	77.536	——
福井縣	128.971	2.042.392	124.488	長崎縣	1.062.784	47.649	440.065
山梨縣	362.135	12.159.533	150.521	熊本縣	1.520.208	5.559.783	157.026
長野縣	1.846.757	11.698.677	182.718	大分縣	2.334.283	187.378	——
岐阜縣	572.987	1.792.352	18.997	宮崎縣	133.517	146.350	——
靜岡縣	953.087	727.812	256.652	鹿兒島縣	1.412.247	3.140.389	——
愛知縣	7.136.882	413.680	3.290.340	沖繩縣	63.814	312.732	——
三重縣	651.759	——	66.178	合計	158.051.646	108.356.681	41.579.012

累年比較

（單位圓）

年次	印刷製本	電氣	瓦斯	年次	印刷製本	電氣	瓦斯
明治四十二年	15.698.458	——	——	大正十一年	99.541.361	24.602.735	18.302.867
大正三年	26.448.330	15.352.516	9.899.280	大正十二年	109.446.336	84.300.201	13.466.326
大正八年	66.248.464	46.810.556	19.838.613	大正十三年	146.658.790	78.665.803	27.954.514
大正九年	95.087.108	35.421.228	26.011.889	大正十四年	163.733.398	72.892.153	35.164.842
大正十年	101.722.902	25.087.087	20.287.040	昭和元年	158.051.646	108.356.681	41.579.012

註（商工省調査「工場統計表」ニ據ル）



我國印刷、製本、電氣瓦斯生産高

昭和元年度府縣別生産高

（單位圓）

府縣別	印刷製本	電氣	瓦斯	府縣別	印刷製本	電氣	瓦斯
北海道	1,616,974	7,769,312	700,768	滋賀縣	155,205	389,146	23,899
青森縣	667,223	969,918	—	京都府	2,763,111	663,059	2,265,606
岩手縣	287,000	—	—	大阪府	16,085,407	4,997,050	5,308,513
宮城縣	1,242,259	261,056	202,372	兵庫縣	7,171,054	9,057,812	4,059,184
秋田縣	631,864	315,826	—	奈良縣	238,580	48,875	130,291
山形縣	482,582	205,220	97,478	和歌山縣	457,556	2,676,328	206,179
福島縣	619,119	8,544,314	49,104	鳥取縣	275,753	343,796	43,266
茨城縣	790,768	295,431	43,900	島根縣	705,855	—	—
栃木縣	474,929	4,412,557	92,912	岡山縣	2,205,385	3,592,936	296,877
群馬縣	558,605	87,365	80,395	廣島縣	2,544,205	1,744,063	1,085,725
埼玉縣	256,453	585,678	—	山口縣	823,853	1,949,627	161,681
千葉縣	221,292	—	76,752	德島縣	494,065	—	55,075
東京府	51,640,084	697,680	20,031,433	香川縣	446,703	363,800	54,748
神奈川縣	2,949,124	3,485,661	1,200,769	愛媛縣	817,720	242,958	130,220
新潟縣	1,169,199	5,898,707	210,693	高知縣	811,598	907,746	—
富山縣	801,192	3,472,326	58,672	福岡縣	5,541,607	5,664,376	—
石川縣	743,620	457,820	256,088	佐賀縣	186,271	77,536	—
福井縣	428,971	2,042,392	124,488	長崎縣	1,062,784	17,649	440,065
山梨縣	362,135	12,159,533	150,521	熊本縣	1,520,208	5,559,783	157,026
長野縣	1,846,757	11,698,677	182,718	大分縣	2,334,283	187,378	—
岐阜縣	572,987	1,792,352	18,997	宮崎縣	133,517	146,350	—
靜岡縣	953,087	727,812	256,652	鹿兒島縣	1,412,247	3,140,389	—
愛知縣	7,136,882	413,680	3,290,340	沖繩縣	63,814	312,732	—
三重縣	651,759	—	66,178	合計	158,051,646	108,356,681	41,579,012

累年比較

（單位圓）

年次	印刷製本	電氣瓦斯		年次	印刷製本	電氣瓦斯	
明治四十二年	15,698,458	—	—				
大正三年	26,448,330	15,352,516	9,899,280	大正十一年	99,541,361	24,602,735	18,302,867
大正八年	66,248,464	46,810,556	19,838,613	大正十二年	109,446,356	84,300,201	13,466,326
大正九年	95,087,108	35,421,228	26,011,889	大正十三年	146,658,790	78,665,803	27,954,514
大正十年	101,722,902	25,087,087	20,287,040	大正十四年	163,783,398	72,892,153	35,164,842
				昭和元年	158,051,646	108,356,681	41,579,012

註（商工省調査「工場統計表」ニ據ル）

我國鑛山變災事故及鑛夫死傷者

鑛山は得て變災事故の起り易いことろで、これに依つて鑛夫の傷き且つ死ぬ者の巨多なる數を知つては、思はず目を掩はざるを得ぬのであらう。國の內外に於ける炭山の爆發が頻りにあつて、中に働く鑛夫の安否を氣遣ふ家族が、坑外の周圍にあつて泣喚ぶ狀態などは、常に慘しい烙印を、人々の胸に捺して居るのである。事故はどうしても石炭山に多く、昭和二年度の變災でも既に一、五〇二、五二四に亘つて居り、重傷三、〇二七人、死者九〇九人を示し、輕傷といふものに至つては實に一四七、七二六人を生じたのである。之が一ヶ年の計數なのであつて、金屬山にも亦一一、五八四回の變事あり、こゝにも輕傷一一、三六七人、死者七八人を算した。鑛山には實に落磐の危險が多く、大正十二年以來の消長を見ても、これが多數であつて、十二年六六、三五九回、昭和二年度五七、五七〇回、次に多いのが坑車で、十二年二一、二七二回、昭和二年一九、九二九回、又機械の故障も昭和二年の如きは二、〇五四回もあつた。落磐で不意に死傷するものは卽ち天命ともいふべき犧牲で、一掬の涙なきを得ぬ。鑛車と架空線索道の變などは常に一年三千六百餘回もあつて、鑛內の爆發で死ぬよりは少數だが、これなどは施設によつて救へば救はれるものであらう。

我國鑛山變災事故及鑛夫死傷者

（昭和二年）

種別	變災回數	死亡	重傷	輕傷	計
金屬山	11.584	78人	182人	1.1367人	11.627人
石炭山	150.252	909	3,027	147.726	151.662
石油山	513	8	48	482	538
其他非金屬山	759	7	20	741	768
計	163.108	1,002	3,277	160,316	164.595

累年比較

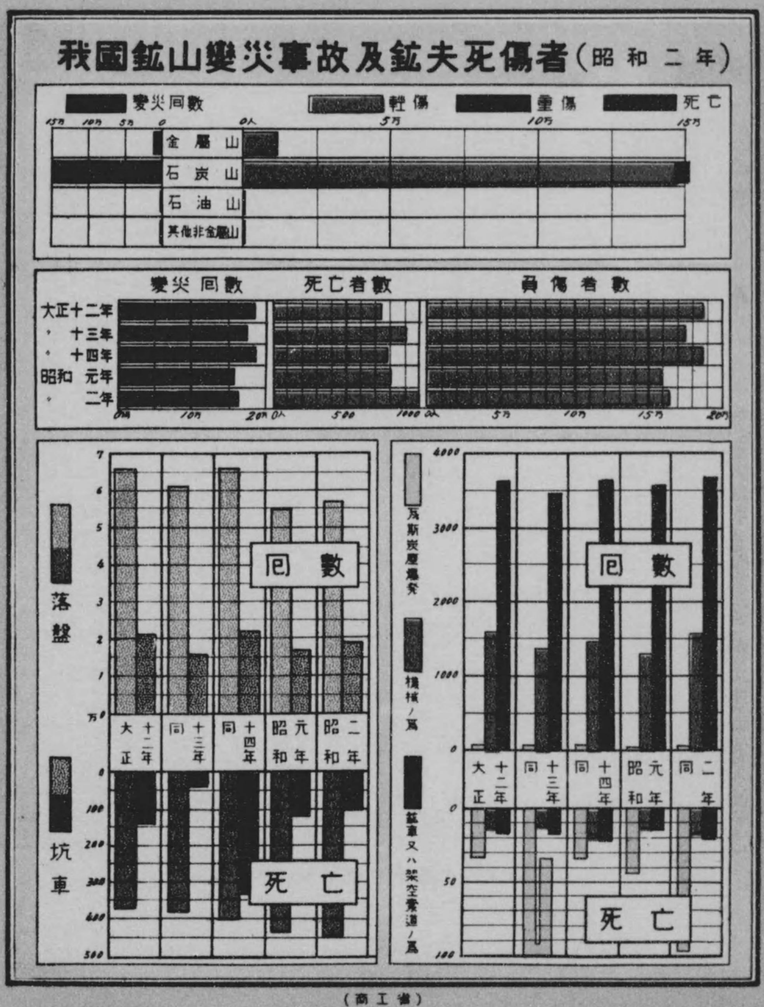
年次	回數	死亡者數	負傷者數	計
大正十二年	186.963	741人	197,870人	188.611人
大正十三年	175.080	903	175,702	176,605
大正十四年	187,026	786	187,512	188,298
昭和元年	158,332	801	158,476	159.277
昭和二年	163·108	1,002	163,593	164.595

變災事故事由別

年次	落盤		坑車		機械ノ爲	
	回數	死亡者數	回數	死亡者數	回數	死亡者數
大正十二年	66.359	373人	21.272人	109人	1.581	13人
大正十三年	61.393	387	16.027	44	1.360	11
大正十四年	66.026	415	22.450	139	1.462	19
昭和元年	55,256	437	17.885	104	1.292	14
昭和二年	57.570	443	19.929	100	2,054	18

年次	瓦斯、炭塵爆發		鑛車又ハ架空索道ノ爲	
	回數	死亡者數	回數	死亡者數
大正十二年	69	32人	3.614	17人
大正十三年	52	165	3,455	18
大正十四年	54	33	3,633	21
昭和元年	26	44	3,082	14
昭和二年	59	96	3,672	02

註（商工省鑛山局調査「本邦鑛業趨勢」ニ據ル）



（商工省）

我國鑛山變災事故及鑛夫死傷者

（昭和二年）

種別	變災回數	死亡	重傷	輕傷	計
金屬山	11.584	78人	182人	1.1367人	11.627人
石炭山	150.252	909	3.027	147.726	151.662
石油山	513	8	48	482	538
其他非金屬山	759	7	20	741	768
計	163.108	1.002	3.277	160.316	164.595

累年比較

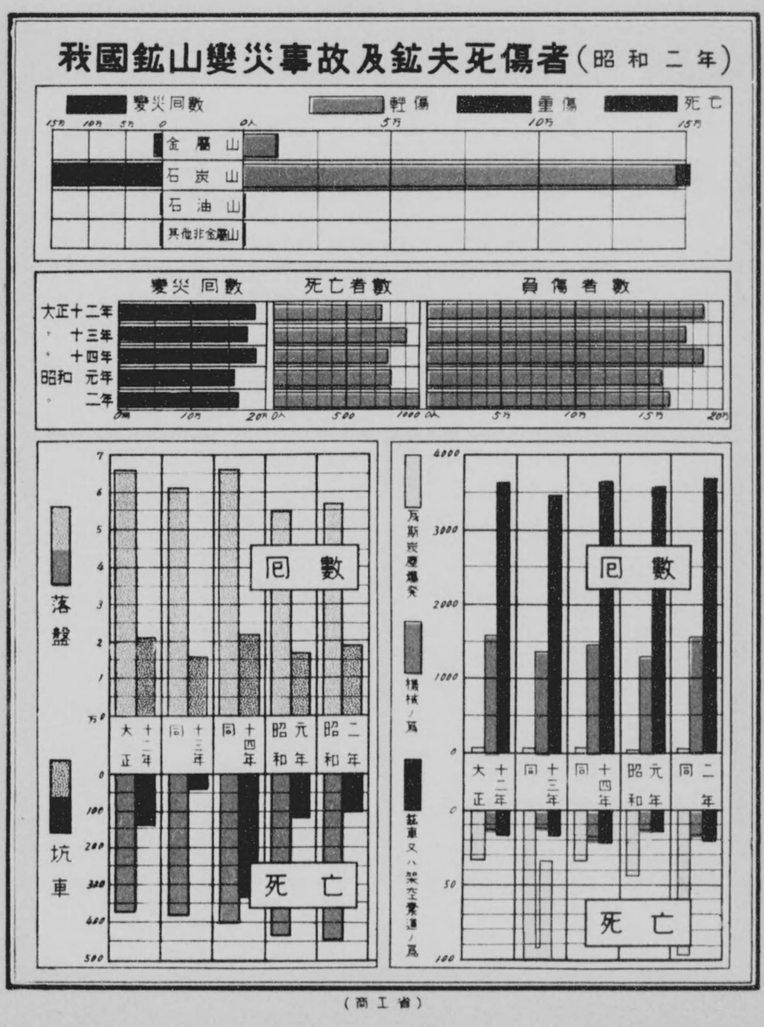
年次	回數	死亡者數	負傷者數	計
大正十二年	186.963	741人	197.870人	188.611人
大正十三年	175.080	903	175.702	176.605
大正十四年	187.026	786	187.512	188.298
昭和元年	158.332	801	158.476	159.277
昭和二年	163.108	1.002	163.593	164.595

變災事故事由別

年次	落盤		坑車		機械ノ爲	
	回數	死亡者數	回數	死亡者數	回數	死亡者數
大正十二年	66.359	373人	21.272人	109人	1.581	13人
大正十三年	61.393	387	16.027	44	1.360	11
大正十四年	66.026	415	22.450	139	1.462	19
昭和元年	55.256	437	17.885	104	1.292	14
昭和二年	57.570	443	19.929	100	2.054	18

年次	瓦斯、炭塵爆發		鑛車又ハ架空索道ノ爲	
	回數	死亡者數	回數	死亡者數
大正十二年	69	32人	3.614	17人
大正十三年	52	165	3.455	18
大正十四年	54	33	3.633	21
昭和元年	26	44	3.082	14
昭和二年	59	96	3.672	02

註（商工省鑛山局調査「本邦鑛業趨勢」ニ據ル）



（商工省）

我國鑛產額累年比較

別表の如き鑛山の變事、鑛夫の犧牲を以てして、我が國の鑛產狀態は如何なる累年の產額を見るものであるか。蓋し興味ある智識の一つなのである。こゝには明治十年以來の趨勢を表はしたが、其の種類はともかく、ともに昇天の勢を以て進んで來たことは、國の欣幸とせねばならぬ。中にも最も異數なものは石炭であつた。大正六年一四〇、〇〇九、五九一圓とあつたのが當時の世界的需要の結果、七年二八六、〇三二、四九八圓、八年の如きは實に四四二、五四〇、九四一圓と算せられ、九年も尙四億一千八百萬圓を持續したことは、正に採炭史を飾る近世の出來事といはねばなるまい。石油も亦圖の如き目覺しい發達を遂げた。金を除いては何れも皆大正七、八年の交素晴しい採取が金額の上に見られたのである。鐵、亞鉛の如きは戰時の必需品であるから無理もないが、錫までがこの年擡頭したのである。金は最も額の多いもので、割合に少量でも國內首位の鑛產物として順調に進んだことは、會社數に比して純益金の最も多いことで知られる。鑛夫數も金は石炭の四分一にも足らぬのであつた。女工に至つては實に五十分一弱の從事者であり乍ら純益一四、八四一、五二四圓を上げたのである。これに比べると石炭はその純益七、四〇七、七八一圓に過ぎなかつた。

我國鑛産額累年比較

主要鑛産品別

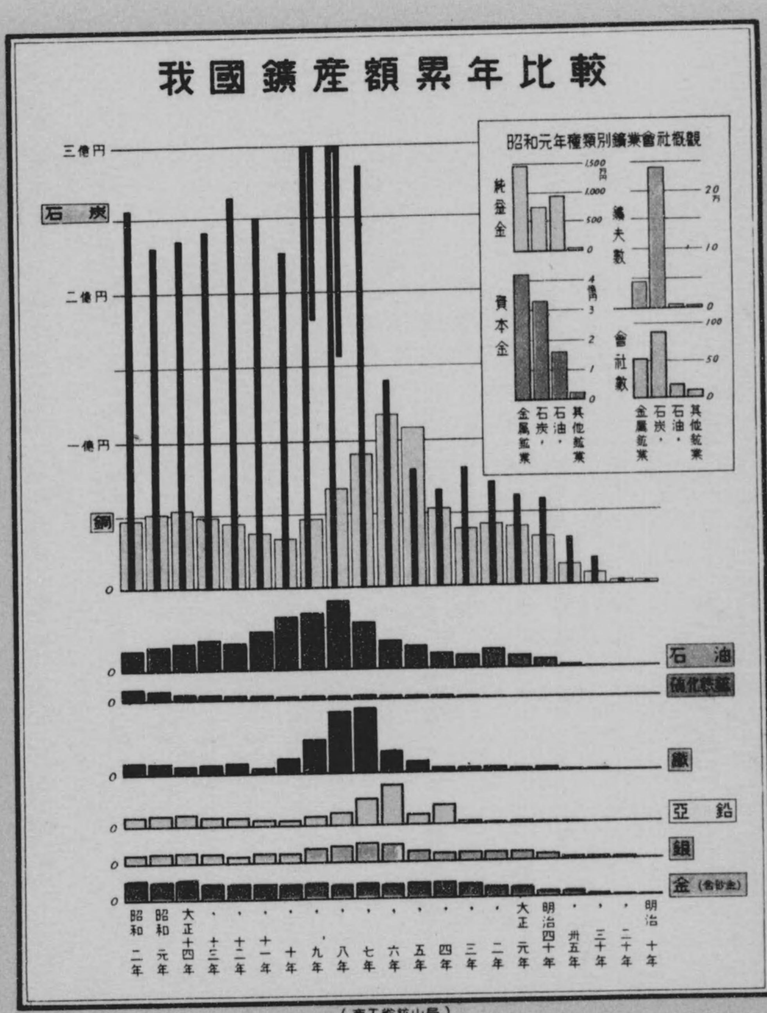
（單位圓）

年次	金（含砂金）	銀	銅	亞鉛	鐵	硫化鐵鑛	石炭	石油
明治十年	233.768	448.607	1.432.372	——	134.974	——	1.036.490	80.305
明治二十年	367.401	1.449.949	2.419.499	——	310.684	——	3.077.010	126.298
明治三十年	1.198.779	1.911.160	7.831.940	——	1.002.054	32.214	18.993.843	348.219
明治三十五年	3.967.590	1.936.752	13.742.941	——	1.194.473	28.242	32.340.580	2.077.840
明治四十年	3.868.755	4.040.431	32.467.871	321.543	2.634.730	202.947	59.961.264	5.218.737
大正元年	6.799.072	5.896.084	40.252.061	1.068.134	2.097.302	436.592	61.412.837	8.377.073
大正二年	7.252.000	5.635.124	42.012.126	857.179	3.427.072	589.927	70.956.121	12.498.506
大正三年	9.398.449	5.370.278	39.067.387	1.651.370	3.656.745	600.605	80.350.387	9.631.049
大正四年	10.804.546	5.287.624	53.731.798	13.313.365	3.795.654	379.619	65.068.894	10.070.820
大正五年	10.412.845	7.135.060	109.812.610	27.398.817	7.513.134	767.391	80.625.532	15.232.384
大正六年	9.387.647	11.946.403	118.692.244	27.032.556	14.922.119	1.040.735	140.009.591	19.828.021
大正七年	10.242.591	12.622.005	90.390.232	17.730.927	44.391.697	1.083.842	286.032.498	31.855.215
大正八年	9.681.494	11.131.055	67.581.475	8.145.244	42.300.776	1.827.731	442.540.941	45.417.532
大正九年	10.294.583	9.865.435	47.577.402	6.469.290	23.415.995	2.498.498	418.073.754	38.071.366
大正十年	9·719.563	5.501.299	33.046.934	3.631.935	10.023.002	1.334.587	227.674.056	35.748.241
大正十一年	10.012.660	5.636.903	37.427.163	4.069.219	4.826.870	2.294.549	250.915.845	26.346.551
大正十二年	10.209.068	4.862.401	44.345.682	5.062.910	7.860.605	2.992.297	265.694.363	18.883.443
大正十三年	10.599.262	5.700.205	48.541.691	5.554.640	6.731.120	3.030.076	241.614.059	20.093.909
大正十四年	13.154.961	6.823.629	53.467.966	7.990.468	5.898.201	4.212.277	236.828.364	17.519.122
昭和元年	12.767.161	6.023.840	50.766.711	7.162.757	7.728.294	5.937.861	231.042.229	15.657.710
昭和二年	13.170.699	5.452.844	47.888.858	6.157.601	8.199.453	7.373.481	257.280.705	13.257.575

昭和元年種類別鑛業會社及鑛夫

種別	會社數	資本金	純益金	鑛夫數 男	鑛夫數 女	計
金屬鑛業	53	413.005.550円	14.841.524円	40.141人	5.515人	45.656人
石炭鑛業	88	319.915.000	7.407.781	179.427	59.740	239.167
石油鑛業	17	159.200.000	9.243.064	5.485	404	5.889
其他ノ鑛業	10	11.725.000	540.697	4.497	420	4.917
計	168	903.845.550	320.330.066	229.550	66.079	295.629

註（商工省鑛山局調「昭和二年本邦鑛業ノ趨勢」ニ據ル）



（商工省鑛山局）

我國鑛産額累年比較

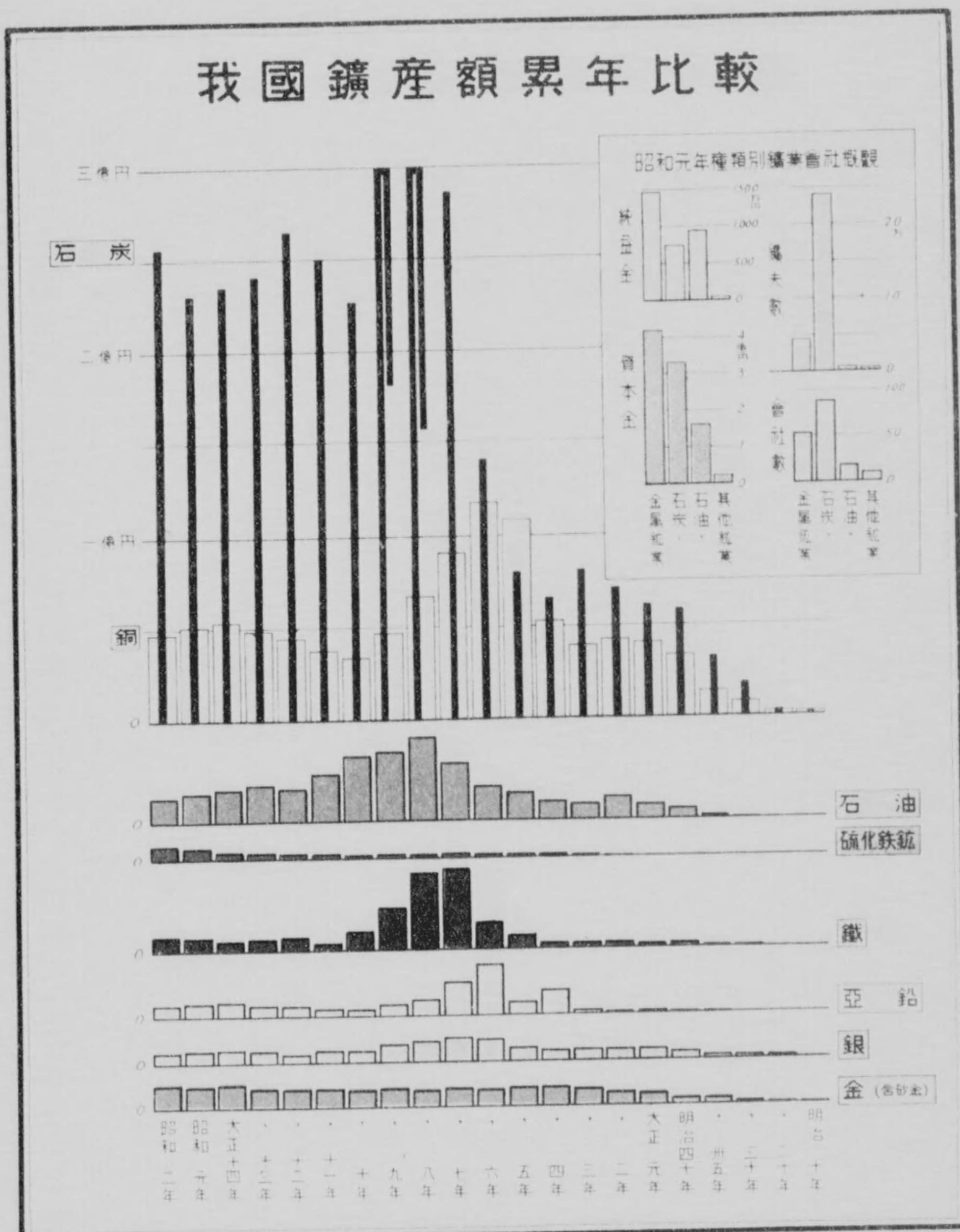
主要鑛産品別　單位圓

年次	金(含砂金)	銀	銅	亞鉛	鐵	硫化鐵鑛	石炭	石油
明治十年	233,768	418,607	1,432,372	—	134,974		1,036,490	80,305
明治二十年	567,401	1,449,949	2,419,499	—	210,684		3,077,010	126,298
明治三十年	1,198,779	1,911,160	7,831,940	—	1,002,054	22,214	18,993,843	348,219
明治三十五年	3,967,590	1,936,752	13,742,941	—	1,194,473	28,242	32,340,580	2,077,840
明治四十年	3,868,755	4,040,431	32,467,871	321,543	2,634,730	202,947	59,961,264	5,218,787
大正元年	6,799,072	5,896,084	40,252,061	1,068,134	2,097,302	436,592	61,412,837	8,377,073
大正二年	7,252,000	5,635,124	42,012,126	857,179	3,427,072	589,927	70,956,121	12,498,506
大正三年	9,398,449	5,370,278	39,067,387	1,651,370	3,656,745	600,605	80,350,387	9,631,049
大正四年	10,804,546	5,287,624	53,731,798	13,313,365	3,795,654	379,619	65,068,894	10,070,820
大正五年	10,412,845	7,135,060	109,812,610	27,398,817	7,513,134	767,391	80,625,582	15,222,384
大正六年	9,387,647	11,946,403	118,692,244	27,032,556	14,922,119	1,040,735	140,009,591	19,828,021
大正七年	10,242,591	12,622,005	90,390,232	17,730,927	44,391,697	1,083,842	283,032,498	31,855,215
大正八年	9,681,494	11,131,055	67,581,475	8,145,244	42,300,776	1,827,731	442,540,941	45,417,532
大正九年	10,294,583	9,865,435	47,577,402	6,469,290	23,415,995	2,498,498	418,073,754	38,071,366
大正十年	9,719,563	5,501,299	33,046,934	3,631,935	10,023,002	1,334,587	227,674,056	35,748,241
大正十一年	10,012,660	5,636,903	37,427,163	4,069,219	4,826,870	2,294,549	250,915,845	26,346,551
大正十二年	10,269,068	4,862,401	44,345,682	5,052,910	7,860,605	2,902,297	265,694,963	18,883,443
大正十三年	10,599,262	5,700,205	48,541,691	5,554,640	6,731,120	3,030,076	241,614,059	20,093,909
大正十四年	13,154,963	6,823,629	53,467,966	7,990,468	5,898,201	4,212,277	236,828,364	17,519,122
昭和元年	12,767,161	6,023,840	50,766,711	7,162,757	7,728,294	5,937,861	231,042,269	15,657,710
昭和二年	13,170,699	5,452,841	47,888,858	6,157,601	8,199,453	7,373,481	257,280,705	13,257,575

昭和元年種類別鑛業會社及鑛夫

種別	會社數	資本金	純益金	鑛夫數 男	鑛夫數 女	計
金屬鑛業	53	413,005,550	14,841,524	40,141	5,515	45,656
石炭鑛業	88	319,915,000	7,407,781	179,427	59,740	239,167
石油鑛業	17	159,200,000	9,243,064	5,485	404	5,889
其他ノ鑛業	10	11,725,000	540,697	4,497	420	4,917
計	168	903,845,550	32,033,066	229,550	66,079	295,629

註 (商工省鑛山局編 昭和二年本邦鑛業ノ趨勢 ニ據ル)



(商工省鑛山局)

我國工場災害概況

人の密集する工場には必然的に災害を豫防する施設は常に考へられて居るが、それでも得て突發する災禍の爲めに、死傷の痛ましい惨事の數が、今に尚その跡を絶たぬのである。工場内部の相違に依つてその災害の種類、男女工別等はあるが、要すると主として建物を損ずるものは火災であつた。火災は他の損壞、爆發よりは毎にその數が多く、今大正七年より見るも二二二件を始めとして十年二七一件、十四年二六六件となり、損壞の最多十年の八六件、爆發の同上二二件に比していかに多いかゞ分明し、又汽鑵の破裂なども決して輕視すべからざることが明かになる。工業別では機械器具の男工死者四七人、傷者五六人、が殊に注意せられ、染織の傷者三一二人、死者五八人が之に亞ぐも、この方では死者が多く、それに染織では女工が數多いところから死者一八人を示して居り。傷者も一一八人からあつた。之を綜括して大正七年以來の數を、年序に推算すると、七年は男女の重傷一、二二六人、死者二五一人が以後にも珍しいほどの大數であつて、九年男工の傷者一、一二八人、十四年一、一七二人と少しも減少せぬのみか、男女の死者も相當にあつた。但し十二年關東震災に依る數字は、これから除去せらるべきものである。

我國工場災害ノ概況

職工死傷者數

年次	重傷		死者		計	
	男	女	男	女	男	女
	人	人	人	人	人	人
大正七年	1,226	99	251	25	1,477	124
大正八年	993	78	213	11	1,206	89
大正九年	1,128	112	254	17	1,382	129
大正十年	941	104	219	15	1,160	119
大正十一年	1,030	120	211	11	1,241	131
大正十二年	1,000	105	178	11	1,178	116
大正十三年	994	98	166	8	1,160	106
大正十四年	1,172	129	215	24	1,387	153

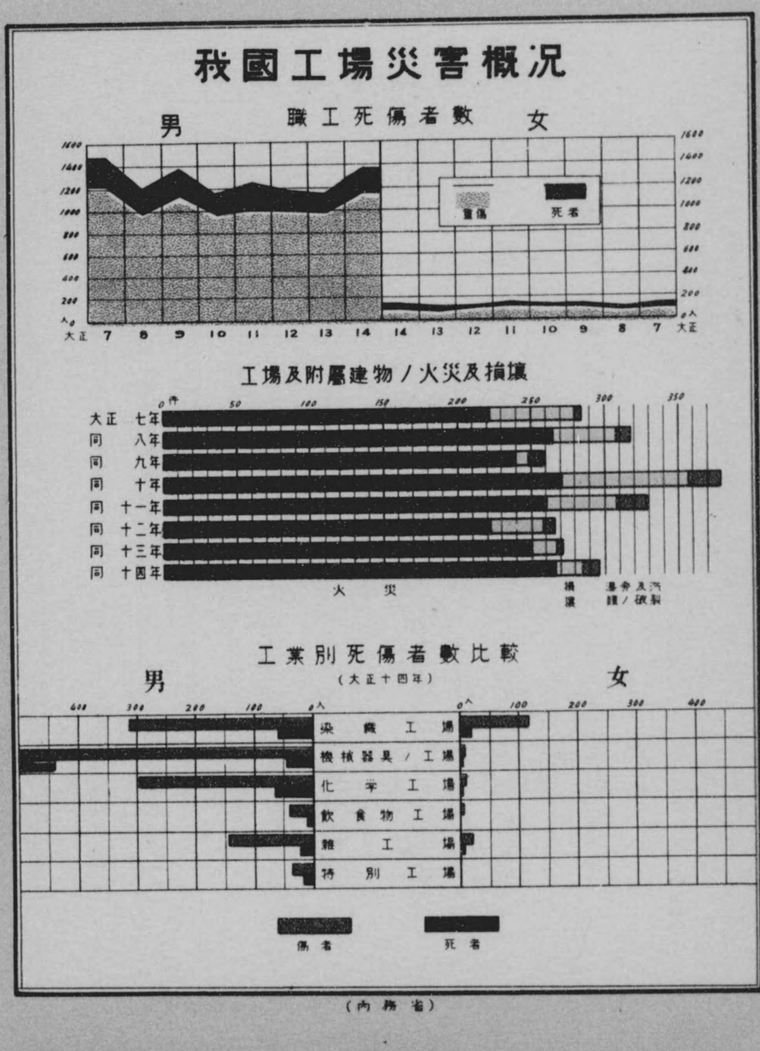
工場及附屬建設物ノ火災及損壞

年次	火災	損壞	爆發及汽罐ノ破裂	計
	件	件	件	件
大正七年	222	57	5	284
大正八年	265	42	10	317
大正九年	239	9	11	259
大正十年	271	86	22	379
大正十一年	260	48	21	329
大正十二年	222	37	7	266
大正十三年	250	17	4	271
大正十四年	266	18	12	296

工業別死傷者數比較

工業別	男工		女工	
	傷者	死者	傷者	死者
	人	人	人	人
染織工場	312	58	117	18
機械及器具工場	560	47	7	1
化學工場	296	66	9	1
飲食物工場	40	10	5	—
雜工場	145	24	15	4
特別工場	34	14	—	—
計	1,387	215	24	24

註（社會局勞働部調査「工場監督年報」ニ據ル）



我國工場災害ノ概況

職工死傷者數

年次	重傷 男	重傷 女	死者 男	死者 女	計 男	計 女
	人	人	人	人	人	人
大正七年	1,226	99	251	25	1,477	124
大正八年	993	78	213	11	1,206	89
大正九年	1,128	112	254	17	1,382	129
大正十年	941	104	219	15	1,160	119
大正十一年	1,030	120	211	11	1,241	131
大正十二年	1,000	105	178	11	1,178	116
大正十三年	994	98	166	8	1,160	106
大正十四年	1,172	129	215	24	1,387	153

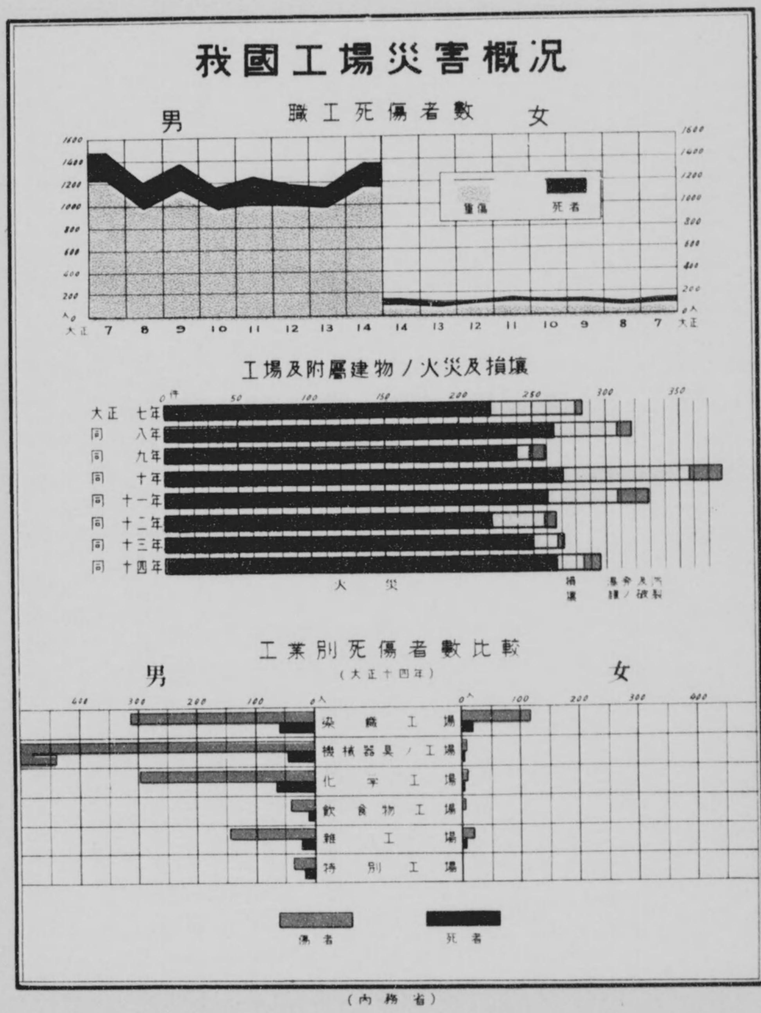
工場及附屬建設物ノ火災及損壞

年次	火災	損壞	爆發及汽鑵ノ破裂	計
	件	件	件	件
大正七年	222	57	5	284
大正八年	265	42	10	317
大正九年	239	9	11	259
大正十年	271	86	22	379
大正十一年	260	48	21	329
大正十二年	222	37	7	266
大正十三年	250	17	4	271
大正十四年	266	18	12	296

工業別死傷者數比較

工業別	男工 傷者	男工 死者	女工 傷者	女工 死者
	人	人	人	人
染織工場	312	58	117	18
機械及器具工場	560	47	7	1
化學工場	296	66	9	1
飲食物工場	40	10	5	—
雜工場	145	24	15	4
特別工場	34	14	—	—
計	1,387	215	24	24

註（社會局勞働部調査「工場監督年報」ニ據ル）



（內務省）

普通職工一人一日實收賃金別工場數

特殊工業に屬する技術者は第二として、茲に普通職工の一日一人に對する實收賃金を巨細に列擧したのであるが、これは目下我が國に於ける上下職工の實況と、其の生活樣式を想察すべき重要な根本資料ともなるべきもので、大正八年以來の工場總數と比較して、深く注意すべき一事項であつた。男工の女工よりは實收額で秀れて居る事は言ふ迄もないが、男工の一日一圓五十錢以上二圓未滿と云ふのが最も多く、女工の六十錢以上八十錢未滿とともに其の中堅處となつて居るのは、考究すべき點であらうと思ふ。この男女は大正八年に一二、五三九人、十一年一三、二七〇人、昭和元年一四、八一一人となり、工場數も殖ゑては居るが、女工のともすると差異あるものと比べてはよい傾向であつた。尤もこれ迄になるには年序を要することで、一圓二十錢以上一圓五十錢未滿といふのが二位であつた。女工は八十錢以上一圓未滿といふのが次に在つて、金額の多寡が恰も顚倒して次位となつて居るのである。女工は普通從事でも別に特典はあるが、男工の方は單に實收以外には勤勞に對する別途收入もない譯ではなく、この表の前後を通觀して、更に消費の縮少を圖る正しい方法を、一致して考究する必要のあること勿論である。

普通職工一人一日實收賃金別工場數

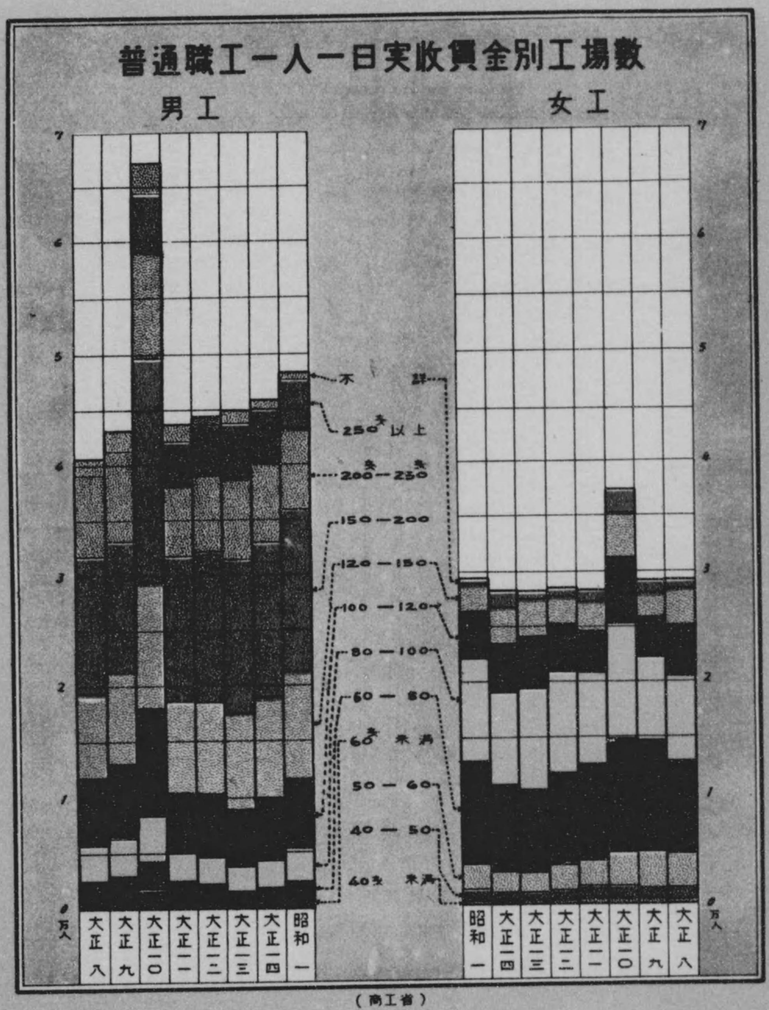
男工

種別＼年次	大正八年	大正九年	大正十年	大正十一年	大正十二年	大正十三年	大正十四年	昭和元年
工場總數	40.533	43.141	67.217	43.500	44.335	44.935	45.956	48.351
五十錢未滿	269	317	582	332	211	144	129	263
五十錢以上六十錢未滿	623	569	1.252	582	578	402	401	492
六十錢以上八十錢未滿	1.841	2.122	2.657	1.585	1.320	1.088	1.272	1.519
八十錢以上一圓未滿	3.336	3.558	4.202	2.726	2.605	2.257	2.506	3.092
一圓以上一圓二十錢未滿	6.248	6.636	9.740	5.471	5.740	5.289	5.604	6.364
一圓二十錢以上一圓五十錢未滿	7.897	8.566	11.640	8.450	8.457	8.781	9.342	9.880
一圓五十錢以上二圓未滿	12.539	12.004	20.685	13.270	13.596	14.112	14.271	14.811
二圓以上二圓五十錢未滿	7.409	8.383	9.519	6.595	7.105	7.520	7.519	7.368
二圓五十錢以上	——	——	5.160	4.077	4.368	5.027	4.771	4.427
不詳	371	986	1.780	412	355	315	141	135

女工

種別＼年次	大正八年	大正九年	大正十年	大正十一年	大正十二年	大正十三年	大正十四年	元年昭和
工場總數	29.122	29.048	37.416	28.152	28.483	28.220	28.251	29.340
三十錢未滿	119	100	168	114	118	90	59	63
三十錢以上四十錢未滿	471	449	548	586	383	295	289	476
四十錢以上五十錢未滿	1.064	1.268	1.108	1.157	932	707	749	1.008
五十錢以上六十錢未滿	3.036	3.296	3.053	2.443	2.230	1.858	1.836	2.222
六十錢以上八十錢未滿	8.630	10.097	10.512	8.758	8.246	7.691	8.113	9.526
八十錢以上一圓未滿	7.545	7.495	10.492	8.376	9.106	9.131	9.279	9.105
一圓以上一圓二十錢未滿	4.742	3.588	6.026	3.800	4.496	4.888	4.606	4.333
一圓二十錢以上一圓五十錢未滿	2.340	2.208	2.730	1.678	1.771	2.121	2.118	1.626
一圓五十錢以上	——	——	1.498	885	932	1.183	1.052	839
不詳	275	547	1.281	355	269	256	150	142

註（商工省調査「工場統計表」ニ據ル）



（商工省）

普通職工一人一日實收賃金別工場數

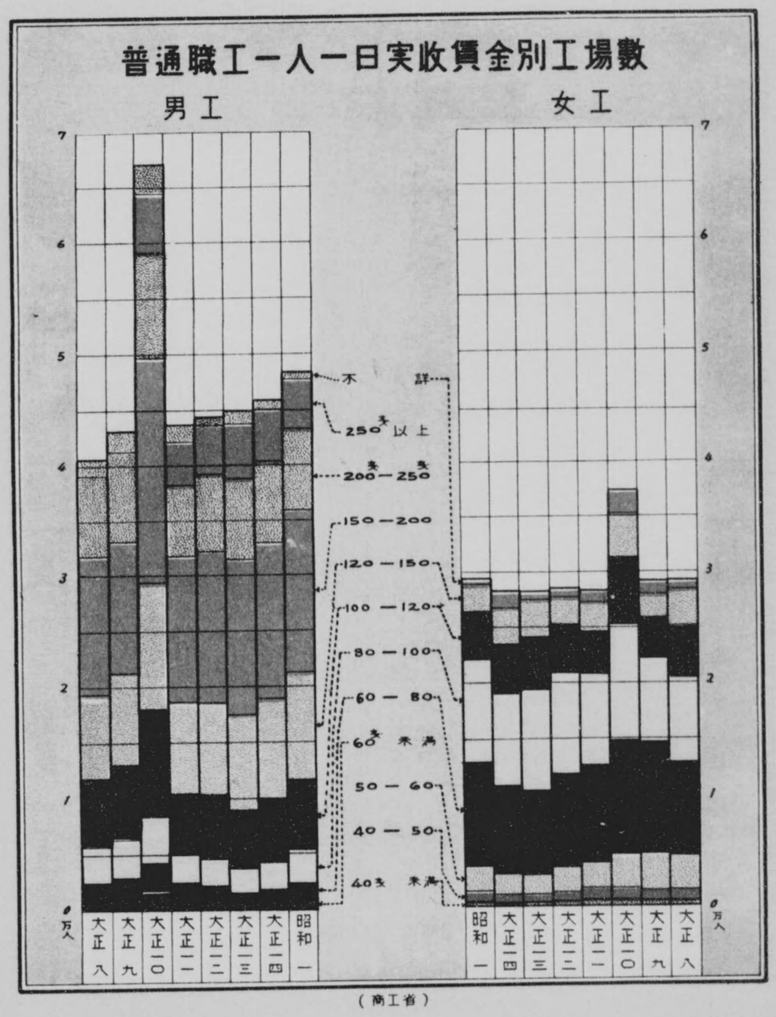
男　工

種別＼年次	大正八年	大正九年	大正十年	大正十一年	大正十二年	大正十三年	大正十四年	昭和元年
工場總數	40,533	43,141	67,217	43,500	44,335	44,935	45,956	48,351
五十錢未滿	269	317	582	332	211	144	129	263
五十錢以上六十錢未滿	623	569	1,252	582	578	402	401	492
六十錢以上八十錢未滿	1,841	2,122	2,657	1,585	1,320	1,088	1,272	1,519
八十錢以上一圓未滿	3,336	3,558	4,202	2,726	2,605	2,257	2,506	3,092
一圓以上一圓二十錢未滿	6,248	6,636	9,740	5,471	5,740	5,289	5,604	6,364
一圓二十錢以上一圓五十錢未滿	7,897	8,566	11,640	8,450	8,457	8,781	9,342	9,880
一圓五十錢以上二圓未滿	12,539	12,004	20,685	13,270	13,596	14,112	14,271	14,811
二圓以上二圓五十錢未滿	7,409	8,383	9,519	6,595	7,105	7,520	7,519	7,368
二圓五十錢以上	——	——	5,160	4,077	4,368	5,027	4,771	4,427
不詳	371	986	1,780	412	355	315	141	135

女　工

種別＼年次	大正八年	大正九年	大正十年	大正十一年	大正十二年	大正十三年	大正十四年	元年昭和
工場總數	29,122	29,048	37,416	28,152	28,483	28,220	28,251	29,340
三十錢未滿	119	100	168	114	118	90	59	63
三十錢以上四十錢未滿	471	449	548	586	383	295	289	476
四十錢以上五十錢未滿	1,064	1,268	1,108	1,157	932	707	749	1,008
五十錢以上六十錢未滿	3,036	3,296	3,053	2,443	2,230	1,858	1,836	2,222
六十錢以上八十錢未滿	8,630	10,097	10,512	8,758	8,246	7,691	8,113	9,526
八十錢以上一圓未滿	7,545	7,495	10,492	8,376	9,106	9,131	9,279	9,105
一圓以上一圓二十錢未滿	4,742	3,588	6,026	3,800	4,496	4,888	4,606	4,333
一圓二十錢以上一圓五十錢未滿	2,340	2,208	2,730	1,678	1,771	2,121	2,118	1,626
一圓五十錢以上	——	——	1,498	885	932	1,183	1,052	839
不詳	275	547	1,281	355	269	256	150	142

註（商工省調査「工場統計表」ニ據ル）



（商工省）

我國工業ニ關スル同業組合一覽

工業に關する組合を、同業組合、同業組合聯合會の二つに分けて、大正八年から昭和二年までの總數並に經費の各年度に於ける豫算と決算とを見來ると、目今我が國の組合組織中、工業界の狀態が一段と分明するであらうと思ふ。同業組合は數に於てさしたる增減を示さず、大正八年六〇三とあつたものが、昭和元年六三五、二年六四二、かやうな程度に增すのみであつた。組合員數には少なからぬ上下あつて、八年の四一五、二七八人が十年四四七、九九九人となり、以後はこの十年の數に及ばぬのである。これから推すと一組合當の人員も一千人少し餘を上下する位であつた。この年序に關する經費は決して鮮少ではなかつた。豫算と決算との比率が、その差を以て臨むこと圖の如きものありとすれば、卽ちその反面には當然世相の生活と工產の結果とが、歷々映寫して來るのであつて、之は同業組合聯合會にも表はれて居る。同業組合に比べては實に少數であつて、昭和三年三〇に達して未だ之よりは多くならぬが、經費の豫算では八年以來昂騰した。昭和元年の如きは豫算平均二七、四三六圓、決算平均では一〇、一五五圓を示して居る。これを中軸として尙將來を想ふに足りるであらう。

我國工業ニ關スル同業組合一覽

同業組合

（單位圓）

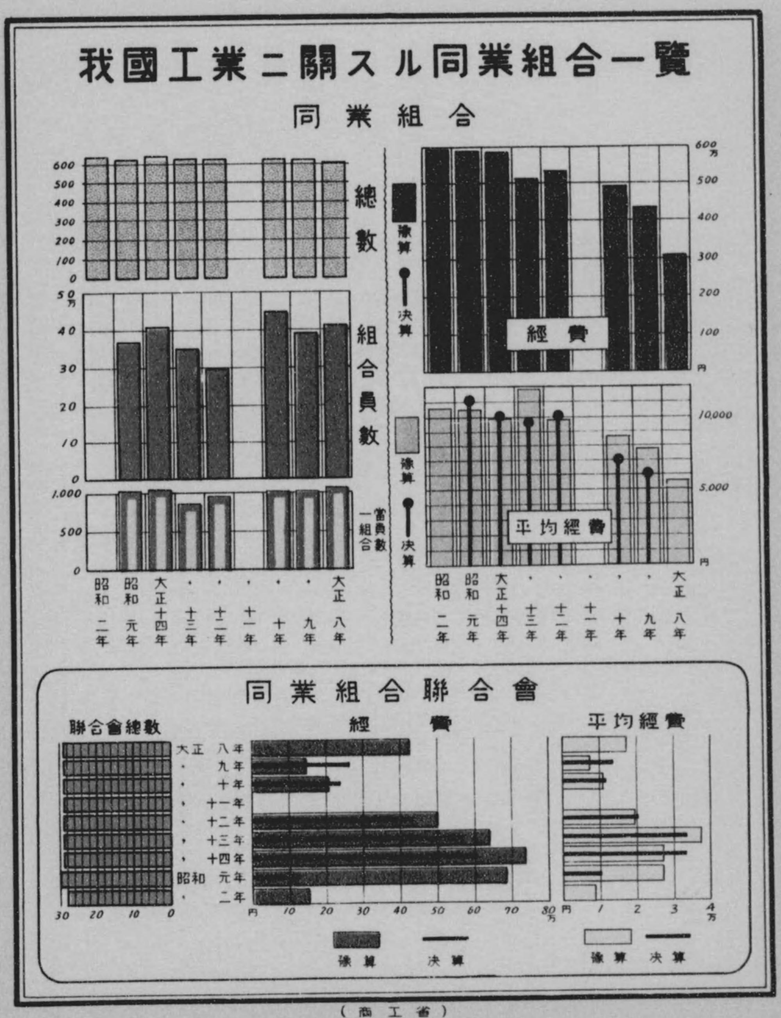
年次	總數	經費豫算	平均豫算	經費決算	平均決算	組合員數	一組合當員數
大正八年	603	3,073,535	5,692	——	——	415,278	1,079
大正九年	623	4,343,285	7,897	3,405,733	6,106	394,128	1,011
大正十年	625	4,919,347	8,707	3,082,226	7,005	447,999	1,016
大正十一年	——	——	——	——	——	——	——
大正十二年	629	5,294,902	9,805	3,232,448	10,039	299,330	950
大正十三年	631	5,127,077	11,814	4,168,454	9,785	352,748	862
大正十四年	646	5,848,303	9,946	4,020,080	10,152	410,506	1,055
昭和元年	635	5,874,180	10,527	4,342,437	11,163	370,239	1,028
昭和二年	642	5,953,634	10,669	——	——	——	——

同業組合聯合會

（單位圓）

年次	聯合會總數	豫算		決算	
		經費	平均	經費	平均
大正八年	29	426,083	17,043	——	——
大正九年	29	145,076	7,636	264,052	13,897
大正十年	29	204,234	10,749	240,162	11,436
大正十一年	29	——	——	——	——
大正十二年	29	499,052	19,962	436,863	20,803
大正十三年	29	639,610	37,624	569,014	33,471
大正十四年	29	737,936	27,330	603,341	33,519
昭和元年	30	685,906	27,436	121,868	10,155
昭和二年	28	151,781	8,432	——	——

註（商工省調査「商工省統計表」ニ據ル）



（商工省）

編輯後記

交詢

○今の日本の工業界を、表裏から知るべき資料として、本輯を本邦工業の概観號としてお頒ち致すことにしたのであります。これは單にその事業に屬する一切の事情を、明かにしようとする外に、も一つ深い必然的なものゝあるのを、主題としたものでありますから、御通覽下さるうち、至らぬながら解題をも御讀み下さると、その微衷のあるところが、少しでも御了解を頂くことが出來るかと存じます。

○日本工業の趨勢は、定められた宿命以外に、もつと進展すべき可能性のあることは勿論でありますが、只、果して生産に從事する人々が一日幾何の賃金を以て幾何の仕事をする、そしてその手足の投する處に、いかなる影響が生ずるか、又自らの事業の傳統的性質が、どんな位置で終始して來たかを、少しでも考へ且つ眞面目にいそしむか否か、卽ち簡單に言を換へると、內外成人の上に、よい職工としての教育があつたかどうかを、先づ以て知りたい、知つて將來の成否を豫測したいといふのが、實はこの輯の眼目なのでありました。

○或はこれは急激に變化を續けて來た我が國の工業、否獨り工業ばかりでなく、諸多の事業の世界に、求めて知らんとするのは、無理な問題かも知れません。殊に小さな工業から大きな組織に上つて移らんとする度毎に、常に大なる刺戟を與へられ、それが未だ整理の完了せぬ前に、又元の李阿彌に戻つてしまふといふ風の多い事業は、遂に單純な世の成行にばかり任せられて、どうしても生産組織の上に確固たる信念が置けなかつた。かうした調子で來たものですから、さて一段と潛入して職工の情景を望んで眺めるといふことは、何を期待せねばならぬかは、云ふ迄もないことでせう。○もとより與へられた仕事を、その日の內にやつてしまふ、それだけの賃金を與へられ、受けてしまへば、事はそれで結局になる。かやうな考へがいつ迄も脫却せぬのでは正しい生産の組織と美しい友愛と、これから生ずる目覺しい能率とが、なか〳〵騰らないのであります。今では、まさか資本主と雇庸者との關係ばかりに終始して居るのみでもないでせう。恐らく世人のあまり注意せぬ間に、それ〴〵立派な組織を考究し、實行して居るのもありませう。然しながら我々の申すのは、國の生産を司るところの大中小、男女おしなべての工業關係にある一般人のことなのです。これはどん

なものでありませうか。

○申す迄もなく、これだけはまだ〳〵遺憾が多いことなのです。世の景況の上下降落に依つていつも工人の生活に不安が浮動する、一面止むを得ない事情でもあり、又この根本は国すに國の經濟事情の安定に俟たねばならぬものであるのは無論でありますが、第一に日常手足を凍々と振つて働く人の先づ頭腦が、果してどれだけの覺悟を以てこれに臨んでゐるものかを、耳を澄して聽きたいと思ふのであります。若し本輯を御覽になつた上、尚格段のお思ひ付きを、この欄へ御助援を賜はるならば幸ひと存じます。主旨としてはどうしてもこの不安の現狀を瞬時も迅く取去りたい、そして日本の工業を今からずんと思ひ切つて引上げたい。それにはやはり職工の職業過程に關するあらゆる方法を考究したい、又それにはどうしても現時の實際を、出來るだけ詳細に羅列せねばならぬ、といふ一點に止まるものであります。

○それに國内の生産を、海外へ持ち出して、よりよき繁榮を來さんとする矢先、どうも毎々遺憾の多いことが生ずるのは何とも言はれぬ痛恨事と存じます。手近い例はこの頃の對支貿易、就中工業界に影響のある出來事などであります、濟南に發した事件から、支那は例の日貨排斥がいつよりも濃厚に引きつゞいて居ると、それにつけ込んで虎視眈々の英國がそろ〳〵と實力を進める、獨逸の勃興力が支那に擴張する、露國が注目を始める、といふ工合で、單に思惑ではなくて、その結果は遂にこの頃の貿易額の沈滯に表はれて參りました。悲ろしいことなのです。仔細に申せば限りもないが我國としては憂へざるを得ないのです。何としてこの實狀を打破したものか、卽ち國の上下は、對岸の火災視することなく、常に注目して前後策を講せねばならぬと思ひます。

○さて本輯で實に二卷十一輯となりました。殘りの十二輯でもはや二卷が終了するのですが、本會は既往の苦しい經驗と、皆さまの御同情とを以て本年度は面目を一新したる計畫を、只今考へつゝあるのでありまして、詳しいことは次號に發表致しますがこの計畫を實現するにしましても、その根本はどうしても皆樣の會員としての繼續御申込に俟たねばなりませぬ。どうぞ相變らず御後援を御願する次第であります。

○終りに皆さまの御幸慶を祈ります。

昭和三年三月

日本統計普及會編輯部

昭和四年三月五日印刷
昭和四年三月八日發行

不許複製

編輯兼發行人　東京市本鄉區元町二丁目四十一番地　日本統計普及會　代表者　内山善三郎

印刷者　東京市本鄉區元町二丁目四十一番地　内山模型製圖社印刷部　村上紅一

發行所　東京市本鄉區元町二丁目四十一番地　日本統計普及會　電話小石川二三九三番